

龜山貞義檢閱

現
行
違
敬
言
罪
註
解
全

東京富岡門前

巡查屯所藏版

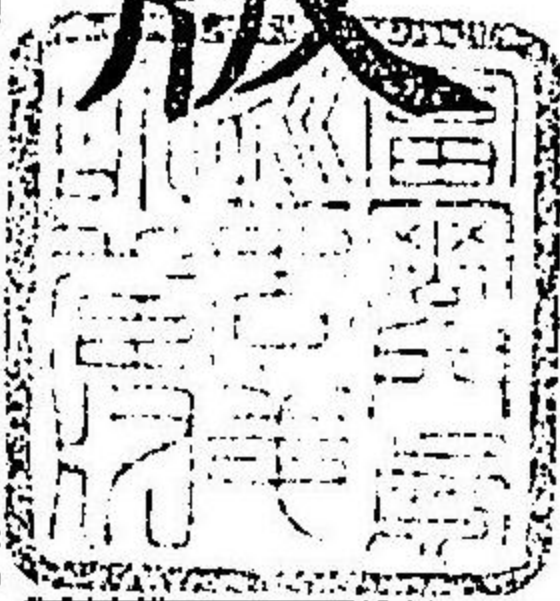
特14
549

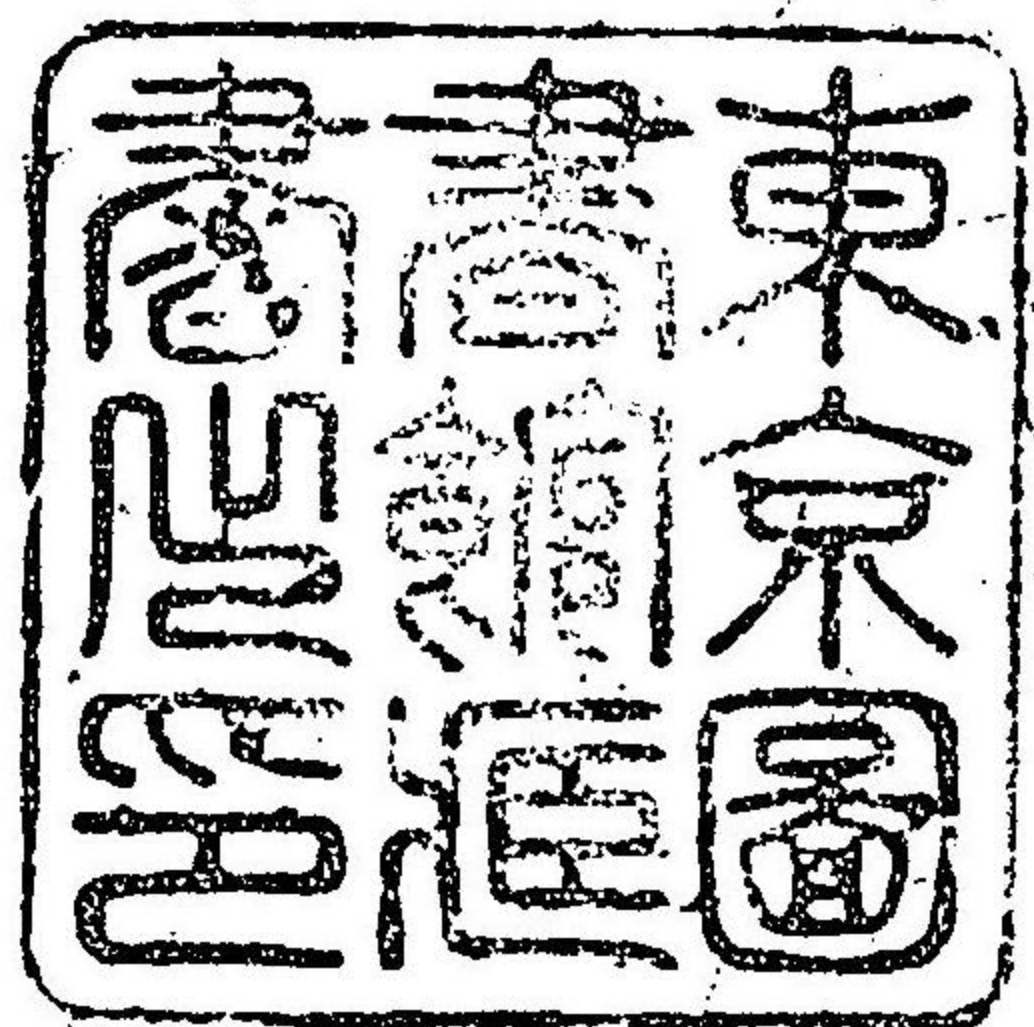
龜山貞義檢閱

敬言罪註解全

東京富岡門前

巡查屯所藏版





法律者其意深遠而解之最難施之亦不容易也矣雖然如
彼違警罪者其罪輕小隨而其理最雖易見亦不可附輕忽
焉殊巡查之看認於現行犯而爲於引致或告發者以於違
警罪犯爲最多則使所員某編纂於違警罪注解以而聊欲
希圖於便益幸諒予微意

富岡門前巡查屯所長

明治十五年二月

巡查長勳七等坂口繁輔述

凡例

一 此書ハ甲乙二篇ニ分チ甲ニハ則チ刑法第四編違警罪ヲ載セ乙ニハ則チ警視廳違警罪目及ヒ違警罪犯治罪手續ニ關スル布告其他ノ達等ヲ載スルモノトス

一 此書ハ前ニ云フ所ノ違警罪ヲ注解シタルモノニシテ各條首メニ其條ノ性質ヲ説キ次キニ其理由及ヒ疑義ヲ解キ其他參考トナルヘキモノハ之ヲ參照ト題シテ條末ニ登記シ尙其中疑點アルハ一々之ヲ參照ト明解セリ蓋シ公布諸達ハ改正追加刪除等沿革屢々ニシテ日ニ増シ月ニ多ク編者モ亦頗ル取捨ニ惑フ况シテ成功ヲ要スルノ急ナル固ヨリ其疎漏ナキヲ保チ難シ看者幸ヒニ之ヲ諒セヨ

一 參照ニ掲ケタル布告諸達中改正追加増補等ニ係ルモノハ本文ニ勾乙チテ付シ脚註括弧ヲ以テ其達ノ年月日及番號ヲ記載シ其刪除ニ係ルハ本文ヲ登記セ

大唯剛除トシテ脚註ニ其達ノ年月日及番號ヲ記載
スルモノトス

明治十五年二月

編者識

行現 違警罪注解甲編

龜山貞義檢閱

富岡門前巡查屯所編輯

刑法第四編

違警罪

違警罪ト重輕罪トノ區別

〔解〕

刑法第一條ニ曰ク凡ソ法律ニ於テ罰スヘキ罪分
テ三種ト爲ス一重罪二輕罪三違警罪ト此編ハ則
チ第三項違警罪ノ種類ヲ掲クルモノナリ而シテ其
重罪輕罪ニ在テハ之ヲ二編ニ分チ一チ公益ニ關ス
ル罪トシ〔刑法第二編ニ掲ク〕一チ身體財産ニ對スル
罪トシ〔刑法第三編ニ掲ク〕之ヲ十一章五十二節ニ分
ツト雖モ重罪ト輕罪トハ各別ニ編チ分チサルナリ
然ルニ此違警罪ニ限リ特別ニ編チ分チタルハ何ソ
ヤ且ツ夫レ違警罪ト雖モ亦公益ニ關スル罪ナキニ

非又身體財產ニ對スル罪ナキニ非ス故ニ彼ノ重罪輕罪ノ如ク區別シ能ハサルニ非スト雖此罪タル稍他ノ犯罪ト趣キテ異ニシ多クハ罪ヲ犯スノ故意アルニ非ス其成立タル多少有害ノ事實アルニ過キス故ニ其罪タル極メテ輕ク從テ其刑モ亦輕カラサルヲ得ス則チ之ヲ分ツモ僅ニ數等ニ出テサルヲ以テ之ヲ重罪輕罪ニ混記シ其煩雜ヲ致サシヨリハ寧ロ一編ニ集記スルノ簡便ナルニ如カサルヘシトノ主旨ニ基キタルナラン且ツ海外諸國ノ法典概テ此簡便ヲ取ソリ

違警罪ノ性質

〔解〕

違警罪トハ則チ警察ノ警ニ違フノ罪ニシテ其目的タル廣ク禍害ヲ豫防シ力メテ全土ノ安寧ヲ保存スルニ在ルヲ以テ其關涉スル所極メテ廣ク素ヨリ當任者獨力ノ能クサル所ニ非ラサルナリ是ニ於テ人民公衆ヲシテ俱ニ負擔セシムルノ旨趣ヨリ一

種ノ法律規則即チ此違警罪ヲ制定シ人民ニ命スルニ多少ノ義務ヲ以テス而シテ其義務ニ於ケル或ハ當任者ノ監視ヲ便ニスルアリ或ハ住民一般ノ便益ヲ計リテ設クルモノアリ或ハ不虞ノ禍災ニ備ヘ又ハ犯罪ヲ未成ニ鎮壓スル爲メノモノアリ蓋シ一々之ヲ枚擧スルニ違アラスト雖其要タル天災人殃ヲ論セス之ヲ未然ニ免カル、ヲ以テ目的ト爲スカ故ニ人民一タヒ此義務ヲ怠ルキハ既ニ豫防ノ旨趣ニ背キ禍害ヲ來タスノ端ヲ發クノ惡結果アリトス是ヲ以テ彼第七十七條ノ法則ヲモ適用セズ之ヲ罰スルヤ犯意ノ有無ヲ論セス單ニ警察ノ目的ヲ達スルニ在リトス

違警罪ノ特例

〔解〕

違警罪ノ性質タル固ヨリ他ノ重輕罪ノ比ニ非サルハ既ニ前ニ述ヘタルカ如シ而シテ其刑ノ種類不論罪及宥恕減輕再犯加重數罪俱發正犯從犯未遂

犯附加刑等ノ如キニ至リテハ自ラ他ト異ラサルヲ得ス今ヤ其特例ニ係ル所ヲ略記シ以テ看者ニ便ナラシメントス乃チ特例別テ七ト爲ス

第一 刑ノ種類

違警罪刑ノ種類ハ二種ニ止ル一チ拘留トシ一チ科料トス拘留ハ一日以上十日以下ニシテ定役ニ服セス科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ニシテ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ完納セシム若シ限内ニ完納セサルモノハ一圓チ一日ニ折算シ拘留ニ換フ其一圓ニ滿タサルモノモ一日ニ折算ス

第二 宥恕減輕及不論罪

違警罪ハ滿十六歲以上二十歲ニ滿タサルモノト雖モ其罪チ宥恕スルヲ得ス滿十二歲以上十六歲ニ滿タサル者ハ其犯意是非ヲ辨別シタルト否トニ關セス其罪チ宥恕シテ本刑ニ一等チ減スルノミ(但シ十二歲ニ滿タサル者及ヒ瘡痍者ノ不論罪ハ敢テ異ナルヲナシ)

第三 再犯加重

違警罪ノ再犯モ亦本刑ニ一等チ加フト雖モ一年内再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタルキニ非サレハ罰セサルヲ及ヒ重罪輕罪ノ前後ニ在テ犯スモ再犯チ以テ論セサルヲ

第四 數罪俱發

違警罪二罪以上俱ニ發シタルキハ各其刑チ科スルヲ(但シ重罪輕罪ト俱ニ發シタルキハ一ノ重キニ從フ)

第五 正犯從犯

違警罪ハ現ニ犯シタル者ノミチ罰スルニ付從犯アラサルヲ(但シ第百九條ニ唯重罪輕罪云々トアリテ違警罪ノ一チ云ハサルヲ以テ知ルヘシ)

第六 未遂犯

違警罪ノ未遂犯ハ其罪ヲ論セサルヲ

第七 附加刑

違警罪ノ附加刑ハ沒收ノミノヲ

違警罪ノ種別

〔解〕 違警罪別テ六種ト爲ス

- 第一 三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處スル者
- 第二 二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處スル者
- 第三 一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處スル者
- 第四 一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處スル者
- 第五 五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處スル者
- 第六 一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處スル者

第四百二十五條

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢

以下ノ科料ニ處ス

〔解〕

本條ハ前ニ所謂第一種ノ罪ニシテ以下第五種迄ノ内最モ至重ノ罪トス而シテ其拘留ニ處シ又ハ科料ニ處シ及ヒ期ノ長短ヲ伸縮シ金ノ多寡ヲ増減スルヲ等ハ總テ裁判官ノ權内ニ在リトス

本條三日以上十日以下ノ拘留又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ストアレトモ是レ即チ正則ニシテ其加重減輕スヘキ場合ニ在テハ素ヨリ此正則ノ範圍外ト雖モ出ル能ハサルニ非ラス拘留ハ加ヘテ十二日迄ニ至ルヲ得又減シテ一日迄ニ至ルヲ得科料ハ加ヘテ二圓四十錢迄ニ至ルヲ得又減シテ五錢迄ニ至ルヲ得ナリ

蓋シ減輕ニ在テハ違警罪ト雖モ宥恕減輕ノ外敢テ重罪ト異ルヲナキカ如シト雖モ加重ニ在テハ再犯ノ罪ニ限ルモノナルヲ以テ一等ニ止ルモノトス但本條十四項但書ノ場合ハ之ヲ例外トナスナリ但

書ノ場合トハ何ソヤ曰ク「違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル
 爲メ偽證シ遂ニ其刑ヲ免カレシメタル者即チ是レ
 ナリ此場合ニ在テハ再犯ニ非スト雖モ第二百十九
 條ノ例ニ從ヒ一等ヲ加ヘサルヘカラス故ニ若シ再
 犯此場合ニ當リタルキハ尙ホ一等ヲ加ヘサルヘカ
 ラサルヲ以テ都合二等ヲ加重スルニ至レハナリ
 然レモ其實際ニ於ケル滿二等ヲ加フルコト能ハサル
 場合アリ乃チ拘留ニシテ九日以上科料ニシテ一圓
 六十五錢以上是レナリ今左ニ二三ノ例ヲ掲テ以テ
 解シ易ラシメントス

〔例〕滿二等ヲ加ヘ得ルハ左ノ如シ

- 一 拘留八日ニ當ル時 加二等 十二日
- 一 科料一圓六十錢ニ當ル時 加三等 二圓四
 十錢

〔右ニ掲クルハ加ヘ得ルノ最高點タリ以下倣之〕

- 〔例〕滿二等ヲ加ヘ得サルハ左ノ如シ
- 一 拘留九日ニ當ル時 加二等 十二日

〔四分ノ一ヲ以テ一等トナス時ハ二等ヲ加フル

ハ十三日半タリ然レモ拘留ハ十二日ヲ超ユル
 能ハサルヲ以テ剩ル一日半ヲ除棄シ即チ前掲
 十二日ト爲スカ如シ〕

- 一 科料一圓六十五錢ニ當ル時 加二等 二圓
 四十錢

〔二等ヲ加フルキハ二圓四十七錢五厘タリ然レ
 モ科料ハ二圓四十錢ヲ超ユル能ハサルヲ以テ
 剩ル七錢五厘ヲ除棄シ即チ二圓四十錢ト爲ス
 カ如シ〕

- 一 拘留十日ニ當ル時 加二等 十二日

〔一等ヲ加フルモ十二日半タレハ其半日ハ除棄
 セサルヘカラス然ルニ二等ヲ加フルキハ十五
 日タレハ亦三日ヲ除棄シテ即チ十二日ト爲ス
 カ如シ〕

- 一 科料一圓九十五錢ニ當ル時 加二等 二圓
 四十錢

〔一等ヲ加フルモ二圓四十三錢七厘五毛ヲレハ
 其三錢七厘五毛ハ除棄セサルヘカラス然ルニ
 二等ヲ加フレハ二圓九十二錢五厘タリ是亦五
 十二錢ヲ除棄シテ二圓四十錢ト爲スカ如シ〕
 前例ノ如ク其實加ヘ得サル場合アリト雖モ其名ニ
 於テハ二等ヲ加ヘサルヘカラサルモノトス
 加重ハ則斯ノ如シ其減輕ニ至リテハ〔宥恕減輕ヲ除
 ノ外敢テ異ナルナキ〕既ニ前ニ述ヘタリト雖モ聊
 カ參照ノ爲メ左ニ種別シテ其要領ヲ掲ク
 第一 宥恕減輕
 違警罪ノ宥恕減輕ハ第八十三條ニ「滿十二歲以上
 十六歲ニ滿タサル者其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等
 ヲ減スル是レナリ」
 宥恕トハ何ソヤ曰ク幼者等其智覺未タ全カラサ
 ルモノニシテ之ヲ罰スルニ相當ノ刑ヲ以テシ難
 キ者之ヲ法律上推測シテ宥恕スルモノナリ
 第二 自首減輕

自首減輕ハ第八十五條以下三ヶ條ニ記載シタル
 モノニシテ重輕違警ヲ問ハス事未タ發覺セサル
 前ニ官ニ自首シ若クハ〔財産ニ對スル罪ナレハ〕被
 害者ニ首服シタル者ハ一等又ハ二等ヲ減スル是
 レナリ〔但シ謀殺故殺ハ除ク〕
 自首トハ何ソヤ曰ク自首トハ己レ犯セシ所ノ罪
 ナ自ラ云ヒ出ルノ義ナリ
 且ツ從前ニ在テハ自首スルト雖モ違註ノ罪ハ首
 免ヲ與フルノ限ニ非サリシヲ以テ〔明治十二年三
 月廿日第一方面第一分署長伺指令〕世或ハ論ナキ
 ニ非サルヘシト雖モ新法踐施以來ハ重輕罪ト同
 シ減輕スルヲ得タリ
 蓋シ此自首減輕ヲ設クル所以ハ獨リ犯人悔悟ノ
 意ヲ賞勵スルノ爲メノミナラス其他尙ホ許多主
 要ノ理由アリテノ故ナレハ素ヨリ違警罪ト雖モ
 敢テ他ト異ナルナキハ亦理ノ然ル所ナリ何チカ
 主要ノ理由ト云フヤ曰ク官其犯人ヲ搜索スルノ

煩勞及ヒ費用ヲ省キ日ク犯罪無罰ノ患ヲ防キ日
ク其犯人ヲ得サルカ爲メニ冤罪ニ陥ル者アルノ
患ヲ防ク等是レナリ

第三 酌量減輕

酌量減輕ハ第八十九條第九十條ニ記載スル所ノ
モノニシテ是亦輕重違警ヲ問ハス所犯情狀ニヨ
リ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減スル是レナリ
酌量トハ何ソヤ曰ク酌量ハ他ノ減輕例ト其性質
ヲ相異ニシ凡テ其情事ヲ限ラズ全ク裁判官ノ所
見ニ委スルモノニシテ情狀ノ意義タル頗ル廣ク
其例モ亦數多到底之ヲ一々枚舉スルニ遑アラズ
今其一二ヲ言ハ、先ツ犯人ノ身分ニ就テハ幼老
智鈍教育ノ良否貴賤貧富又其罪ヲ犯スニ至ル原
因ニ付テハ情慾ノ如何其被害者ノ如何又犯罪ノ
時ト所トニ就テハ場合ノ緩急世代ノ治亂土地ノ
風俗等其實際ニ就テ苟クモ原諒スヘキノ情アル
モノハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減スルヲ得ルナリ

蓋シ此酌量減輕ハ立法者ト雖ヒ豫定シカタクモ故
ヲ以テ一々裁判官ノ良心ニ委子タルモノニシテ
勢ヒ止ヲ得サルニ出ルモノナリ

一 規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂スヘキ物品ヲ
市街ニ運搬シタル者

〔解〕

本項火藥其他破裂スヘキ物品ハ人家稠密ノ場所
ニ在テハ實ニ危險少ナカラサルモノナレハ最モ
注意セサルヘカラス故ニ此項只管之ヲ豫防スルノ
主旨ニ出ルモノトス

規則ヲ遵守セスシテ云々○此規則トハ火藥其他危
險物ノ取締ニ係ル規則ヲ云フモノニシテ東京地方
ニ在テハ明治十三年五月十九日警視本署甲第二十
四號布達及ヒ第五十三號達等ノ如キモノ即チ是レ
ナリ例ヘハ火藥ヲ運送スルニハ朱地ニ白字ヲ以テ
火藥ト記シタル標旗ヲ掲クルカ如シ其他破裂スヘ
キ物品トハ破裂彈烟火若クハ氣發油等ノ者ヲ云フ

〔尤モ石油モ破裂スヘキ物品ナレハ此取締ニ係ル規則ハ明治十四年八月十三日第四十號公布ヲ以テ別ニ石油取締規則ト云フヲ制定セラレタルハ刑法第五條ニ所謂他ノ法律規則ニ付此違警罪ヲ以テ罰スルノ限ニ非ラサルナリ〕

市街ニ運搬シタル者〇此市街ノ二字ニ付テハ論ナキニ非ラス人或ハ言ハシ何地ト雖モ規則ヲ遵守セシテ運搬シタルモ此項ニヨラサルヘカラスト此言亦理ナキニ非ラス夫レ法律ヲ解ズルハ文字ニ拘泥セシテ專ラ其法意ヲ探ルニ在レバナリ然ルト雖モ此項ノ精神ハ概テ前ニ述ヘタルカ如ク火災等ノ危害ヲ豫防スルノ意ニ出テタルモノナレハ田舎若クハ野外其他市街ニ非ラサル荒蕪ノ地ニ運搬スルハ此條ノ罪ヲサルモノナリ且ツ實際ニ於ケル田舎野外荒蕪ノ地ヨリ同様ノ地ニ運搬スルト云フハ實ニ稀レナレハナリ

〔參照〕

明治十三年五月十九日警視本署第五十號達
 免許商人ニテ賣買ノ火藥運搬ノ節標旗ヲ車頭ニ建テ自衛致度旨願出左ノ通指令及ヒ候條巡行ノ巡查ニ於テ該標旗見認次第取締向精々注意可致此旨相達候事

〔免許商人ニ指令〕

願之趣聞届候事

但左之件々遵守可致事

火藥運搬心得

- 一 運搬ノ節ハ火藥ノ量目及ヒ其時日道筋等届出認可ヲ受クヘシ
- 一 通路ハ成ルヘシ市街雜沓ノ地ヲ避クヘシ
- 一 但シ休憩之節ハ人家稀疎ノ地ニ限ルヘシ
- 一 標旗ヲ車頭ニ建テ取締人一名ヲ附スヘシ
- 一 火藥ハ箱又ハ桶ニ入レ藁或ハ繩ヲ以テ包蔽圍繞シ摩擦セサル様載積スヘシ
- 一 運送車ハ必ス屋蓋ヲ設クルヲ法トス已ムヲ得ス

屋蓋ナキ車ヲ用フル時ハ毛皮或ハ木綿ヲ以テ覆
フヘシ
一 貳百貫目以上多量ノ火藥ヲ一時ニ運搬スヘカラ
ス

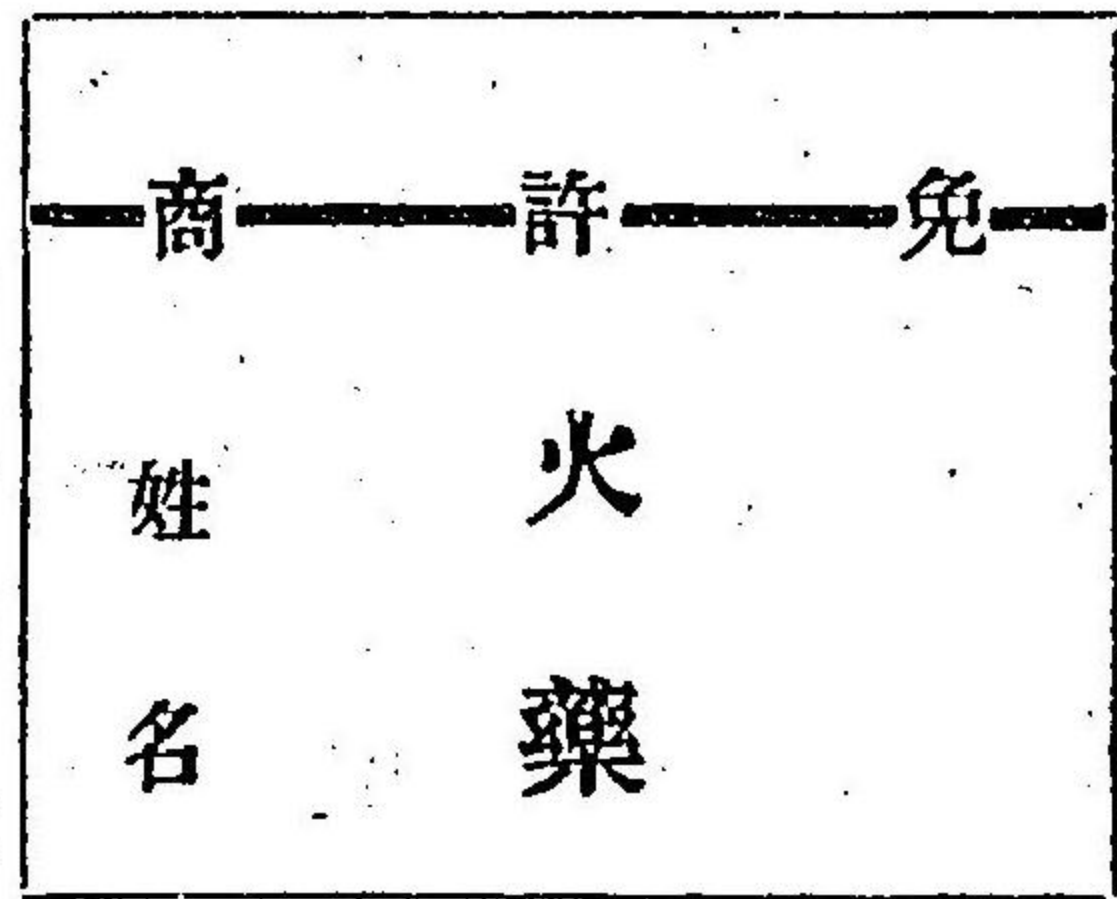
一 烈風雷鳴ニハ運搬スヘカラス
一 運送車近傍ニ於テ吸烟ハ勿論マツテ等發火質ノ
物品ヲ取扱フヘカラス

〔参照〕

明治十三年五月十九日同甲第二十四號布達

銃砲彈藥免許商人ニ於テ賣買之火藥運搬ノ節ハ
左ノ雛形ノ標旗ヲ車頭ニ揭示爲致候條爲心得此旨
布達候事

〔免許商火藥ノ五字ハ白ノ染抜ナリ但シ旗地色ハ
赤ナリ〕



曲三尺三寸

曲二尺六寸

二 規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂スヘキ物品又
ハ自ラ火ヲ發スヘキ物品ヲ貯藏シタル者

〔解〕

本項モ亦前項ト意相同シキ者ニシテ若シ之ヲ濫
リニ貯藏スルキハ實ニ危害ノ恐レアリハナリ唯
前項ニ在テハ市街ヲ運搬スルニ係リ本項云フ所ハ
貯藏ニ係ルノ差異アルノミ

本項規則ヲ遵守セズレテ云々○此規則トハ明治九年九月十八日第百二十號公布火藥圈線規則等ヲ云フモノニシテ例ヘハ火藥庫牆壁外十四間以内ノ地ニ於テ諸種ノ建物ヲ設ケ又ハ材木草秣其他總テ燃質物ヲ蓄積シテ火藥ヲ貯藏スルヲ許サ、ル等ノ如キ是レナリ

本項破裂スヘキ物品トハ第一項ニ説キタルカ如シ自ラ火ヲ發スヘキ物品トハ石灰ノ如キ發火質ノ物ヲ云フ已ニ石灰ニ付テハ明治七年四月十一日夜大雨ノ際東京府下諸所ニ發火セシヨアリ

〔參照〕

明治九年九月十八日太政官第百二十號布告
火藥庫圈線規則別紙之通相定候條此旨布告候事

第一條 火藥庫周圍近接ノ地ヲ分テ二圈トシ火害ヲ豫防スルヲ左ノ如シ

第一圈 火藥庫牆壁外十四間以内ノ地ニ於テ諸種ノ建物ヲ設ケ材木草秣其他總テ燃質物ヲ蓄

積スルヲ禁ス

第二圈 火藥庫牆壁外二十八間以内ノ地ニ於テ火ヲ取扱フ建物ヲ設ケ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ及

ヒ發火質ノ物品ヲ蓄積スルヲ禁ス

第二條 全國火藥庫所在ノ地名
第一項 陸軍省所轄ノ火藥庫左ノ如シ

砲兵第一方

軍管	第一	全	全	全	全
使府縣	東京	全	全	全	全
國	武藏	全	全	全	全
郡	荏原	多摩	豐島	河北	石川
區	第八大區 一小區	第八大區 六小區	第九大區 六小區	第十五大區 三小區	第三大區 七小區
所名	青山千駄ヶ 谷町一丁目	和泉新田	赤羽村	田上村	上野新村 牛坂村
番地	二十六番	千〇廿六番	百番	十二字ヲノ部 八番ノ甲	丙七一ノ甲 ワ七十五ノ甲

面 方 二 第 兵 砲 面

全	全	全	第六	全	全	全	全	第四	全
全	全	全	鹿兒島	滋賀	全	全	和歌山	京都	全
全	全	全	薩摩	近江	全	全	紀伊	山城	全
全	全	全	鹿兒島	犬上	全	全	海部	宇治	全
第一大區	第一大區	第二大區	第三大區	第二區	全	全	第二大區	第二大區	第三大區
第四小區	第八小區	第七小區	第三小區	第一區			第四小區	五小區	野田村
草牟田村、內	大迫村	西別府村、內大牧	坂元村、內、原	松原村	關小谷村	同甲崎村	鹽屋村	五ヶ庄村	泉野村
百五十四番	七十二番	二百七十七番	二百三十四番	番 外	七百四十一番	二百九番	二百廿二番	百五十四番	ホ三百九十五、カ一、甲

第二項 海軍省所轄ノ火藥庫左ノ如シ

全	鹿兒島	長崎	全	東京
大隅	薩摩	肥前	全	武藏
噌唼	鹿兒島	彼杵	全	荏原
第六十一大區	第三大區	第一大區	全	第七大區
第三區	第八小區	第十一小區		一小區
敷根麓村	吉野村	平戸小屋村	目黒三田村	白金臺町
三番	無	百十三番	十五番	二十四番

第三項 開拓使所轄ノ火藥庫左ノ如シ

全	開拓使
渡島	石狩
龜田	札幌
千代ヶ臺	圓山村
番號未附	五十番

〔參照〕

明治七年四月十三日警視廳第一號達
 一昨十一日夜大雨中第二第六兩大區內出火有之
 火元取調候處積込置候石灰ニ雨濕ヲ受ケ發火及ヒ
 候趣相聞右ハ全ク持主ノ不注意ヨリ當人ノ損失ハ
 勿論近隣迄モ災害ヲ蒙ラセ甚ク不相濟儀ニ付以來
 石灰取扱候者ハ兼テ火災豫防厚心付不行届無之様
 可致此旨相達候事

三

官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者

〔解〕

烟火ハ玩弄物ナリト雖モ火藥ヲ以テ製造スル者
 ニシテ其危害ヲ生スルノ虞アルニ於ケル敢テ前
 項ト異ナルナシ故ニ必シモ官ノ允許ヲ得テ而シテ
 後製造シ又ハ販賣スヘキナリ若シ之ニ違フキハ此
 項ヲ以テ罰スルノミヨシテ其製造シ又ハ販賣スル
 烟火ハ之ヲ沒收スルノ限リニ非サルナリ如何トナ
 レバ沒收ハ刑罰ナリ刑罰ハ犯者一人ニ止ムルナ元
 則トス今此烟火ヲ以テ所謂法律ニ於テ禁制シタル

物件トシテ之ヲ沒收セシカ則チ第四十四條ニ依リ
 何人ノ所有ニ屬スルヤヲ問フヲ要セサルナリ乃チ
 製造販賣人ノ所有ニ係ルト他人ノ所有ニ係ルト共
 ニ皆刑罰ヲ施スニ至ル吁他人何ノ罪アル身自ラ製
 造スルニ非ズ又販賣スルニ非ズ惟其烟火ノ原質ヲ
 ル硝藥等ヲ供給貸與スルニ外ナラズ而シテ其物質ノ
 沒收ニ遇フ何ゾ其レ不幸ナルヤ且沒收ハ元附加刑
 ナリ主刑アリテ後附加刑アル可シ主刑ナクシテ附
 加刑ヲ施スノ理ナシ他人其所有主ナルモ律之ヲ罰
 セズ而シテ猶單ニ附加刑ヲ科ス其何ノ理由アリテ然
 ルヤヲ解セザルナリ抑モ法律ノ禁制シタル物件ナ
 ルモノハ何人ヲ論ゼズ所有スルコトヲ禁制シタル物
 件ヲ謂フ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥阿片烟及ヒ
 其吸食ノ器具ノ類是ナリ若シ一事モ猶ホ法律ノ禁
 制スル所ニ係レバ則チ之ヲ禁制物ナリトセンカ恐
 シハ路傍ノ床店無官許ノ劇場亦之ヲ沒收スルニ至
 ン是レ決シテ法律ノ意ニ非サルナリ但タ此烟火ノ

如キ害ヲ生ス可キモノハ行政權ヲ以テ之ヲ棄毀滅
 盡シテ可ナリ何ツ罪ナキノ所有主ニ對シ沒收ノ刑
 ナ用ユルヲ要センヤ
 本項烟火トアルハ打上及ヒ烽火ハ勿論俗ニ線香花
 火鼠花火ノ如キモノニ至ル迄ヲ總稱シタル者ナリ
 尤モ線香花火鼠花火ノ如キハ其形至リテ小ク隨テ
 其火技モ亦小ナルヲ以テ其危害モ亦少キモノトセ
 シカ從來都下ニ在テハ手遊屋等ニ於テ多ク販賣セ
 リ然レモ素ト此花火タル玩弄ノ點ニ在テハ其危險
 或ハ少ナキモノ、如シト雖モ製造及販賣ノ點ニ在
 テハ豈ニ敢テ異ナラシムヤ夫レ線香花火ト雖モ百本
 以上一時ニ發セシムレハ鼠花火モ及フヘカラス鼠
 花火ト雖モ百本以上一時ニ發セシムレハ亦打上ケ
 烟火ニ異ナルナシ況ヤ之ヲ製造シ之ヲ鬻ク者ハ數
 萬ノ多キヲ貯フルヲヤ故ニ凡テ包含セルモノト見
 ルヘシ

四 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩

ヒタル者

〔解〕

本項モ亦火災ノ危害ヲ防止スルノ主旨ニ出ルモ
 ノトス
 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩弄
 シ若シ誤テ火ヲ失スル等ノキニ至リテハ億兆ノ家
 屋モ鳥有ト成リ實ニ其危害少ナカラサルモノナレ
 ハ最モ注意セサルヘカラス故ニ稠密ト云フモ必シ
 モ多數ノ人家アル所ニミチ云フニ非ラス假令家數
 太タ多カラサルモ互ニ接近シ危險ノ虞アル場所ハ
 即チ稠密ト言ハサルヲ得ス
 烟火トハ前項ニ説キタルヲ以テ復タ茲ニ贅セス
 火器トハ松明又ハ鐵砲ノ如キ類其他凡テ烟火ヲ除
 ク外ノ總稱ナリ
 且ツ本項濫リニトアルハ主眼ナリ故ニ縱令人家稠
 密ノ場所ト雖モ注意シ玩弄ニ於テハ罰スルヲ得サ
 ルカ如シ例ヘハ水アル大鹽ノ上ニテ線香花火ヲ弄

五 蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者

フカ如キ是レナリ

〔解〕

本項モ亦火災ヲ豫防スルノ主旨ニ出ルモノトス
蒸氣器械トハ總テ蒸氣ヲ用フル器械ニシテ船車
印刷等其他ノ器械ヲ云フ是等器械ハ破裂スルノ虞
アルモノナレハ最モ注意セサルヘカラス烟筒火竈
ハ出火ノ恐れアリ故ニ之ヲ豫防スル爲メ建造修理
シ及ヒ掃除スルニ自ラ規則アリ例ヘハ湯屋營業ノ
者等火焚所ハ石又ハ煉化烟出シ天井裏ハ漆喰塗等
ヲ用フヘシ云々〔即チ明治十年十月警視本署布達等
是レナリ

〔參照〕

明治十年十月六日警視本署甲第四十四號布達
朱引内市街ニ於テ鍛冶職銅壺職鑄物師及湯屋營
業ノ者火焚所ハ石又ハ煉化烟出シ天井裏ハ漆喰塗
等總テ不燃質物ヲ以テ築造可致此旨布達候事

但從前營業ノ者ハ悉皆營繕ヲ加ヘ該所轄分署へ
可届出事

六 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲サル者

〔解〕

本項ハ往來人等ニ危害ヲ加フルノ虞アルヲ防止
スルニ出ルモノトス
官署ノ督促トハ則チ乙篇違警罪目第一項ノ街路取
締規則第十條ニ依リ警察署ヨリ修理ヲ命スルヲ云
ヒ然ルニ尙ホ等閑ニ附シ修理セサルハ他人ノ安寧
ヲ害シ官命ヲ拒ムモノニ付保護上之ヲ罰セサルヲ
得サルナリ
右ニ述フルカ如ク街路取締規則ト同一ノ主旨ナル
ヲ以テ何レニ依テ罰スヘキヤノ點ニ至テハ或ハ論
ナキニ非ラス然レモ素ヨリ一方ハ地方ノ便宜法一
方ハ全國普通ノ刑法ナレハ此外兩様ニ跨ルモノト
雖モ斯ル場合ニ在テハ凡テ刑法ニ依テ處斷スヘキ

〔參照〕

モノナリ
明治十一年一月十六日警視本署甲第五號布達
街路取締規則第十條 家屋垣牆等朽腐壞敗シ又
ハ瓦石ノ墜落セントスル危險ノ虞アル者ハ速ニ修
補又ハ改造スヘシ

七 官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者

〔解〕

本項ハ殘忍ノ所業ヲ爲サントテ防止スルノ主旨
ニ出ルモノトス
死屍ヲ解剖スルハ醫業上止ムヲ得サルモノナリ
然レモ之ヲ解剖スルニハ必スシモ警察署ノ許可ヲ
受ケサルヲ得ス尤モ明治九年內務省坤衛第四百六
十號達及ヒ同年八月東京府甲第七十七號布達ヨ
レハ病死體ノ解剖ハ雙方熟談ノ上該區役所へ届置
キ患部ノミ剖觀ヲ爲スハ苦シカラサリシカ此刑法
頒布以來ハ必ス官ノ允許ヲ得ルヲ要スルナリ
本項死屍トハ病死ニ係ルト變死ニ係ルト刑死ニ係

ルトナ分タサルナリ

病死ニ於テハ從前ノ如ク届ケ置ク而已ニテ別ニ官
ノ允許ヲ得サルモ差支ヘナキモノ、如シ然ルヲ變
死刑死同様斯クナセシハ何ゾヤ蓋シ不正等ノ弊ナ
キヲ保タノ爲ナルヘシ

〔參照〕

明治十年二月二十一日太政官第二十二號布告
變死ニ係ル屍ヲ警察官吏検査スル時ニ於テ解剖
ヲ行ハサレハ其致命ノ原因ヲ確知シ難キ旨醫師申
立ル時ハ檢事(檢事派出ナキ地方ハ其地方長官)ノ許
可ヲ受ケ其部分ヲ解剖検査セシムルヲ得
右布告候事

〔參照〕

明治十一年六月二十六日警視本署第百八號達
變死ニ係ル屍解剖ヲ要スルキハ明治十年太政官
第二十二號公布ニ基キ該分署長ヨリ本署へ伺出指
揮ヲ受ケ候儀ト可心得此旨相達候事

〔參照〕

明治十一年六月二十六日警視本署第百九號達
各病院へ左ノ通相達候條爲心得此旨相達候事

變死者有之節檢視ニ參會スル醫師ニ於テ其致命ノ
原由ヲ詳ニスル能ハス解剖ヲ要スルキハ檢視官ノ
指揮ヲ受候儀ト可心得此旨相達候事

〔參照〕

明治九年八月八日東京府甲第七十七號布達
病死體患部解剖ノ儀者是マテ一々出願ノ上差許
來候處今後死者ノ親族醫師雙方熟談ノ上該區役所
へ届置患部ノ解剖ハ不苦候條此旨布達候事

八 自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ申告
セス又ハ他所ニ移シタル者

〔解〕

本項ハ私利ノ爲メニ公益ヲ害スルヲ防止スルノ
精神ニ出ルモノトス

變死横死病死ヲ問ハス自己ノ所有地面内ニ人ノ屍
アリタル時ハ必ラス警察署へ届出テ指揮ヲ待ツヘ
キモノナルニ擅ニ他所ニ移シ己レ申告等ノ手數ヲ
省カントシタル者ヲ云フ則チ此場合分テ二ト爲ス
一 自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ申告

セザル者

一同上(官署ニ申告スルト否トニ關セス)他所ニ移シ
タル者

之ヲ罰スルハ何ソヤ曰ク若シ是等場合ニ在テ官署
ニ申告セス又ハ他所ニ移サル、キハ檢視其他ニ於
テ證據湮滅シ遂ニ致命ノ原因(病死カ變死カ横死カ)
ヲ知ル能ハサルノ恐レアリ且自己僅少ノ手數ヲ厭
ヒ爲メニ官ノ煩雜ヲ醸スモノナレハナリ
若シ現ニ埋葬スヘキ死屍ヲ毀傷シ或ハ遺棄シタル
モノ等ハ素ヨリ此項ノ罪タルヘカラス第二百六十
四條ニ依テ一年以上以下ノ重禁錮ニ處シ二圓
以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加スルモノナリ

九 人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者

〔解〕

本項ハ人ノ身命ニ危害アラソクテ防止スルノ精
神ニ出ルモノトス
人ヲ毆打スルモ未ダ創傷ヲ加ヘス又ハ疾病ニ至ラ

ナル者ハ則チ此項ノ罪トス故ニ若シ僅少タリモ人
ノ身體ニ創傷ヲ成シ又ハ其外部ニ創傷ヲシト雖モ
其内部ニ在テ外部ヨリ見ヘサル疼痛ヲ生シ爲ニ疾
病ニ至ラシメタル者ハ素ヨリ此項ヲ以テ罰スヘキ
モノニ非ラス(刑法第三百一條末項ニ從ヒ十一日以
上一月以下ノ重禁錮ニ處スヘキナリ)
蓋シ其外部ニ露レサル内部ノ疼痛ニシテ疾病ニ至
リタル等ニ在テハ實際上困難ナラサルヲ得ズ則チ
相當醫員ヲシテ之カ診案ヲ爲サシムルノ外ナカル
ヘキナリ

十 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者

〔解〕

本項ハ社會風俗ノ壞亂ヲ防止スル者トス
密ニ淫ヲ賣ルトハ則チ娼妓ニ非サル婦女ニシテ
私ニ淫ヲ鬻グ者ヲ云ヒ又媒合トハ其媒妁ヲナシテ
交合セシメタル則チ周旋人ヲ云ヒ又容止トハ宿所
ヲ貸ス者ニシテ何レモ夫レカ爲メ利ヲ計ル者ヲ云

フ
密賣ノ罪タル從前ハ地方官ニ委任セラレ東京ニ在
テハ警視廳ノ別規則即チ賣淫罰則ニ依リ六ヶ月以
下ノ苦使若クハ三十圓以下ノ罰金ニ處シタリシカ
尙ホ其罪ヲ犯ス者日ニ月ニ増殖シ幾ント底止スル
所ヲ知ラス然レモ此罪タル其性質警察ノ罪ニシテ
違警罪トナサハルヘカラス既ニ違警罪トナス以上
ハ其刑ヲ異ニスル能ハス故ニ此項ニ記列スト雖モ
我國未ク之ヲ違警罪ニテ罰スルノ度ニ至ラス
此ニ於テカ我政府ハ明治十四年十二月九日第六十
四號布告ヲ以テ當分ノ内從前ノ通り警視廳及ヒ地
方官ニ委任セラレタリ蓋シ此便宜法ノ出ル勢止ム
ヲ得サルニヨルナリ
本項ハ前ニ述フルカ如ク密ニ淫ヲ賣リ及ヒ其媒合
容止ヲナシタル者ヲ罰スルニ止リ彼十六歳未滿ノ
男女ノ淫行ヲ勸誘シ媒合シタル者等ノ如キハ刑法
第三百五十二條ニ依テ一月以上六月以下ノ重禁錮

ニ處シ三圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加スルモノトス

十一 人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者

〔解〕

本項ハ人ヲシテ恐怖ノ念ヲ生セシムル等ヲ防止スルモノトス

人ノ住居セサル家屋トハ明家ノ類ニシテ晝間ト夜間トヲ問ハス又他ニ目的ノ有ト無トヲ問ハス故ナシ家屋内ニ潜伏シタルモノヲ云フ故ニ若シ歩行ノ途上一時ノ急雨(俗ニ夕立ト云フカ如キ)ニ際シ之ヲ凌クノ傘履ナク其露濕ヲ厭フノ念ヨリ止ヲ得ス暫時空屋ニ入ルカ如キハ以テ潜伏シタルト云フヘカラス隨テ此項ヲ以テ罰スヘキノ限ニ非ラサルコト言ヲ待タス是レ則チ警察官吏タルモノハ腦力ヲ以テ判定スル所ナリ然ルハ文字ニ拘泥シ徒ラニ此項ヲ墨守スルキハ遂ニ其目的ヲ誤ルコトナシトセス唯潜伏ノ二字玩味シテ解釋スヘキナリ

人ノ居住シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ故ナク入リタル者ハ晝間ナレハ刑法第七十一條ニ依リ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ夜間ナレハ同第七十二條ニヨリ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處スル者タリ

十二 定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸

方ニ徘徊スル者

〔解〕

本項ハ風俗ノ紊亂ト盜犯ノ醸成トヲ防止スルモノトス

本籍ノ有無ヲ分タス凡ソ定リタル住居ナク平生糊口正當ノ營業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者ハ即チ乞丐ニ非サレハ遊惰人ナリ若シ之ヲ止捨スルキハ太タ一般ノ風俗ニ關スル而已ナラス惡業ニ陷ルモノ必ス多シ故ニ之ヲ罰スルナリ但シ本項ハ二元素具備スルニ非サレハ之ヲ罰スル能ハス元素トハ何ソヤ曰ク「定リタル住居ナキ」曰

ノ平常營生ノ産業ナキハ是レナリ故ニ平常營生ノ産業ナキモ定リタル住居アル所ハ未タ此項ヲ以テ罰スル能ハス又定リタル住居ナキモ平常營生ノ産業アルモノ未タ此項ヲ以テ罰スル能ハサルナリ

十三 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

〔解〕

本項ハ社會ノ健康ヲ害シ衛生ノ道ヲ妨シルヲ防止スルモノトス

墓地ハ一種ノ發氣ヲ生シテ多少人身ニ害アルモノトス故ニ官ヨリ定ムル所ノ埋葬地外ニ於テ私ニ死屍ヲ埋葬スルヲ許サ、ルナリ
官許ノ墓地トハ東京ニ在テハ谷中天王寺深川三十三間堂青山上野ノ四ヶ所ヲ云フ此外唯ニ墓地ト云ハ所々擧ケ數フヘカラス然レモ官許ノ墓地ト云フニ非ラサレハ死屍ヲ埋ムルヲ許サス故ニ若シ此等ノ地ニ埋葬セント欲スルハ火葬場取締規則ニヨリ火葬シテ以テ埋葬スヘキナリ

前ニ述フル如キ理由ナルヲ以テ若シ之ニ違背スルニ於テハ此項ヲ以テ罰スルハ論ヲ待タズ且既ニ埋葬シタルハ其改葬ヲ命ゼサル可カラズ抑モ官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬スルヲ禁ズルハ一般ノ健康ヲ害スルヲ防カンカ爲メナリ而ルニ其禁ヲ犯シ已ニ衛生ノ道ヲ妨ク乃チ之ヲ罰スルニ刑ヲ以テシ且其改葬ヲ命ゼサル可カラズ否ラサレハ禁制ノ旨趣遂ニ之ヲ貫クヲ能ハス何トナレバ之ヲ罰スルモ爲メニ將來ノ害ヲ防クヲ得サレハナリ例ヘハ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ノ如キ第二百五十條ノ刑ヲ科スルノ外其製造所ノ廢毀ヲ命スルヲ要スルト同シ人或ハ曰ク彼レハ輕罪ナリ此レハ違警罪ナリ其間必ス區別アルベシ且改葬ノ費用多キヲ奈何セント是レ何ノ言ツヤ輕罪ト云ヒ違警罪ト云ヒ共ニ法律ノ罪トスル所ナリ其區別ス可キ者ハ法律明ニ之ヲ區別ス乃チ其區別セザル者ハ固ヨリ其處置ヲ同クセザル可カラズ費用ノ如キ

ハ法律ノ問フ處ニ非ズ若シ其多キ夫以テ改葬ヲ命
セサルノ理由ナリトモハ厠構造ノ規則ヲ犯シタル
者ニ對シ其改造ヲ命スルヲ得ザルニ至ル可シ蓋シ
法律ハ終始アルモノナリ完全ナルモノナリ前ニ密
ニシテ後ニ疎ナルモノニ非サルナリ

十四 違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但

被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル時ハ第二百十九
條ノ例ニ從フ

〔解〕

本項ハ法律ノ公正ナルヲ誤タシ惡事ヲ助クルヲ
防止スルモノトス

- 本項ノ場合分テ二ト爲ス
 - 一 犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者〔本文〕
 - 二 偽證シテ以テ犯人ノ刑ヲ免レシメタル者〔但書〕
- 第一項ノ場合ニ在テハ本條ニ所謂三日以上十日以
下ノ拘留又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ

處スルニ止ルモノトス

第二項ノ場合ハ已ニ本條冒頭ニ則例外トシ詳細説
ク所ニ係ルヲ以テ又茲ニ之ヲ贅セス

第二百十九條ノ例ニ從フ〇トハ偽證ノ爲メ被告人
正當ノ刑ヲ免レタルキハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照
ラシ各一等ヲ加フトアリテ其前條トハ即第二百十
八條三項ニ違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ
違警罪ノ本條ニ依リテ處斷スト是ナリ
蓋シ本項偽證ノ罪ヲ違警罪トナシ罰スルハ甚ダ輕
キニ過ルカ如シト雖モ彼第二百二十條ノ違警罪ニ
陷ラシムル爲メ偽證シタル者等ニ比スレバ其情負
カニ輕ク其害モ亦少シ故チ以テ輕罪トナサ、ルナ
リ

第四百廿六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五

日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以
下ノ科料ニ處ス

〔解〕

本條ハ前掲違警罪種別ニ所謂第二種ノ罪ニシテ之ヲ第一種ニ比スレハ稍々其輕キモノナリ而シテ其拘留ニ處シ又ハ科料ニ處シ及ヒ期ノ長短ヲ伸縮シ金ノ多少ヲ増減スル等ハ前條(第四百廿五條)ニ說ク如ク全ク裁判官ノ權内ニ在リトス(以下倣之)

本條二日以上五日以下ノ拘留又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料トアレハ是レ亦正則ニシテ其加減スヘキ場合ニ於テハ素ヨリ此範圍外ト雖モ出ルコトヲ得サルニ非ラス則チ拘留ハ加ヘテ六日迄ニ至ルコトヲ得減シテ一日迄ニ至ルコトヲ得又科料ハ加ヘテ一圓八十七錢五厘迄ニ至ルコトヲ得減シテ五錢迄ニ至ルコトヲ得ルナリ

減輕ノコトハ前條(第四百廿五條)ニ於テ詳細解說シタルヲ以テ復之ヲ此ニ贅セス

加重ノコトモ亦前條ニ說キタルヲ以テ再說ヲ要セス

ト雖モ本條以下ニ於テハ前條第十四項但書ノ如キ例外ノ場合ナキヲ以テ再犯ノ時ニ限ルモノナレハ

一等ニ止ルナリ

一 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者

〔解〕

本項ハ家屋又ハ樹木植物等ニ火害アルヲ豫防スルニ出ルモノトス

本項ノ場合分テ二ト爲ス

一 人家ノ近傍ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者

二 山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者

第一ノ場合ハ人ノ家屋ニ接近シタル場所ニ於テ焚火ヲナスルハ實ニ其危害少ナカラス若シ人家等ニ延燒スルハ億兆ノ家屋モ一灰燼ニ屬スルナキヲ保セス故ニ最モ注意セサル可カラサル者タリ然ルニ之ヲ省ニス濫リニ焚火等ヲナスハ素ヨリ保護上罰セサルヘカラス

第二ノ場合ハ人家ニ延燒ノ患ナキカ如シト雖モ樹木植物等ニ害アル僅少トセス故ニ是亦保護上罰セ

サルヲ得サルナリ
 蓋シ本項ハ濫リニノ字主眼ナリ故ニ若シ人家近傍
 及ヒ田野山林ト雖モ其火ヲ焚クヲ要スルキノ如
 キ場合ニ於テ充分害ナキ様嚴ニ警備ヲナシ行フ等
 ハ固ヨリ此項ヲ以テ罰スルノ限ニ非ラス(例ハ塵
 芥燒ノ如キコ一人又ハ數人ノ番人(警備)ヲ付ケ燒ク
 等其一例ナリ)
 且第二ノ場合ト雖モ故ラニ焚火ヲ名トシテ山林ノ
 竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物
 件ヲ燒燬シタル者ハ此項ヲ以テ罰スヘキノ限ニ非
 ラス即刑法第四百六條ニ依テ輕懲役ニ處セラレヘ
 シ其過失ニ出テ右等ノ所爲ニ至リタルハ同第四百
 九條ニ依リ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處セラレ
 ヘキノナリ

二 水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦スヘキノ求メ
 ヲ受ケ傍觀シテ之ヲ肯ンセサル者

〔解〕

本項ハ社會ノ大害ニ至ルヲ注意セサルヲ警ムル
 ノ精神ニ出ルモノトス
 水難(洪水)火難(出火)其他非常ノ變亂ニ際シ事急遽ニ
 シテ衆人ノ助力ヲ受クルニ非ラサレハ防禦ノ術ナ
 シ爲メニ其災害蔓延シ又ハ兇徒逃走セントスルノ
 場合等ニ際リ警察官吏ヨリ其助力ヲ依頼スルニ故
 ナク傍觀ナシテ之ヲ肯ンセサルモノヲ云フ
 蓋シ災禍救援等ハ人類處世中ノ本分(即チ道德上ノ
 義務)ニシテ縱令官吏ノ請求ナシト雖モ己レ能クセ
 サルニ非ラスシテ之ヲ救援扶助セサルハ人情ノ忍
 ヒサル所ナリ然レモ社會多キ人類ノ中復之ナキヲ
 保シ難シ故ニ茲ニ此項ヲ置キ以テ是等浮薄ノ弊ヲ
 防止スルモノナリ
 且ツ本項云所ノ救援ハ非常ノ危險ヲ冒カスニモ非
 ラス又力及ハサルニモ非ラスシテ徒ラニ勞ヲ厭ヒ
 官吏ノ求メニ應セサルモノヲ罰スルモノナレハ其
 救援ヲナスキハ一身ノ危險ニ係ルカ如キ場合ニ在

ハ縦令官吏ノ求メニ應セサルモ固ヨリ罪トシ罰スルヲ能ハサルナリ(例セハ之ヲ水難トセシ洪水浸々堤防將サニ崩レントスルニ際シ之ヲ防シヘキノ命ヲ受クルモ之ヲ防カントスレハ必ス壓倒セラレハノ危害アルカ如シ之ヲ火難トセシ平家屋軒下已ニ火トナルニ際シ棟梁ニ上テ防シヘキノ命ヲ受クルモ棟梁ニ上レハ必ス火中ニ墜落スルノ危害アルカ如キ場合はレナリ)

三 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者

〔解〕

本項ハ人身ノ健康ニ害アルヲ豫防スルノ主旨ニ出ルモノトス

菓實ノ未タ成熟セズ又ハ飲食物ノ腐敗シタルハ人之ヲ飲食スレハ其身體ノ健康上ニ害アル少ナカラス故ニ之ヲ販賣スル者ヲ罰スルナリ。蓋シ其菓物等ノ熟不熟ニ就テハ頗ル困難ナラサル

ヲ得ス其困難トハ何ソヤ曰ク本邦販賣スル所ノ菓物ヲ以テ之ヲ歐米國ノ人ニ示サハ皆ナ之ヲ不熟ナリト謂フヘシ而シテ彼レニ熟スルモノト認ムルモノハ邦人却テ之ヲ腐敗シタルモノト云ハシ之レ實ニ警察官ノ注意ヲ要スル所ニシテ又其健康ニ害アリト認ムルト否トニ至リテモ亦殊ニ警察官ノ注意腦力ヲ要スル所ナリ

本項販賣シタル者トノミアレモ其販賣シタル物品縱シヤ不熟若クハ腐敗シタルモノナルモ之ヲ他ノ用ニ供スル爲ニシテ飲食ノ用ニ供シタルニ非ラサレハ此項ヲ以テ罰スル能ハサルヲ明ケシ何ソトナレハ其健康ニ害ナケレハナリ故ニ若シ彼ノ澁柿ノ如キ敷紙其他板類ニ塗ル爲メ其熟セサル澁柿ヲ以テ製造スル者ニ販賣シ或ハ橙ノ如キ一月ノ注連飾リニ付クル爲メ販賣スルカ如キハ素ヨリ罪ダラサルヘキナリ

且ツ本項云フ所ハ不熟ノ菓物腐敗ノ飲食物ヲ販賣

シタル者ヲ罰スルニ止リ、人ノ健康ヲ害スヘキ物品
ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ第二百五十三
條ニ依リ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處スルモノ
トス

四 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫 防規則ニ違背シタル者

〔解〕 本項モ亦人身ノ健康ヲ保全スルノ精神ニ出ルモ
ノトス

健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則トハ市街掃除規
則則廁搆造并尿尿汲取規則氷製造人并販賣人取締規
則則神田玉川兩上水取締禁例千川水道取締禁例諸獸
屠場及ヒ賣肉規則牛乳搾取人取締規則娼妓徵毒檢
査規則等ヲ云フ且ツ舶來染粉等ヲ以テ飲食物ヲ著
色シ販賣スル者ヲモ亦此項ヲ以テ罰スヘキト主張
スルノ論者少シトセス然レモ編者謂ラク銅絲洋紅
アニリン其他鐵屬製ノ繪具染料ヲ以テ菓子類ニ著

色シ販賣シタル者ハ刑法第二百五十三條ニ所謂「人
ノ健康ヲ害スヘキ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シ
タル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處スト」明文
アルニヨリ輕罪ニ入ルヘキモノニシテ本項ヲ以テ
罰スヘキハ未タ製造シ販賣セサル者ニ限ルモノナ
リトス

傳染病豫防規則トハ明治十三年七月九日第三十四
號布告ヲ云フモノナリ且彼刑法第二百四十六條以
下數條ハ多ク檢疫停船規則〔明治十二年七月廿一日
第二十九號布告〕ニ係ルモノニシテ本項ヨリ其害最
モ大ナルモノナリ
本項分テ二ト爲ス一チ健康ヲ保護スル爲メ設ケタ
ル規則トシ一チ傳染病豫防規則トシ其部分ヲ分チ
之ヲ掲テ以テ參照ニ供ス
第一健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則ノ部

〔參照〕 明治十二年一月廿八日警視本署甲第四號布達
市街掃除規則及廁搆造並尿尿汲取規則左ノ通り

相定メ來ル三月一日ヨリ施行候條此旨布達候事
但從前ノ布達等本條ニ抵觸スル者ハ廢止ト可相
心得事

市街掃除規則

第一條 居宅前道路ハ不潔ナキ様掃除スヘシ

第二條 降雪ノ時ハ之ヲ河海下水其他通行ノ妨ト
ナラサル場所ヘ取棄テ道路中央ニ積置クヘカラ

第三條 諸橋上馬車道廣場火除地等ハ郡區役所ニ
テ擔當シ從前ノ方法ニ依リ時々掃除ヲナスヘシ

第四條 下水及埋樋等ハ年々兩度浚方ヲナスヘシ
尤モ土砂塵芥等流通ヲ妨クルキハ定期ニ拘ハラ

ス取除クヘシ割註ノ浚方期限ハ十三年七月十六
日甲第三十一號ニテ改正セシナリ但シ浚方行届

サル場所ハ警視署ヨリ直ニ之ヲ爲シ其費金ヲ徵
收スルコトアルヘシ

第五條 下水ヲ浚ヘタル淤泥并塵芥等ハ人家遠隔
ノ地ニ搬出シ路傍ニ堆積又ハ道路修繕ニ用フヘ

カラス

第六條 此規則ハ左ノ區別ニ從ヒ其責ニ任スヘシ

第一項 道路掃除ハ地主地借店借ヲ問ハス總テ
現在ノ居住人ニテ負擔スヘシ但シ廣場并火除

地ハ下水外ヨリ地先五間ヲ定限トス

第二項 家屋兩側ニアルモノハ道ノ中央ヲ折半
シテ負擔シ其片側ナル場所ハ全路ヲ負擔スヘ

第三項 空屋及空地ノ周圍ハ其家主地主ノ負擔
タルヘシ

第四項 下水浚及修繕等ハ地主負擔タルヘシ

第五項 差配人受負人ヲ定メ置キタル地先道路
下水ハ該差配人受負人ノ負擔タルヘシ

第六項 組合持大下水浚ヘ方ハ年番月番ヲ定メ
置キ當番ノ者負擔スヘシ

第七條 炎天ノ候及ヒ烈風等ノ節ハ度々路上ニ水

チ灑クヘシ但シ十二月一日ヨリ二月廿八日迄ハ
午後第三時ヨリ午前第九時迄路上ニ水ヲ灑クヘ
カラス

第八條 溝渠ノ汚水ハ勿論魚鳥其他汚穢物ヲ洗滌
シタル水ハ決シテ路上ニ灑クヘカラス

第九條 塵芥及汚穢物等道路又ハ河濠下水等ヘ投
棄スヘカラス

第十條 荷拵ヘ又ハ炭薪積ニ卸シ等ニテ塵芥散布
スル時ハ其都度掃除スヘシ

第十一條 下水ニ堰ヲ設ケ塵芥ヲ滯積シ流通ヲ妨
クヘカラス

第十二條 斃レタル獸類ハ定リタル毛皮剝取場ヘ
埋没スヘシ但シ犬猫等ノ如キハ示談ノ上朱引外
寺院境内又ハ人家懸隔ノ地ヘ埋ムハ適宜タルヘ
シ

第十三條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ
罰セラルヘシ(明治十四年十二月廿二日甲第五十

八號ヲ以テ追加)

第一條 廁構造並尿管取規則

第一項 裏店又ハ長屋ノ總雪隠ハ左ノ方法ニ準據
シテ構造スヘシ但シ在來ノ分ハ向後修繕ノ節補
理スヘシ

第二項 糞尿器ハ成ルヘク陶製ヲ用フヘシ若シ
陶器ヲ用フル能ハサルモノハ必ス油樽ヲ用フ
ルカ厚板ヲ以テ堅固ニ之ヲ製スヘシ

第三項 尋常ノ酒樽砂糖樽酢樽等ハ漏透ノ恐レ
アルヲ以テ決シテ用ユヘカラス

第四項 糞壺糞桶ノ周圍ハ板又ハ石粉石炭等ヲ
以テ製作シ周邊ヲ高クシ壺桶ノ縁ニ接スル所
ヲ低クシ排泄物ヲシテ桶壺内ニ能ク流下セシ
ムルヲ要ス

第五項 雪隠内面ノ壁糞壺ニ近キ四圍ハ必ス漆
喰ヲ以テ上塗スヘシ

第六條 各自便所ハ家屋新築及修繕等ノ節成ルヘ

ク前項ニ準據シ構造スヘシ
 第三條 現在ノ糞桶其構造極メテ粗ナルカ或ハ破壊シテ不潔物ノ漏出スルモノハ成ルヘク速ニ補理ヲ加フヘシ
 第四條 街頭便所ノ尿尿壺ハ石或ハ厚板等ヲ以テ構造シ漏泄ヲ防クヘシ
 第五條 街頭便所ハ尿尿溜堆セサル様郡區役所ニ於テ注意シ時々汲取ラセ五日目毎ニ清水ヲ以テ洗滌スヘシ
 第六條 私有地並街頭便所尿尿汲取方ハ地主又ハ區役所ニ於テ受負人ヲ定メ置クヘシ
 第七條 尿尿汲取期日ハ居住人ノ多少ニヨリ適宜相定メ苦シカラスト雖モ一週間ヲ超ユヘカラス但街頭便所ノ掃除期限ハ第五條ノ通り心得ヘシ
 第八條 尿尿汲取人汲取方ヲ怠リ尿尿溜滞シ或ハ街頭便所不潔ナル場所アルキハ何人ニヨラス警

視分署へ届出ヘシ但本條ノ場合ニ於テハ速ニ人夫ヲ出シ尿尿ヲ汲取掃除ヲ爲サシメ事機ニヨリ其費金ヲ徴收スルコトアルヘシ
 第九條 糞桶ハ左ノ圖ノ如ク臭氣漏レサル様製造スヘシ若粗造ニシテ臭氣漏泄スルモノハ運搬差止相當ノ處分ヲナスコトアルヘシ〔圖面略之〕
 第十條 傳染病流行スルキハ汲取時間ヲ制限スルコトアルヘシ
 第十一條 前條ノ場合ニ於テハ大小便所共日々石炭酸水並臭氣止等ノ藥品ヲ撒布スヘシ
 第十二條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ〔明治十四年十二月廿二日甲第五十八號ヲ以テ追加〕
 明治十二年二月十四日警視本署達
 本年甲第四號布達中廁構造並尿尿汲取規則第八條第九條左ノ手續ヲ以テ處分シ其他條目ニ觸ル、モト見認ムルキハ先以說諭ヲ加ヘ後來ヲ戒メ再三

等閑ノ所爲アル者ハ其事由取調書類ノミ第三課へ
 送付候儀ト可相心得此旨相達候事
 街頭便所ノ尿尿溜滞ト見認ルカ或ハ告知人アル時
 ハ汲取人夫差出シ方區役所へ通知シ掃除ヲ爲サシ
 ムヘシ
 糞桶粗造ト見認メタル者ハ直ニ分署へ拘引シ住所
 姓名等取調速ニ改造スヘキ旨説諭ヲ加ヘ左ノ
 形ヲ下附シ解放スヘシ
 但免手形ハ三日ノ内郵便又ハ便宜ヲ以テ返納セ
 シムヘシ
 免手形書式
 用紙適宜

表

何郡何村
 何 某
 何河岸
 何町村
 差許候事
 本日限り運搬

裏

第何方面何分署印

年月日

〔参照〕

明治十一年十二月四日警視本署甲第六十三號布

水製造人并發賣人取締規則左ノ通相定候條此旨布
 達候事

第一條 水製造人并販賣人取締規則

第一條 凍水ヲ製造セント欲スル者ハ毎年其製造
 場ノ圖面并ニ貯藏スル處ノ地名ヲ詳記シ警視本
 署へ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 卸賣營業ヲサント欲スルモノハ其製造
 人及ヒ製造場ノ地名ヲ詳記シ前條ノ手續ヲナス
 ヘシ

第三條 製造人ハ其製造場ノ裝置等出張検査官吏
 ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條 製造場ハ時々検査官吏ノ巡視スルモノト
 ス若シ有害物ヲ混入スルカ或ハ不潔ノ製ト見認
 ムルキハ其製造ヲ差止メ又ハ投棄ヲ命スルヲア
 ルヘシ

〔參照〕

第五條 凍水ヲ貯藏スルキハ其時々所轄分署へ届出(他管ヨリ輸送スルモノハ其管轄廳許可ノ證ヲ添ユヘシ)檢査ヲ受クヘシ若シ其凍水惡製ト見認ムルキハ第四條ニ準シ處分スルコアルヘシ但貯藏場不潔ナルキハ修理又ハ場所替ヲナサシムルコアルヘシ

第六條 卸賣小賣ノ店頭ニ何地製造ノ氷ト大書シタル看板ヲ掲ケ行商ハ荷ヒ(桶箱)等ニ表出スヘシ

第七條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ(明治十四年十二月甲第五十八號ヲ以テ追加)

明治十一年十月廿九日警視本署甲第五十七號布達

神田玉川兩上水禁例左ノ通相定メ來ル十二月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

神田玉川兩上水禁例

第一條 魚鳥ヲ捕リ及ヒ游泳シ又ハ諸物品ヲ洗フ

〔參照〕

ヘカラス

第二條 塵芥瓦礫其他汚穢物ヲ投棄スヘカラス

第三條 上水ニ沿フタル各地面ヨリ汚水混入セシムヘカラス

第四條 堤上ノ竹木及下草等伐採スヘカラス

第五條 刪除(明治十二年二月廿六日甲第六號布達ヲ以テ第三條第四條改正ノ際刪除セラル)

第六條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ(明治十四年十二月廿二日甲第五十八號ヲ以テ追加)

明治十四年五月十一日警視廳甲第二十五號布達

千川水道取締禁例左ノ通相定候條此旨布達候事

千川水道取締禁例

第一條 魚鳥ヲ捕リ及ヒ游泳シ又ハ諸物品ヲ洗フヘカラス

第二條 塵芥瓦礫其他汚穢物ヲ投棄スヘカラス

第三條 上水ニ沿フタル各地面ヨリ汚水混入セシ

ム可カラス
 第四條 堤上ノ竹木及ヒ下草等伐採スヘカラス
 第五條 水道敷地内へ諸車ヲ輓キ入レ又ハ牛馬ヲ
 率入ルヘカラス但道路ニ係ル分ハ此限ニアラス
 第六條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰
 セラルヘシ(明治十四年十二月甲第五十八號ヲ以
 テ追加)

〔参照〕

明治十三年三月卅日警視本署甲第十七號布達
 諸獸屠場及賣肉規則左ノ通改正候條此旨布達候

事

諸獸屠場規則
 第一條 削除(明治十四年八月廿四日甲第三十九號
 ナ以テ削除セラル)
 第二條 牛羊豕ヲ屠殺セントスル者ハ午前第八時
 ヨリ正午十二時迄ニ諸獸屠場内検査所へ願出ヘ
 シ但検査ハ各人到着ノ順次ニ依ルヘシ
 第三條 屠殺時間ハ時季ニ因テ伸縮スルコトアルヘ

第四條 削除(明治十四年一月廿四日甲第五號ヲ以
 テ削除セラル)
 第五條 外國産ノ牝牛ヲ屠殺セント欲スルハ一
 晝夜検査所へ留置キ精査ノ上其可否ヲ定ムヘシ
 第六條 検査ヲ受ケサル牛羊豕ハ決シテ屠場内へ
 繋クヘカラス
 第七條 種取ノ牝牛ハ屠殺スルヲ許サス
 第八條 屠場外ニ於テ牛羊豕ヲ屠殺スルヲ許サ
 ス但本條ヲ犯ス者ハ不良肉同様ノ處分ヲ以テ現
 物燒棄或ハ埋没スヘシ
 第九條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰
 セラルヘシ(明治十四年十二月廿二日甲第五十八
 號ヲ以テ追加)
 賣肉規則
 第一條 賣肉商人ハ一郡區毎ニ組合ヲ定メ正副取
 締ヲ置キ總テ屠肉販賣上ノ取締ヲナサシムヘシ

第二條 獸肉商業ヲナカントスル者ハ該業取締加
 印ノ上區戶長與印ヲ以テ警視本署へ願出テ免許
 鑑札ヲ受クヘシ若シ轉居スル節ハ同様ノ手續ヲ
 以テ鑑札書換チ願出ツヘシ但廢業ノ節ハ免許鑑
 札ヲ所轄分署へ返納スヘシ
 第三條 賣肉商人ハ左ノ圖式ノ看板ヲ店頭ニ掲ク
 〔雜形略之〕
 第四條 鑑札貸借或ハ無鑑札ヨテ營業スルヲ禁ス
 第五條 卸賣商人ヨリ小賣販賣人へ屠肉ヲ販賣ス
 ルルハ其月日並卸賣商人ノ姓名ヲ記シタル證印
 ヲ付スヘシ
 第六條 他管下又ハ外國ヨリ輸入ノ屠肉ヲ買入ル
 ル者ト雖モ必ス屠場ノ検査ヲ受クヘシ
 第七條 無檢印若クハ腐敗ノ肉ヲ鬻キ又ハ他ノ獸
 肉ヲ混賣スルヲ禁ス
 第八條 新ニ開業スル者等ヨリ出金ヲ促シ又ハ組
 合種々ノ名義ヲ以テ集合スルヲ許サズ但シ止チ

得サル場合アルルキハ當本署へ伺出認可ヲ受クヘシ

第九條 刪除〔明治十一年二月十四日甲第十二號ヲ以テ刪除〕

第十條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ〔明治十四年十二月甲第五十八號ヲ以テ追加〕

〔參照〕

明治十一年六月廿八日警視本署甲第四十五號布達
 牛乳搾取人取締規則更ニ左ノ通改定候條此旨布達候事

牛乳搾取人取締規則

第一條 乳牛ヲ畜養シ乳ヲ搾取セント欲スル者ハ左ノ書式ニ準據シ圖面ヲ添ヘ其區戶長ノ與印ヲ以テ警視本署へ願出鑑札ヲ受クヘシ尤鑑札一枚ヲ以テ二ヶ所ノ象場へ流用スルヲ禁ス〔尤以下二十三字ハ明治十一年七月廿日甲第四十八號ヲ

以テ追加但支店等ヲ設ケテ其牛乳ヲ販賣セシト
 スルモノハ其旨該所轄警視分署へ届出ヘシ(明治
 十三年十月十三日甲第四十三號ヲ以テ追加)
 第二條 若シ居所ヲ轉スル節ハ第一條ノ手續ヲ以
 テ更ニ願出ヘシ
 第三條 象場ハ時々洒掃シ決シテ不潔臭氣ナキヲ
 要スヘシ
 第四條 搾取所ニ牡牛及ヒ牝牛ヲ繫キ置クヘカラ
 ス但シ牝牛ハ生産ヨリ百五十日繫留ヲ許ス(本條
 但書共明治十四年一月廿六日甲第六號ヲ以テ改
 正)
 第五條 牛乳ハ人身ノ健康ヲ保全スル至重ノ飲料
 ニ付他人ノ品種ヲ混和シ及ヒ塵埃等散入セサル様
 注意スヘシ
 第六條 乳汁ヲ運搬シ及ヒ貯藏スルノ器具ハ決シ
 テ銅製ヲ用ユヘカラス
 第七條 畜牛若シ病ニ罹ラハ醫師ヲ招キ治療ヲ乞

ヒ萬一傳染病ノ兆候ト認ムルキハ速ニ其容體書
 ヲ添ヘ所轄警視分署へ届出ヘシ但本條ノ場合ニ
 於ル牛乳ハ一切販賣スルヲ禁ス(但書ハ明治十
 三年七月廿日甲第四十八號ヲ以テ追加)
 第八條 畜牛増減アラハ其時々所轄警視分署へ届
 出ヘシ
 第九條 乳牛若シ狂病犬ノ爲メ咬傷ヲ受ケシ時ハ
 全癒後尙一ヶ月間販賣スルヲ禁ス(明治十一年十
 二月廿五日甲第六十七號ヲ以テ改正)
 第十條 牛乳受賣ヲナスモノハ第五條第六條ヲ遵
 守シ警視本署へ願出鑑札ヲ受クヘシ(明治十三年
 三月四日甲第十三號ヲ以テ改正)

記

何國産

一牛何頭

内

牝何頭

犢何頭

右ハ乳汁搾取ノ爲メ畜養營業致度候間實地御検査

ノ上鑑札御付與被下度尤近隣故障無之候間連名ヲ以テ此段奉願候也

第何大區何小區何町何番地

族籍

何 某印

隣家

何 某印

同

何 某印

同

何 某印

戶長

何 某印

前書之通相違無之ニ付致與印候也

大警視川路利良殿

第十一條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ

罰セラレヘシ(明治十四年十二月甲第五十八號ヲ以テ追加)

〔參照〕

明治九年三月廿四日警視廳第七十七號區戶長へ娼妓儼毒検査規則左ノ通相定候條右渡世筋ノ者へ

可相達事

儼毒検査規則

第一條 貸坐敷アル各地へ儼毒検査所ヲ置キ左ノ

日割ヲ以テ醫員出張シ娼妓ノ儼毒ヲ検査ス可シ

吉原町 月曜日 根津 火曜日 品川 水曜日

新宿 木曜日 千住 金曜日 板橋 土曜日

(明治十一年一月二十八日丙第一號ヲ以テ改正)

第二條 検査所ニハ醫員并立合吏員及娼妓附添婦

人ノ外一切出入ヲ許サス

第三條 検査當日午前第八時半正午十二時半ト兩

度ニ區別シ娼妓ヲ検査所ニ出頭セシメ到着毎ニ

番號札ヲ付與シ順次ニ之ヲ檢スヘシ但午後第三

時ニ終ル可シ

第四條 各娼妓ニ其氏名住所等ヲ記シタル検査札

ヲ豫メ付與シ置キ之ヲ検査所ニ持參セシメ其儼

毒ヲキ者ハ検査醫員ノ印ヲ押シ有毒ノ者ハ入院

ノ印ヲ押シ其數ヲ扣ヘ置キ(明治九年九月八日乙

第十五號ヲ以テ追加)之ヲ下附シ其患者最寄警視
病院ニ送リ治療ヲ加フヘシ但平癒退院ノ節検査
札ニ其月日ヲ記入シ押印シテ當人ニ下付スル本
文ニ同シ

第五條 検査期日内ト雖ヒ黴毒ニ感染スル者ハ病
院ニ於テ臨時検査ヲ爲スヘシ

第六條 検査ノ日事故アリテ不參スルハ其届書
ニ正副元締中ノ添書ヲ以テ出スヘシ他ノ病患ニ
係ル者ハ醫者ノ診断書ヲ添フ可シ検査醫員ハ該
家ニ臨ミ病床ニ就テ之ヲ検査スヘシ

第七條 検査ノ日出頭時刻ニ後ル、者ハ病院ニ送
リ之ヲ検査スヘシ

第八條 正副元締ハ検査所ノ雜務及患者ヲ病院ニ
送迎スルノ取計ヲナシ且検査中ノ取扱ハ娼妓附
添ノ婦人ヲ用ユヘシ但娼妓ヨリ請取リシ検査札
入院ノ押印アルモノハ簿冊ニ其旨ヲ記シ入院證
書ニ患者ノ姓名并座敷主ノ住所姓名ヲ肩書シ及

ヒ病院宛月日等ヲ記入シ検査醫員ノ檢印ヲ受ケ
之ヲ取締官員ニ出スル(明治九年九月八日乙第
十五號ヲ以テ追加)

第九條 新タニ娼妓ヲシテ願フ者ハ黴毒ヲ有
無ヲ検査スヘシ

第十條 此規則ニ違背シ及ヒ怠慢失誤アル者ハ三
圓ヨリ多ガラサル罰金ヲ科スヘシ

(編者曰ク右ニ掲グル規則ノ中黴毒検査規則ハ警察
上純乎タル健康保護ノ規則ヨリ本項適中
ノモノナレトモ同規則第十條ニ三圓ヨリ多ラサル罰
金ヲ科スルノ明文アルヲ以テ見レハ所謂他ノ法律

規則ニシテ此違警罪ヲ以テ罰スル能ハサルモノハ
如シト雖ヒ法律上ノ格言ニ新法ハ舊法ノ之ニ牴觸
スル者ヲ廢スト故ニ舊規則ノ刑新法之ヲ輕スルハ
ハ則チ新法施行以後ハ罪新法ノ輕刑ニ從ハザル可
カラズ黴毒検査規則ニ至テモ亦異ナルノ理由アル

トナシ

〔參照〕

明治十三年七月九日太政官第三十四號布告

明治十二年八月第三十二號虎列刺豫防假規則

應シ傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺腸室扶

私赤痢實布埤利亞發疹室扶私及ヒ痘瘡ノ六病ヲ

云フ但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆

ルハ地方長官ハ內務省ニ具申シ豫防法ヲ執行

スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ遲クモ二十

四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村衛生委員ニ通知ス

ルヲ要ス衛生委員ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警

察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳(東京府下

ハ府廳及ヒ警視本署)ニ届出ヘシ但土地ノ便宜ニ

依リ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出警察署ヨリ衛生

委員ニ通知スルモ妨ナシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト

認ムルハ其性狀ヲ記シテ速ニ之ヲ內務省ニ申

報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣

最寄兵營其地碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ但流行

ノ勢盛ナルハ毎週ニ新舊患者及ヒ治癒死亡ノ

數ヲ內務省ニ申報スヘシ

第四條 虎列刺發疹室扶私ノ病者アルハ地方廳

ニ於テ直ニ此規則ヲ施行シ他ノ四病ハ其流行ノ

勢盛ナルニ及ヒ之ヲ施行スヘシ

第五條 諸官廳兵營軍艦監獄及ヒ官立ノ學校病院

製作所等ニ於テ傳染病者アルハ其主長ハ該地方

官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺赤痢發疹室扶私痘瘡ノ流行ニ際シ

地方長官ニ於テ豫防ノ爲避病院ヲ要スヘキト認

ムルハ內務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルヲ得但

人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許

可ヲ請フヘシ

第七條 醫師並ニ衛生委員ニ於テ傳染病者ノ看護
行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル
者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ
書シテ門戸ニ貼付シ要用シ外他人ト交通ヲ絶タ
シムヘシ但患者治癒死亡又ハ避病院ニ入リタル
後相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵
守セシムヘシ

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物其運搬
夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セ
シムベシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍其埋葬地ヲ區劃シ濫
リニ雜葬セシムヘカヲ大且ツ他ニ改葬スルヲ許
サス但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬
スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及

ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ
之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉河流水道及ヒ
圃圃芥溜下水溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘ
キ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルキハ船舶交通ノ地方ニ
於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ檢査シ患者若ク
ハ死者アルキハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛劇ナルキハ地方長官
ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏郡
區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員トナ

シ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得
第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇
場等人民ノ群集ヲ差止ルヲ得

腸室扶私病

第十六條 腸室扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條
及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及
第十二條ヲ適用スヘシ

實布埜里亞病

第十八條 實布埜里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適
用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若ク
ハ埋却セシムヘシ

發疹室扶私病

第十九條 發疹室扶私病流行ノ際ハ第十條第十
條第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適
用スヘシ

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタ
ル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用
ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條 痘瘡病流行ノ際ハ第十條第十一條第
十二條及ヒ第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接

近セシムヘカラス

罰則

第二十二條 醫師衛生委員此規則ニ違背シタルキ
ハ五十圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違
背シタルキハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルキハ一圓五
十錢以内ノ科料ニ處ス

五 人ノ通行スヘキ場所ニアル危険ノ井溝其他凹所
ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サル者

〔解〕

本項ハ通行人ノ危害ヲ豫防スルノ精神ニ出ルモ
ノトス

衆人ノ通路トナルヘキ場所ニアル井戸又ハ溝渠其
他凹所ハ人ヲシテ陷落セシムルノ危険アレハ必
スシモ蓋又ハ防圍ヲナサ、ルヘカラス若シ等閑ニ
附シ之ヲナサ、ルハ即此項ノ罪タリ

且ツ其之ニ罰セラルル者ハ則其擔當者タル地主或ハ看守者(借地主又ハ差配人ノ如キ者)タル者
六 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嚇シ又ハ驚逸セシメタル者

〔解〕 本項モ亦行人等ニ驚怖ノ念ヲ生セシムルヲ豫防スルモノトス

本項云フ所ノ犬ハ本條第八項ノ如キ狂犬ニ非ラサルモノニシテ獸類モ亦猛獸ニ非ラサル即チ牛馬ノ如キモノヲ云フ而シテ之ヲ嚇ケ之ヲ驚逸セシメ爲メニ往來ヲ妨ケ若シハ行人ヲ驚怖セシムルモノハ素ヨリ罰セサルヘカラサルモノナレハナリ

七 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊モシメタル者

〔解〕 本項モ亦行人ニ危害ヲ加ヘンコトヲ豫防スルモノトス

凡テ發狂人ハ精神ノ錯亂シタル者ナレハ如何ナル舉動ヲ爲スモ圖リ難キヲ以テ必ス常ニ看守者ヲ置キ之ヲ屋外ニ出サシムヘカラサルモノナリ其故ニ發狂人路上ニ徘徊スルハ全ク看守者ノ怠慢ニ因ルモノナレハ之ヲ罰セサルヘカラス
且ツ夫レ精神錯亂シタル者ハ如何ナル罪ヲ犯スモ法律上之ヲ罰スルヲ得サルモノナレハ實ニ他ニ懲戒ノ道ナク單ニ之ヲ看守スルノ外ナキモノトス

八 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放テタル者

〔解〕 本項モ亦行人ニ危害ヲ加ヘンコトヲ豫防スルモノトス

狂犬其他猛獸(狼熊ノ如キ者)ハ實ニ人ヲ傷害スルノ虞アルモノナレハ之ヲ畜養スルニハ堅牢ニ繫鎖ヲ爲シ路上ニ出テサル様最モ注意セサルヘカラス故ニ若シ其繫鎖ヲ怠リ路上ニ放ツキハ則チ此項ノ罪タルナリ

變死人ノ檢視ヲ受ケヌシテ埋葬シタル者

〔解〕

本項ハ私利ヲ思フテ公益ヲ害スルヲ豫防スルモノトス

變死人(病死ノ外謀故殺ヨリ自殺マテノ總稱)アルハ必ス警察官吏ノ檢視ヲ受ケテ埋葬スヘキモノナルヲ其手數ヲ厭ヒ竊ニ之ヲ埋葬シタルヲ云フ其之ヲ罰スルハ何ソヤ蓋シ變死人ハ前ニ述フルカ如ク警察官吏ニ於テ檢視ヲナサハルヘカヲサレモノタリ然ルニ私ニ埋葬スル時ハ爲メニ證據等モ湮滅シ速ニ致命ノ原因ヲ知ル能ハサルニ至ルノ恐アレハナリ

十 墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者

〔解〕

本項ハ尊敬ノ意ヲ失ヒ風俗ヲ紊亂スルヲ豫防スルニ出ルモノトス

- 一 本項罰スベキ場合別テ四トナス
- 一 墓碑ヲ毀損シタル者
- 二 墓碑ヲ汚瀆シタル者
- 三 路上ノ神佛ヲ毀損シタル者
- 四 路上ノ神佛ヲ汚瀆シタル者

瀆シタル者

第一ノ場合トハ墳墓ノ石碑ヲ毀テ損シタルヲ云フモノナリ而シテ其石碑タル他人ノ所有ニ係リタルモノニシテ自己ノ所有ニ係ルヲ論ゼサルナリ何トナレバ自己ノ所有ニ係ル者ヲ毀損スルモ爲メニ世上一般ノ害ヲ惹起スコトナシ但其所爲タル固ヨリ是非スト雖モ所有權ヲ有スル者ノ行フ所ナレバ敢テ法律ヲ以テ制裁スルニ及ハザルナリ第二ノ場合ニ至リテ亦同シ

第二ノ場合トハ大方右ニ述ルガ如ク其汚瀆シタル者トハ不潔物ヲ以テ穢シ或ハ樂書シタル者ヲ云フ

第三ノ場合トハ路上ニ在ル神佛例ヘハ地藏菩薩若クハ庚申塔等ノ如キモノヲ徒ラニ毀テ損シタルモノヲ云フ

第四ノ場合トハ右地藏又ハ庚申塔等ノ如キヲ穢シ又ハ樂書シタルモノナリ

蓋シ之ヲ罰スルハ畢竟神佛ヘ對シ不敬ヲナシ遂ニ

十一

社會ノ風俗ヲ壞亂スルニ至ルノ虞アレハナリ然レ
 刑法第二百六十三條ニ所謂神祠佛堂墓所其他禮
 拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十
 圓以下ノ罰金ニ處ストノ如キトハ負カニ相輕キモ
 ノナリ則第二百六十三條ニ云フ所ハ公衆ノ目撃ス
 ル所又ハ公ケノ場所ニ於テ神佛ヲ侮慢シ又ハ其神
 體佛像若クハ其附屬物ヲ汚穢シ又ハ之ヲ破壞シテ
 憚カラサル者ヲ云フナリ看者幸ニ混同スル勿レ

神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者

〔解〕

本項モ亦尊敬ノ意ヲ失ヒ社會ノ風俗ヲ紊ルヲ豫
 防スルノ主旨ニ出ルモノトス

神祠佛堂其他公ノ建造物(學校病院救育所集會所ノ
 類)ヲ汚損スルトハ樂書又ハ貼紙ヲナシ或ハ泥土ヲ
 擲ツテ門戶牆壁ヲ汚シ又ハ些少ノ毀損ヲ爲シタル
 カ如キ類ヲ云フ

十二

公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但告訴ヲ待テ其罪

ヲ論ス

〔解〕

本項ハ社會ノ不穩ヲ引起シ人身ニ危害アラソク
 豫防スルニ出ルモノトス

衆人ノ目前ニ於テ公然人ヲ罵詈シ又ハ嘲弄シテ耻
 辱ヲ被ラシムルヲアルモ其人ノ性質ニ因リ或ハ之
 子感觸スル者ト感觸セサル者ト又之ニ感觸スルモ
 己レノ名譽ヲ厭ヒ之ヲ公ケニセサル者トアレハ彼
 刑法第三百五十八條及ヒ第三百六十條第三百六十
 一條ニ記載スル誹毀ノ罪ト同シク告訴ヲ待テノ上
 其罪ヲ論スヘキモノトス

本項公然云々トアルヲ以テ見ルキハ公然ニ非サル
 モノ即チ二人相對シテ詈罵シタルカ如キハ縱令告
 訴アルモ其罪ヲ論スル能ハサルカ如シ蓋シ二人相
 對ノ罵詈ト雖モ強チ之ヲ罰セサルニ非ラス然レモ
 其實際ニ於ケル證據ヲ得ル甚タ難ク又公然ノ二字
 ナキハ私カニ罵詈シタル者モ亦罰セサルヲ得サ
 至ルヲ以テナリ

第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

罵詈シタル者トハ人ヲ指シテ馬鹿ト罵リ畜生ト詈ルカ如キヲ云ヒ嘲弄シタル者トハ形容動作ヲ以テスルモノヲモ包含シテ云フモノナリ

〔解〕

本條ハ前掲違警罪種別ニ所謂第三種ノ罪ニシテ之ヲ第一二種ニ比スレハ稍又其輕キモノナリ其他前條々ニ詳解スルヲ以テ再說セズ
 本條一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ストアレハ其加重減輕スヘキ場合ニ在テハ科料ハ加ヘテ一圓五十六錢二厘五毛迄ニ至ルヲ得又減シテ五錢迄ニ至ルヲ得然レハ拘留ハ加重減輕スルモ其名ノミニシテ實ナキ場合ナキニ非ラス(例ハ拘留三日ニ當ルキトセシ平此場合ニ於テ一等ヲ加減スルキハ則チ三日ノ

四分一(十八時間)ヲ加減セサルヘカテサルカ如シ然レハ端數一日ニ滿サル者ハ除棄スルヲ以テ同ク三日タリ故ニ之ヲ拘留二日ニ該ルキトスルモ一日ニ該ルキトスルモ亦敢テ異ナルヲナシ尤モ減輕ニ在テハ二等以上ヲ減スルヲ得ルヲ以テ若シ二等以上ヲ減スルキニ至リテハ自ラ差異ナキニ非ラサルナリ(其他第四百廿五條ニ於テ詳解スルヲ以テ復茲ニ贅セズ)

一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

〔解〕

本項ハ往來通行人ニ危害アラントテ豫防スルモノトス
 急速ヲ要スル事故ナクシテ馭者馬丁又ハ人力車挽等濫リニ馬車及ヒ人力車ヲ疾驅シ若シハ乘馬シテ疾驅シ因テ通行人ノ妨害ヲナシタルヲ云フ且ツ此項ハ二元素具備スルニ非サレハ罰スルヲ能ハサルナリ元素トハ何ソヤ曰ク濫リニ車馬ヲ疾驅

二 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ

スルヲ曰ク行人ノ妨害ヲ爲シタルト是レナリ故ニ
車馬ヲ疾驅スルモ行人ノ妨害ヲナサハル者ハ未ダ
此項ヲ以テ罰スル能ハス又多少行人ノ妨害トナリ
タルモ濫リニ車馬ヲ疾驅シタルニ非ラサレハ未ダ
此項ヲ以テ罰スル能ハサルナリ蓋シ濫リニ疾驅ス
ルニ非ラサレハ行人ノ妨害トナルヲ實際稀ナリ例
ハ街角橋梁等ヲ徐行スルニ際リ偶然人アリ之ニ
衝突スルカ如キハ素ヨリ此項ノ罪ヲサレナリ且
ツ道路ニ横タヘ行人ノ妨害ヲナシタル等ハ第四百
廿九條第二項ニ依テ罰セラレヘシ
本項濫リニトアルハ則眼目ノ字ニシテ例ヘハ必要
ナルニ非サルカ又ハ時トナ願ミサルヲ云フモノナ
リ

〔乙篇違警罪目第四項註解馬車取締規則第廿條及人
力車規則第十四條參照スヘシ〕

牽キタル者

〔解〕

本項モ亦其主旨前項ト同シ
制止ヲ肯セスシテトハ例ヘハ蠟堯町水天宮又
ハ虎ノ門琴平神社深川不動尊等ノ祭日又ハ縁日ノ
如キ人ノ群集スル場所ニ於テハ平常車馬ノ通行シ
得ヘキ場所ト雖モ警察官ノ見込ミヲ以テ馬車取締
規則第二十二條及ヒ人力車取締規則第十五條ニ依
リ一時車馬ノ通行ヲ制止スルモノトス然ルニ之ヲ
肯ンセズ群集ノ場所ニ牽キ入レタルモノヲ罰スル
モノナリ
蓋シ人ノ群集シタル場所ヘ牽入ルハ甚ハ恐ラクハ
人ヲ損傷スルヲアラフ故ニ最モ注意セサルヘガラ
サルモノナレハナリ

三 夜中燈火ヲクシテ車馬ヲ疾驅シタル者

〔解〕

本項モ亦往來通行人ニ危害アラフヲ豫防スル
モノトス

夜中燈火ナク馬車人力車疾驅シ若クハ乘馬シテ
 馳驅スルモハ通行人ヲ觸倒シ傷害ヲ加フルノ危険
 アリ故ニ之ヲ罰スルモノナリ
 本項云フ所ノ車馬トハ多ク馬車人力車乘馬ヲ指ス
 モノニシテ彼運送ニ用フル荷車其他牛馬ハ包含セ
 サルモノ、如シ何トナレハ荷車其他ノ牛馬ハ概子
 疾驅セサルモノナルヲ以テ燈火ナキモ之ヲ罰セサ
 ルト明カナレハナリ且本項ハ三元素具備スルニア
 ラサレハ之ヲ罰スル能ハサルナリ即チ夜中燈火ナ
 キト車馬ヲ疾驅スルト是レナリ故ニ夜中燈火ヲ點
 セサルモ疾驅セサルモ未タ此項ヲ以テ罰スル能
 ハス又疾驅スルモ燈火ヲ點スルモ未タ此項ヲ以
 テ罰スル能ハサルナリ
 本條第一項及ヒ本項中ニ於テ車馬ヲ疾驅云々トア
 リ蓋シ其精神ハ人ノ乘リタル車馬ナレハ必ス皆疾
 驅スルモノトシテ疾驅云々ト定メタルナルヘシ然
 リト雖モ斯ク明文アル以上ハ其疾驅セサルハ(即徐

行緩歩)素ヨリ罰スル能ハサルヲ論チ待タサルナリ
 但本項一ノ例外アリ即都會街燈アル地(東京ニ於テ
 ハ銀座日本橋淺草通)ノ如キ是レナリ此場所ニ在
 テハ人力車ニ限リ燈火ヲ點ト雖モ疾驅スルヲ許
 スモノトス

四 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識
 ノ點燈ヲ怠リタル者

[解] 本項ハ往來通行人及ヒ車馬等之ニ衝突スルノ危
 害ヲ豫防スルモノトス

木材瓦石等道路ニ堆積スルトハ(例ヘハ街路取締規
 則第六條第四項及ヒ同規則第八條)ノ如キ場合ニ於
 テ一時又ハ數日間之ヲ堆積スルモ云フ此場合ニ
 於テハ必ス之ヲ防圍ヲ設クルカ又ハ標識(目印)ノ點
 燈(提灯)ノ如キヲ建テサルヘカラス若シ之ヲ防圍ヲ
 爲サス又ハ點燈ヲ怠ルモハ一般ノ通行ヲ妨害シ及
 ヒ車馬ノ之ニ衝突スルノ虞アリ故ニ之ヲ罰スルモ

ノナリ且ツ本項防圍ヲ設ケ又ハ點燈ヲ怠ラサルモ
 街路取締規則第六條第四項及ヒ第八條ノ手續ヲナ
 サルモ同規則即乙篇違警罪目第一項ニ依テ罰
 セラルモトス
 蓋シ本項即刑法違警罪ニ於テ罰セサルモノヲ便宜
 法違警罪ニ於テ罰スルハ何ソヤ是レ則チ街路取締
 規則第六條第四項ハ所轄警察署へ出願スヘキモノ
 ニシテ其許可スルト否サルトハ全ク警察署ニ於テ
 實地差支ナキモノト見認ムルト否トニアルモノナ
 レハ其手續ヲナサハ自ラ其權ヲ擅ニシタル者
 ナレハナリ
 [乙篇違警罪目第一項註解街路取締規則第六條第四
 項同第八條參照スヘシ]

五

瓦礫ヲ道路家屋園圍ニ投擲シタル者

[解]

本項ハ往來其他ノ人へ危害ヲ加ヘンコトヲ豫防ス
 ルモノトス

人ノ通行スル道路ニ於テ徒ラニ瓦石小石ヲ投ケ付
 ケ又ハ人ノ家屋園圍内ニ投擲スルハ實ニ危險少ナ
 カラス故ニ之ヲ罰スルモノナリ
 道路トハ水路(即川堀)ヲモ包括スルナリ
 家屋トハ船舶ヲモ包括スルナリ
 園圍トハ庭前又ハ牧畜場(鶏杯飼放アル場所)ヲモ云
 フ

六

禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者

[解]

本項ハ一ハ健康ヲ保護シ一ハ往來ニ妨害アルヲ
 豫防スルモノトス

禽獸ノ死屍アレハ之ヲ田園ノ培養ニ供スルカ又ハ
 之ヲ地中ニ埋ムヘキモノナルヲ其勞ヲ厭フテ之ヲ
 道路ニ棄擲シ又ハ道路ニ禽獸ノ死屍アルヲ取除カ
 サレハ往來通行人ノ妨害トナルノミナラス健康上
 ニ取り害アレハ則此項ヲ以テ罰スルモノトス

汚穢物ヲ道路家屋園圍ニ投擲シタル者

〔解〕

本項モ亦一ハ健康ヲ保護シ一ハ他人ニ妨害アラ
 シトテ防止スル者トス
 汚穢物トハ糞尿其他腐敗物ノ類ヲ云フ是等ノ物テ
 人ノ通行スル道路又ハ家屋園圃内ニ投擲シテ他人
 ナ迷惑セシムルモノハ即チ此項ノ罰スル所タリ
 道路家屋園圃ノ解ハ本條第五項ニ詳解セリ
 且ツ川堀等へ投擲スルモノモ本項中ニ包括セサル
 ニ非ラス然レモ川堀へ投棄ニ付テハ前條第四百廿
 六條第四項詳解参照ノ部市街掃除規則第九條ニ明
 文アルヲ以テ該項ニ依テ罰スヘキモノトス

八

警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者

〔解〕

本項ハ社會ノ安寧ヲ保ツ爲メ設ケタル警察ノ取
 締規則ニ違背シ工業又ハ商業ヲ爲ス者ヲ禁スル
 モノトス

警察ノ規則トハ八品商取締規則寄席取締規則旅人
 宿規則揚弓店取締規則雇人受宿規則湯屋取締規則

兩替屋取締規則小形旅客汽船取締規則等ヲ云フモ
 ノニシテ例ヘハ八品商中居商ニシテ店頭ニ看板ヲ
 掲ケス又ハ行商ニシテ鑑札ヲ携帯セサル者八品商
 取締規則第七條寄席ニ於テ種々ノ名目ヲ以テ來客
 へ圖チ賣リ出錢ヲ促シタル者寄席取締規則第九條
 旅人宿ニ於テ客ノ依囑ヲリモ藝妓酌人等ヲ招聘シ
 タル者旅人宿規則第十四條揚弓店ニ於テ客ノ囑托
 ト雖モ宿泊セシメ又ハ酒肴ヲ差出シタル者揚弓店
 取締規則第六條雇人受宿ニ於テ定リタル世話料ノ
 外種々ノ名目ヲ以テ雇主雇人ヨリ金錢ヲ食リ又ハ
 雇人ノ懐胎ヲ押隠シ口入シ或ハ雇人口入レニ事寄
 セ止宿セシメタル者雇人受宿規則第十三條浴場ニ
 於テ男女ノ區域ヲ設ケス混同セシメタル者湯屋取
 締規則第六條兩換屋組合頭取ニ於テ監視廳ヨリ布
 達スル者ヲ組合中へ通達セサル者兩替渡世組合取
 締規則第二項旅客汽船内ニ於テ船體汽機ニ用ユル
 ニ非ラサル石炭油其他揮發性ノ油ヲ用ヒタル者小

〔參照〕

形旅客瀛船取締規則第三十八條ノ如キ類ナリ

明治九年十一月廿二日警視廳甲第八號布達
八品商取締規則左之通改定候條此旨布達候事

第一條 八品商取締規則

各條ノ規則ヲ遵守セシムル事
第一條 左ノ商業ヲ營ム者ヲ八品商ト總稱シ以下

質屋

古著賣買

古銅鐵賣買

古道具屋

雜道具屋

袋物屋

紙屑賣買

鼈甲屋

飾屋

箔打職

損料貸

染物屋

西洋古服靴傘賣買

潰シ金銀賣買

大道具屋

時計屋

小間物屋

古本商賣

鼈甲職

飾職

仕立職

諸車製造職

古道著等羅市場

鑄物職

煙管屋

馬具并革細工職

靴職

上繪職

〔損料貸以下錠前職マテ明治十年七月五日甲第十

八號ヲ以テ追加〕

第二條 右商業ハ一小區限リ組合ヲ立テ正副頭取

ヲ置キ組合中諸事取締可致事但正副頭取ハ同業

中人數ノ多寡ニヨリ適宜ニ之ヲ増減スルヲ以テ

豫メ其員ヲ定メス

第三條 頭取ハ品觸其他當廳ヨリ達アラハ速ニ組

合ハ廻達可致事

第四條 頭取ハ組合名前帳ヲ製シ商業並住所本籍

寄留姓名年齢等ヲ記載シ銘々實印ヲ取り置クハ

キ事

第五條 此商業ヲ爲サント欲スル者ハ戶長並組合頭取ノ與印ヲ以テ當廳ヘ願出テ鑑札ヲ可受事但質屋ハ東京府ヨリ營業鑑札ヲ受ケ候上本文ノ如ク出願スヘシ

第六條 轉業及ヒ廢業ハ第五條ノ手續ヲ以テ鑑札返納可致事

第七條 居商ハ店頭ニ看板ヲ掲ケ行商ハ鑑札ヲ携帶スヘキ事

第八條 開業廢業並移轉死亡等ノ者ハ頭取ノ手ヲ經テ警視署及ヒ區務所ヘ届出ヘキ事

第九條 無鑑札並組合ニ入ラス商業決テ不相成事第十條 鑑札ヲ他人ニ貸與ヘ或ハ借受ケ商業不相成事

第十一條 各商共左ノ二種ノ帳簿ヲ製シ置キ無遺漏記載當廳取調ノ用ニ供スヘキ事

第一 明細帳

此帳簿ニハ質入レ主賣主等ノ住所姓名品極ヲ詳記シ置クヘシ若シ住所姓名熟知セサル者ハ第十三條ノ手續ヲ爲スヘシ〔明治十年二月二十一日甲第十二號ヲ以テ改正〕

第二 品觸綴帳

此帳簿ニハ紛失品觸ヲ綴リ置ク可シ

第十二條 前條ニ記ス第一ノ帳簿ニハ頭取ノ認メ印ヲ受ケ紙數ヲ記載シ置クヘキ事

第十三條 質入レ主賣主住所姓名等熟知セサル者ハ證人壹人爲相立必其兩判ヲ取置クヘシ尤證人ハ男女ヲ論セス其住所姓名ヲ知ル者ニ限ルヘキ事

第十四條 官廳ノ印アル品或ハ官品ト見定メタル物ヲ質入シ又ハ賣却シ或ハ染色模様等ヲ變換スル者アラハ手段ヲ以テ之ヲ留メ置キ巡行ノ巡查又ハ最寄ノ警視署ヘ密告スヘキ事

第十五條 質入レ主又ハ染物等ヲ頼ム者ヲ怪シク

見受ケタルキハ速ニ前同様訴出ツヘキ事
 第十六條 品觸ニ類似ノ物品アラハ速ニ其所轄ノ
 警視署へ訴出ツヘキ事
 第十七條 途中往來ニ於テ物品買取ル可ラサル事
 第十八條 紙屑買及ヒ古着古銅鐵等買廻ル者ハ左
 ノ圖式ノ木札ニ警視本署ノ檢印ヲ受ケ其携帶ス
 ル目籠行李等へ必ズ標出スヘシ(明治十一年六月
 十三日甲第四十號ヲ以テ改正)但雇人ニシテ買廻
 ルモノハ其傭主ヨリ本條ノ手續ヲ以テ檢印願出
 ツヘシ

堅七寸

巾二寸五分

第何大區何小區
 何町何番地
 何 某
 明治十一年何月
 何年何ヶ月
 年 齡

木品本人ノ
適宜ニ製ス

傭人之分

第何大區何小區何町
 何番地某傭人、
 、
 、
 、

寸法木品前
ニ同シ

第十九條 行商ハ決シテ商業外ノ物品ヲ買取ル可
 ラス且必ズ秤ヲ携フヘキ事
 第二十條 新ニ組合ニ加入スル者ヨリ種々ノ名目
 ナ以テ金錢等ヲ取集ムル儀決シテ不相成事
 第二十一條 正副頭取ハ勿論各商共此規則ニ違犯
 シ其他不正ノ所業有之ヲ見聞候ハ、速ニ所轄ノ
 警視署へ密告スヘキ事
 第二十二條 不正品ト心付キ品觸ヲ待タズ速ニ訴
 出ル者ハ他日不正タル事顯然タル節ハ其賞トシ
 テ金五圓以下ヲ給ス品觸アリテ速ニ訴出テ右同

〔参照〕

斷之者ハ金三圓以下ヲ給與スヘキ事
 第二十三條 總テ此規則ニ違背スル者ハ鑑札取揚
 ケ又ハ取揚ケス裁判所ニ移シ〔明治十年一月廿八
 日甲第九號ヲ以テ改正〕處分可申付事〔明治十一年
 一月十五日甲第四號ヲ以テ追加〕
 第廿四條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰
 セラルヘシ〔明治十四年十二月廿二日
 明治十年二月十日警視本署甲第六號布達
 寄席取締規則更ニ左ノ通相定候條此旨布達候事
 寄席取締規則
 第一條 寄席ヲ營ム者ハ其區戸長ノ與印ヲ以テ東
 京警視本署ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ但シ廢業ノ節
 ハ本文ノ手續ヲ以テ鑑札ヲ返納スヘシ
 第二條 右營業ノ者ハ警視一方面毎ニ〔明治十一年
 八月六日甲第四十九號ヲ以テ改正〕一組トシ組合
 中ヨリ年行事二名或ハ三名ヲ置キ諸事取締ヲナ
 スヘシ

第三條 寄セ席ニ於テ猥褻ノ講談及ヒ演劇類似ノ
 所作又ハ燈火ヲ消シ客席ヲ暗黒ニスヘカラス〔明
 治十一年一月廿八日甲第八號ヲ以テ改正〕但鑑札
 所持セサル藝人ニ出席ナサシムヘカラス
 第四條 座席ヲ清潔ニシ及ヒ空氣流通ノ爲メ窓牖
 ナ適度ニ取設クヘシ
 第五條 來客ヲシテ藝人休憩所ヘ出入セシムヘカ
 ラス
 第六條 夜分ハ午後十二時限リ閉席スヘシ
 第七條 烈風ノ節ハ勿論平常タリトモ火ノ元厚ク
 注意スヘシ
 第八條 犯罪人人相書ヲ以テ布達アルモノ及ヒ其
 他不審ト見認ムルモノハ速ニ最寄警視分署或ハ
 巡行ノ巡查ヘ密告スヘシ
 第九條 種々ノ名目ヲ以テ來客ヘ圖ヲ賣リ出錢ヲ
 促スヘカラス
 第十條 組合入費杯ト唱ヘ無謂集金スヘカラス但

已ムヲ得ス集金ヲ要スル節ハ其事由ヲ具シ東京
 警視本署へ伺出スヘシ
 第十一條 刪除(明治十一年二月十四日甲第十二號
 ナ以テ削除
 第十二條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ
 罰セラルヘシ(明治十四年十二月廿二日甲第五十
 八號ヲ以テ追加)

〔參照〕

明治十年二月十三日警視本署甲第八號布達
 楊弓店取締規則左ノ通相定候條此旨布達候事
 楊弓店取締規則
 第一條 楊弓店渡世ノ者ハ其區戶長ノ與印ヲ以テ
 東京警視本署へ願出鑑札ヲ受クヘシ但シ鑑札料
 金五錢ヲ納ムヘシ
 第二條 右渡世ノ者左ノ雛形ノ看板ヲ店頭ニ掲ク
 ヘシ

□楊弓店 姓名

豎三尺
 幅七寸

第三條 廢業ノ節ハ第一條ノ手續ヲ以テ所轄警視
 分署へ鑑札返納スヘシ
 第四條 水火盜難等ニ罹リ鑑札遺毀シタルモノハ
 其事由ヲ詳記シ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ
 受クヘシ
 第五條 夜間ハ午後十二時限リ閉店スヘシ
 第六條 猥褻ノ所業ハ勿論行人ヲ抑留シ又ハ來客
 ナ宿泊セシムヘカラス尤モ客ノ囑托ト雖トモ酒
 肴等ヲ差出スヘカラス但シ猥褻ノ所業アル者ハ
 元警視廳明治九年一月第二十三號達賣淫罰則ニ
 照ラシ處分スヘシ

- 第七條 同渡世中犯則ノ者アラハ警視署へ申出ツ
- 第八條 犯罪人相書ニ類似ノ者ハ勿論其他不審ト認ムル者ハ警視分署又ハ巡行ノ巡查へ密告ス
- 第九條 投扇競ヲ以テ營業トナス者モ總テ此規則ヲ遵守スヘシ
- 第十條 刪除(明治十一年二月十四日甲第十二號ヲ以テ刪除)
- 第十一條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラレヘシ(明治十四年十二月廿二日甲第五十八號ヲ以テ追加)

〔参照〕

明治十年十月廿二日警視本署甲第五十二號布達
 雇人受宿規則左ノ通改正候條此旨布達候事
 第一條 雇人受宿渡世ノ者ハ第一號書式ニ照ラシ身元受人組合取締及其區長ノ加印ヲ以テ警視本署へ願出鑑札ヲ受クヘシ但鑑札料十錢ヲ納ム

第二條 右渡世ノ者ハ左ノ雛形ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

<div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: 0 auto; padding: 5px;"> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 雇人受宿 </div> <div style="text-align: center;"> 姓名 </div> </div>
--

豎三尺
 幅七寸

- 第三條 受宿ハ雇人一切ノ保證ヲナスモノナレハ身元儘ナル者ニ限ルヘシ
- 第四條 受宿身元受人ハ東京在住ニシテ百圓以上ノ不動産(土地家屋等)運搬スヘカラサルモノヲ云)チ有シタルモノニ限ルヘシ
- 第五條 廢業ノ節ハ第二號書式ニ照ラシ所轄警視分署へ鑑札返納スヘシ但移轉ノ節ハ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受ク可シ
- 第六條 水火盜難等ニ罹リ鑑札ヲ遺毀シタルモノ

ハ其事由ヲ詳記シ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札
 ヲ受クヘシ
 第七條 一大區限リ組合ヲ定メ取締一名副取締三
 名或ハ四名ヲ置キ組内取締ヲナスヘシ但シ朱引
 内組合ニ加入スヘシ
 第八條 取締ハ諸布達及犯罪人人相書等ヲ組合中
 へ廻達ノ手續ヲナスヘシ
 第九條 取締給料トシテ受宿一戸ニ付月々金拾五
 錢差出スヘシ但シ諸布達謄寫ハ筆墨紙等ノ諸入
 費ハ毎月計算表ヲ作り營業者へ賦課スヘシ
 第十條 鑑札ヲ受ケス又ハ組合ニ入ラスシテ營業
 ヲナスヲ禁ス
 第十一條 受宿世話料ハ雇人男女ニ(不拘)給金高ノ
 一割ト定メ雇主傭人雙方ヨリ五分宛申受クヘシ
 第十二條 雇期限中雇主及ヒ雇人ノ都合ニヨリ解
 雇スル節給金下渡及返却又ハ世話料償ヒ方(警ハ
 一ケ年十圓ノ給金ニテ約定シ六ケ月目ニ至リ傭

主ノ都合ニヨリ解傭スルキハ傭人へ償フノ類傭
 人ノ都合ヲ以テ解傭スル節モ亦同シ)等ハ受宿主
 立合傭主傭人ノ間ニ條約取結置クヘシ
 第十三條 定リタル世話料ノ外種々ノ名義ヲ以テ
 雇主雇人ヨリ金錢ヲ貪リ又ハ雇人ノ懐胎ヲ押隠
 シ口入レシ或ハ雇人口入レニ事寄セ止宿セシム
 ル等ノ所業ヲナスベカラズ
 第十四條 身元受人死亡其他ノ事故アル時ハ第四
 條ニ照ラシ更ニ受人ヲ定メ届出ツヘシ
 第十五條 世話料ヲ受用セス懇信等ノ緣由ヲ以テ
 雇人ノ口入スルモノハ此規則ノ限リニアラス
 第十六條 受宿ハ雇人身元取調儘成ル下受人取置
 クヘシ
 第十七條 雇人ヲラント欲スルモノ若シ犯罪脱籍
 其他不審ノ所業アルヲ認ルキハ警視分署又ハ巡
 行ノ巡查ニ密告スヘシ
 第十八條 雇人ト申合せ或ハ之ヲ欺キ雇雇主ヲ轉

換セシメ世話料ヲ貪ル等ノ所業ヲナスヘカラス
 第十九條 雇主人并下受人ノ本籍姓名年齢ヲ帳簿ニ記載シ置キ警察上取調ノ用ニ供スヘシ
 第二十條 雇人ノ身分保證ノ條件ハ受宿ト雇主ノ間ニ豫メ結約ヲナシ置クヘシ其身元受人ハ受宿ニ對シ保證ノ責ニ任スヘシ但シ廢業シタル後ト雖モ口入レシタル雇人ノ約定期限中ハ本條ノ通リタルヘシ
 第二十一條 組合規則ヲ私ニ取設ケ又ハ無謂出錢ヲナサシムヘカラス若シ止テ得サルモ其事由ヲ具シ差圖ヲ受クヘシ
 第二十二條 刪除〔明治十一年二月十四日甲第十二號ヲ以テ刪除〕
 第二十三條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ〔明治十四年十二月廿二日甲第五拾八號ヲ以テ追加〕

〔參照〕

明治十二年十月三日警視本署甲第卅二號布達
 湯屋取締規則左之通り相定メ十一月一日ヨリ施行候條此旨布達候事但從前ノ布達等本文ニ抵觸スルモノハ廢止ト可相心得事

第一條 湯屋及ヒ藥湯温泉等營業ヲ爲サントスルモノハ第一號書式ニ準據シ組合取締ノ加印ヲ以テ警視本署ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ
 第二條 廢業ノ者ハ第一號書式ニ準據シ其鑑札ヲ所轄警視分署ヘ返納スヘシ
 第三條 水火盜難等ニ罹リ鑑札ヲ遺毀シ若シハ住所ヲ移轉スル者ハ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受クヘシ
 第四條 第一條ノ營業者ハ一郡區毎ニ組合ヲ定メ取締一名副取締二名乃至三名ヲ置キ組合諸事取締ヲナスヘシ
 第五條 火焚所ハ石煉化又ハ塗屋ニ築造シ烟出シ

天井裏ハ漆喰又ハブリツキ等不燃質ノ物ヲ用フ
 へシ但火焚所又ハ烟出シ天井裏等ハ毎月一回必
 ス掃除スヘシ
 第六條 浴場ハ必ス男女區域ヲ設ケ混同スルヲ禁
 ス
 第七條 浴場並ニ二階内等外面ヨリ見エサル様簾其
 他ノ物ヲ以テ必ス見隠シテ用ヒ出入口ヲ明ケ置
 ヲ可カラス
 第八條 夜間ハ午後第十一時限リ入浴ヲ止メ火ノ
 元ニ注意スヘシ但烈風ノ節ハ時間ニ拘ハラズ停
 業スヘシ
 第九條 浴客ノ衣類ハ勿論其他品物等紛失セサル
 様注意スヘシ
 第十條 犯罪人ノ相書ニ類似ノ者及ヒ故ラニ浴客
 ノ物品ト換易セントスル者等見認ル時ハ便宜之
 出ツヘシ

第十一條 浴客ノ遺留物若クハ換易シ置キタル品
 等アリテ五日以内事主知レサルモノハ警視分署
 へ届出ツヘシ
 第十二條 木拾ヒ人ヲシテ猥リニ他ノ構内及ヒ路
 次内等ニ入ラシメ若シクハ他ノ所有ニ屬スル竹
 木等ヲ採拾セシム可カラス但シ雇主ノ住所姓名
 ナ記シ燒印シタル鑑札携帯セシム可シ
 第十三條 組合取締ハ犯罪人々相書ノ布達アル所
 ハ速ニ組内ニ廻達スヘシ
 第十四條 組合規則ヲ私ニ設ク可カラス
 第一號

今般(湯屋藥湯何々温泉)營業仕度諸事御規則遵守
 可仕候間鑑札御下附被下度(藥湯温泉)賣藥免狀並
 願書寫添)此段奉願候也

年月日

何郡區何町村何番地

何某印

取締

第二號 大警視姓名殿

何 某 印

今般(湯屋藥湯何々温泉)廢業候ニ付鑑札返納此段
御届申候也

年月日

何郡區何町村何番地

取締

何 某 印

何 某 印

大警視姓名殿

第十五條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ
罰セラルヘシ(明治十四年十二月廿二日甲第五十
八號ヲ以テ追加)

〔參照〕

明治九年七月六日警視廳乙第四號達
兩替渡世組合取締假規則左之通相定候條此旨右
渡世ノ者ハ可相達事
兩替渡世ノモノ一郡區毎ニ組合ヲ設ケ頭取一名(人

〔參照〕

員多キ組合ハ副頭取一名乃至二名)ヲ置キ取締ヲ爲
スヘシ但各組人名ハ該警視署ヘ可届出
搜索物品ノ儀ニ付當廳ヨリ布達スル者ハ取締ニ於
テ其組合中へ無遺漏通達スヘシ
住所姓名儘カナラズ不審ノ者過分ノ金銀兩替ヲ求
メ或ハ金銀地金等ヲ賣却セントスルカ又ハ品觸似
寄ノ物アルキハ最寄警視署又ハ巡行ノ巡查ニ密告
スヘシ
此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘ
シ(明治十四年十二月廿二日甲第五十八號ヲ以テ追
加)

明治十年二月十三日警視本署甲第七號布達
旅人宿規則左ノ通改正候條此旨布達候事
旅人宿規則

第一條 旅人宿渡世ノ者ハ第一號書式ニ照ラシ組
合取締及其區戶長ノ加印ヲ以テ東京警視本署ヘ
願出鑑札ヲ受クヘシ但鑑札料金十錢ヲ納ムヘシ

第二條 廢業ノ節ハ第二號書式ニ照ラシ所轄警視
 分署へ鑑札返納スヘシ但移轉ノ節ハ第一條ノ手
 續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受ク可シ(但書明治十年十一
 月十九日甲第五十九號ヲ以テ改正)

第三條 水火盜難等ニ罹リ鑑札ヲ遺毀シタルモノ
 ハ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受クヘシ

第四條 右渡世ノ者ハ左ノ雛形ノ看板ヲ店頭ニ掲
 ケ夜間ハ點燈ニ換ヘ旅人ノ認メ易キヲ要スヘシ

旅人宿	姓名
-----	----

竪三尺
 幅七寸

第五條 一大區限リ組合ヲ定メ取締一名副取締三
 名或ハ四名ヲ置キ組内諸取締ヲナスヘシ

第六條 取締ハ諸布達及犯罪人人相書等ヲ組中へ
 廻達シ受印ヲ取リ置クヘシ

第七條 宿泊人届ハ甲乙兩簿ヲ製シ左之書式ニ照

シ可成詳明ニ記載シ毎日正午十二時限所轄警視
 分署へ届出簿冊交換ヲナス可シ但朱引外ニテ警
 視分署へ遠隔ノ地ニ於テハ最寄巡查交番所同合
 宿所又ハ區役所ノ内へ便宜其場所ヲ定メ置キ本
 文書式ニ照シ三日以内ニ届出ヘシ(書式略之)

第八條 總テ宿泊人ハ懇切ニ取扱ヒ浪費等ヲ爲サ
 シムヘカラス

第九條 單身ノ旅客ト雖モ故障ナク宿泊セシムヘ
 シ若シ不審ト認ムル者ハ本人同道警視分署へ申
 出指圖ヲ受クヘシ

第十條 旅籠料定價ハ必ス客室毎ニ揭示スヘシ但
 シ旅籠料高低毎ニ所轄警視分署へ届出ツヘシ

第十一條 鑑札ヲ受ケス又ハ組合ニ入ラス營業ヲ
 ナスヲ禁ス

第十二條 宿泊人身元調ノ節ハ本人へ懇カサル様
 厚ク注意シ且探索向ハ何事ニ依ラス他ニ漏洩ス
 ヘカラス

第十三條 宿泊人變死又ハ所持ノ物品紛失シタル時ハ速ニ事由ヲ警視分署ヘ訴出ツヘシ但本條ノ場合ニ於テハ總テ宿泊人ノ他出テ止メ置クヘシ

第十四條 賣淫ニ類スル猥褻ノ所業ハ勿論客ノ依頼ヲリヒ藝妓酌人等ヲ招聘スヘカラス但賣淫ニ類スル猥褻ノ所業アルモノハ元警視廳明治九年一月第二十三號達賣淫罰則ニ照ラシ處分スヘシ

第十五條 犯罪人人相書布達ノ節ハ必ス帳簿ニ詳記シ置キ若シ類似ノ者ト認ムルカ又ハ金錢遺方等不審ノ者ハ速ニ警視分署又ハ巡行ノ巡查ヘ密告スヘシ詮議ノ上相當ノ賞金ヲ與フヘシ

第十六條 組合規則ヲ私ニ取設ケ或ハ無謂出錢ヲ付サシムヘカラス若シ止テ得サル時ハ事由ヲ具シ指圖ヲ受クヘシ

第十七條 諸國廻漕船宿荷主宿所荷馬宿或ハ賄付下宿招牌ヲ出サス親類懇意等ノ緣故ヲ以テ宿泊セシムルハ此限ニアラス等諸人宿泊ヲ營業トス

〔參照〕

ル者ハ總テ此規則ヲ遵守スヘシ〔明治十一年二月十八日甲第十四號ヲ以テ改正〕

第十八條 正副取締給料トシテ旅人宿一戸ニ付月々金十五錢ツ、差出ス可シ但諸布達騰寫筆墨紙ノ諸入費ハ毎月計算表ヲ作り營業者ヘ賦課スヘシ〔明治十年十一月廿九日甲第六十四號ヲ以テ改正〕

第十九條 刪除〔明治十年二月十四日甲第十二號ヲ以テ刪除〕

第二十條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ〔明治十四年十二月廿二日甲第五十八號ヲ以テ追加〕

明治十四年十二月七日警視廳甲第五十三號布達本年十月第四拾七號布達小形旅客漁船取締規則左ノ通改正候條此旨布達候事

小形旅客漁船取締規則

第一章 總則

第一條 小形旅客汽船トハ專テ行旅ヲ乘載シテ航
 行スル公稱馬力五十未滿ノ汽船ヲ云フ但馬力五
 十以上ノ汽船ト雖モ船體機關航路等ノ狀況ニ依
 リ特ニ本則ヲ遵守セシムルコトアルヘシ

第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ區ハ區長
 郡ハ戸長ノ與印ヲ捺シタル願書ヲ警視廳ヘ呈出
 シ允許ヲ受クヘシ

第三條 願書ニハ下ニ掲クル甲號離形ノ明細書ヲ
 副ニ船體機關等ノ検査ヲ請フヘシ但船數ヲ増加
 シ或ハ船體機關ヲ改造修理スルキハ本條ノ手續
 キニ依リ検査ヲ受クルモノトス尤モ其修理改更
 一小部ニ係ル者ハ其部分ノミヲ記載スルモ妨ケ
 ナシ

第四條 検査ノ上完全ト認ムルモノハ乙號離形檢
 査證書ヲ下附ス可シ證書ヲ所持セス又ハ船體機
 關等ノ修理改更後検査ヲ受サルモノハ運用スル

ヲ許サス

第五條 廢業スルキハ允許狀並検査證書ヲ返納シ
 又所有中一船ノ運用ヲ廢止スルキハ該船ノ検査
 證書ヲ返納ス可シ

第六條 他人ヘ讓渡スルニ讓受人該船ニ毫モ變更
 或ハ修理ヲ加ヘス且後期検査ノ以前ナルキハ更
 ニ検査ヲ行ハス證書ヲ付與スルコトアル可シ

第七條 船體機關ハ毎十ヶ月ニ一回ノ検査ヲ行ヒ
 故障ナキモノハ其都度検査證書ヲ交換ス尤モ定
 期ニ拘ラス臨時検査ヲ行フコトアルヘシ

第八條 爾後ノ定期検査マテ運用ニ堪ヘサルモノ
 ト認ムルトキハ検査證書ニ其脆弱ノ部分並ニ堪
 フ可キ時限ヲ記載スルモノトス

第九條 定時臨時ノ検査ヲ問ハス検査員ニ於テ船
 體機關等ニ故障アリト認ムルキハ本船ノ運用ヲ
 停止シ修理若シハ改造ヲ命スヘシ

第十條 他管地ニ於テ汽船ヲ製造修理セシ者ハ該

製造所ヨリ其ヲ記載シタル證書ヲ受取り歸航中
 臨時ノ尋問ニ方リ之ヲ開示スヘシ
 第十一條 航路及ヒ發着ノ場所時間並ニ船長ヲ變
 更スルトキハ書面ヲ以テ届出ツヘシ
 第三章 本船々體
 第十二條 船側並ニ甲板面ハ填茹ヲ以テ充分罅隙
 ヲ塞キテ水ノ漏泄ヲ防キ尙ホ兩舷ニ必ス水吐孔
 ヲ設クヘシ
 第十三條 甲板面ニ設クル出入及ヒ荷積口ハ其緣
 材ヲ甲板面ヨリ高フシテ水ノ船内ニ流入スルヲ
 防キ且ツ之ヲ密閉スルノ外套ヲ備フヘシ
 第十四條 甲板上船舷ナキモノハ必ス周圍ニ鍊製
 或ハ木製ノ欄干ヲ設ケテ高サ二尺ヨリ低カラサ
 ラシムヘシ
 第十五條 船名ヲ舳艫或ハ車廂ニ又製造者ノ氏名
 〔或ハ社名〕及ヒ製造年記地名ヲ船内最モ見ヘ易キ
 所ニ明記スヘシ

第十六條 船ノ脚入ハ必ス喫水線ニ超過セシムヘ
 カラス又脚尺ヲ舳艫ノ右ノ方ニ於テ喫水線以下
 ニ附シ脚入三尺以上ナルモノハ一尺毎ニ三尺以
 下ナルモノハ五寸毎ニ其度ヲ刻スヘシ
 第十七條 空氣流通ノ爲メ窓口ヲ設クルモノハ堅
 固ノ戸扉ヲ備フヘシ
 第十八條 機關室ハ延鐵ヲ覆タル板ヲ以テ客室ト
 分別ス可シ
 第十九條 橋下ヲ航行ス可キモノハ儘レ煙突ヲ備
 ヘテ苟モ自他ヲ危害スルノ虞ナカラシム可シ
 第二十條 端舟ヲ釣リ得ヘキ船體ニ於テハ必ス之
 ヲ備ヘ且ツ其附屬品ヲ整備スヘシ
 第二十一條 柁ハ其取附ケ堅牢ニシテ必ス豫備ノ
 轉柁索ヲ船尾ニ備フ可シ
 第二十二條 羅盤及ヒ救命浮子各一個以上ヲ備フ
 可シ
 第二十三條 錨ノ斤量個數ハ船ノ噸數ニ適合スル

モノヲ備ヘ又鎖鎖ハ充分之ニ堪ヘ且ツ相當ノ長サアルモノヲ用フ可シ

第二十四條 火災豫防ノ爲メ適當ノ消防器ヲ備フ

第二十五條 掲燈及ヒ信號器ハ明治十三年太政官

第三十五號布告ヲ遵守シタルモノニシテ其舷燈ノ隔板ハ位置正シク左右舷燈相反射セサラシム

第二十六條 漁笛及ヒ號鐘ハ其音響ニ障碍ナキ場

所ニ裝置シ號鐘ハ内徑六寸六分以上ニシテ音響ノ能ク達スルモノヲ備フベシ

第二十七條 甲板上何レノ場所ヲ問ハス漏水ヲ排出ス可キ汚水唧筒一個以上ヲ備フベシ

第五章 蒸機

第二十八條 罐中焰管ハ鑄鐵ヲ用ユルコトヲ許サス

第二十九條 船外ニ通スル各管ニシテ吃水線近傍若クハ其以下ニ設クルモノハ必ラス嘴子或ハ瓣

ヲ備フ可シ

第三十條 冷蒸器ヲ設クル機關ハ正當ナル蒸氣器

ヲ備フ可シ

第三十一條 蒸氣ハ豫テ水試験ヲ經タルモノニテ平常用ユル蒸氣力ニ對シ新罐ハ其二倍古罐ハ用ユル蒸氣力二分一以上ヲ加ヘタル水壓ニ堪ユルモノヲ用ユ可シ

第三十二條 安全瓣ハ每罐ノ火床面積ノ一平方尺

毎ニ必ス二分一平方寸ノモノ二個ヲ備ヘ平常用ユル蒸氣力ニ對シ重量ヲ定メ内一個ハ外套ヲ備ヘ鎖鑰ヲ施シ之ヲ緊鎖ス可シ但檢査員ノ立會ナクシテ之ヲ開ク可カラス

第三十三條 蒸氣器 蒸氣器 蒸氣器 蒸氣器 蒸氣器

第三十四條 蒸氣器ハ每罐硝子製ノモノト試嘴二

第三十五條 蒸氣罐二座以上ヲ湊合スルキハ每罐ニ

塞瀛辨ヲ備フ可シ
第三十六條 蒸氣ヲ噴出セシムルタメ必ラス排瀛管ヲ備フ可シ

第六章 雜則

第三十七條 船内ノ燈火ハ安全ニシテ堅牢ノ器ヲ用ヒ且ツ船内ハ燈火ノ外一切火ヲ用ユヘカラス

第三十八條 船内ニ於テ石炭油其他揮發性ノ油ヲ用ユ可カラス但船體瀛機ニ必用ナル油類ハ此限

第三十九條 物貨ヲ積ムハ船内ニ限ル可シ尤モ船内ニ積込ム能ハサル物品及ヒ手荷物ハ此限ニアラス

第四十條 毎客室ニハ允許狀及ヒ檢査證書ノ寫本并ニ乗客ノ賃錢表ヲ貼付ス可シ但乗客賃錢表ハ必ラス警視廳ノ檢印ヲ受ク可シ

第四十一條 此規則ニ背キタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルハ明治十五年一月十二日甲第一號ヲ以テ追加ノ外カ警視廳ニ於テ一日以上三十日以

下該船ノ航行又ハ營業ヲ停止スルコトアル可シ

〔甲號〕

明細書雛形

明治何年何ノ地ニ於テ

何ノ誰製造

何町何番地

一 船名 鐵製或ハ木製

持主

甲板 上長サ何十尺

甲板 下最大ノ巾何十尺

甲板 下ヨリ龍骨上迄深サ何十尺

暗車 機械 一 個

外車 平常用ユル 一 個

漁力 最大ノ力 何 十 斤

公稱馬力 何 十 噸

噸數 何 噸

一 繫留地 何 岸

一 發着定時間 何 岸

一 航行スル沿路地名 地 名

族 藉

右之通御座候
明治 年 月 日
船長 何ノ誰

〔乙號〕第何號 證
族藉 何ノ誰

一船名 鐵製或ハ木製 持主氏名

本船 船體 登簿噸數

機關 公稱馬力 瀛力

右檢査之上 搜與之 瀛罐

年 月 日 警 視 廳 印

檢査人

何誰ノ印

九 醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者

〔解〕 本項ハ人命ノ危難ヲ顧ミサル浮薄ノ情ヲ警戒スルニ出ルモノトス

醫師穩婆ハ其職業ニ於テ人ノ健康ヲ司リ生育ヲ保護スヘキモノナレバ急病人ヨリ招キ受クルモハ夜半ト雖モ之ヲ忌避スルヲ能ハサルモノトス故ニ正當ノ事故アルニ非ラズシテ急病人ノ招キニ應セサルハ即チ此項ノ罪タリ
事故トハ疾病或ハ親族ノ亡没公用其他々人ノ急病ナルモ事實之ヲ顧ルニ違非ラサル程ノ事由ヲ云フ且急病人トアルニヨリ急病ニ非ラサルモ之ヲ罰スル能ハサルナリ何ントナレハ他ノ醫師又ハ穩婆ヲ招クヲ得ルヲ以テナリ〔第七十九條第百八十一條參照〕

十 死亡ノ申告ヲ爲サズシテ埋葬シタル者

〔解〕 本項ハ病死シタル者埋葬スル前ニ區役所ヘ申告スヘキヲ命シタル者トス何人ニ限ラズ死亡アル

ルハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ區役所ニ死亡届ヲ爲シタル後之ヲ埋葬ス可シ然ラザレハ此項ノ罪タリ且本項云フ所ハ一家ノ中ニ死亡者アリタルモシ

テ彼第四百廿五條第八項ニ所謂他人ノ死屍アルヲ知テ申告セサルノ類ニ非ラサルナリ。蓋シ本項通常ノ病死者ヲ申告セスシテ埋葬シタル者ヲ罰スルハ何ソヤ曰ク之ヲ罰スルハ他ニ非ラス病死ニ非ラサル即チ變死者ヲモ遂ニ檢視ヲ受ケス埋葬シ爲メニ證憑湮滅シ致命ノ原由ヲモ知ル能ハサル等ニ至ルノ恐レアレハナリ

十一

流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者

〔解〕

本項ハ社會人民ヲシテ誑惑恐怖ノ念ヲ生セシムルヲ防止スルニ出ルモノトス

流言浮説トハ無根ノ説ヲ唱ヘ衆人ヲ惑ハスヲ云フモノニシテ例ヘハ何月何日ニハ大火アルヘシ又ハ洪水アルヘシ某所ニ於テ戦争起ルヘシ等ノ如キ妄言ヲ流布スルノ類ヲ云フモノナリ而シテ彼故意ヲ以テ虚偽ノ風説ヲ流布シテ穀物其他衆人需用物品ノ價ヲ昂低セシムル者ノ如キハ一箇ノ輕罪ニシテ即第二百七十二條ニ依リ十圓以上百圓以下ノ罰金

ニ處スルモノトス

十二

妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符咒等ヲ爲シ人

ヲ惑シテ利ヲ圖ル者

〔解〕

本項ハ社會人民ヲ惑シテ自己ノ利益ヲ圖ル者ヲ防止スルモノトス

吉凶禍福ヲ説キトハ例ヘハ從來云フ所ノ梓巫市子并憑狐下ケノ類ヲ云フモノニシテ又祈禱ト云ヒ符呪ト云フモ總テ妄リニ之ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者ヲ云フナリ。但シ本項罰スヘキ場合分テ二ト爲ス。一 妄リニ吉凶禍福ヲ説キ人ヲ惑シテ利ヲ圖ル者。二 妄リニ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑シテ利ヲ圖ル者。

右ノ如ク罰スヘキ場合二個ニ分ルト雖モ何レモ二元素具備スルニ非ラサレハ之ヲ罰スル能ハサルナリ。元素トハ何ソヤ曰ク第一ノ場合ノ元素トハ妄リ

ニ吉凶禍福ヲ説クハ人ヲ惑シテ利ヲ圖ルコト第二ノ
 場合ニ於テハ妄リニ祈禱符呪等ヲ爲スコト人ヲ惑シ
 テ利ヲ圖ルコト是レナリ故ニ第一ノ場合ニ於テ妄リ
 ニ吉凶禍福ヲ説クモ人ヲ惑シテ利ヲ圖ルニ非ラサ
 レハ未ダ此項ヲ以テ罰スル能ハス又人ヲ惑シテ利
 ヲ圖ラントスルモ妄リニ吉凶禍福ヲ説クニ非ラサ
 レハ未ダ此項ヲ以テ罰スル能ハス第二ノ場合ニ於
 テモ亦同シ妄リニ祈禱符呪ヲナスモ人ヲ惑シテ利
 ヲ圖ルニ非ラサレハ未ダ此項ヲ以テ罰スル能ハス
 又人ヲ惑シテ利ヲ圖ラントスルモ妄リニ祈禱符呪
 ヲ爲スニ非ラサレハ未ダ此項ヲ以テ罰スル能ハサ
 ルナリ
 且ツ渾テ本項主眼トスル所ハ妄ニ字及ヒ人ヲ惑
 シテ利ヲ圖ルコト字ニ在ルナリ故ニ觀相卜筮又ハ神
 佛ノ夢想ト詐稱シ金錢ヲ貪リテ妄リニ人事ノ吉凶
 禍福ヲ説キ又ハ加持祈禱符呪等ヲ以テ衆人ヲ欺瞞
 スルト雖モ利ヲ圖ルコトナケレハ此項ノ罪ヲササ
 ルナリ

ナリ

十三 私有地外へ濫りニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ
 出シタル者

〔解〕

本項モ亦往來ノ人馬等ニ妨害トナルヲ制止スル
 モノトス

人民ノ私有地ヨリ外へ濫りニ家屋ヲ建築シ又ハ牆
 壁ヲ設立シ又ハ軒楹柱ヲ突出シ公道ノ妨害ヲ爲
 スコト云フモノニシテ其細密ノ經界等ハ街路取締
 規則〔乙篇違警罪目第一項〕第十八條ニ謂フ所是レナ
 リ
 蓋シ之ニ違背シタルモノハ彼便宜法タル街路取締
 規則ニ依ラスニテ刑法ノ本項ニ依リ罰スヘキモノ
 ナルハ再三前ニ説ク所ニ係レリ

七二一 十四 官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キ
 タル者

〔解〕

本項モ亦往來通行人又ハ車馬通行ノ妨害トナル
 ナ制止スルモノトス
 路傍及ヒ河岸ハ場所ニ因リ床店葭張等ヲ開ク
 ナ許スヘキ地ト許スヘカラサル地トアリ故ニ床店
 等ヲ開キ商業ヲ爲サントスル者ハ必ス所轄ノ警察
 署ヘ願出ツヘキ者ナリ然ルモハ警察署ニ於テ實地
 差支ナキ場所ト認ムルモハ之ヲ允許シ差支アル場
 所ト認ムルモハ之ヲ許サハ之ヲ允許シ差支アル場
 ナサス濫ニ是等床店等ヲ開クハ自ラ權利ヲ擅ニス
 ルモノナレハ即チ此項ノ罪タリ
 蓋シ本項モ亦街路取締規則乙篇違警罪目第一項第
 十三條ニ謂フ所ナレモ是亦便宜法ニヨラスシテ
 刑法ノ本項ニ依テ罰スルモノナリ

十五

路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ廁場等ヲ毀損シタ
 ル者

〔解〕

本項ハ衆人ノ便益ヲ妨害スルヲ防止スルモノト
 ス
 道路ノ傍ヲニ植付ケタル樹木街頭ノ常夜燈及廁場
 等ハ衆人ノ便益ノ爲メニ設クルナリ之ヲ毀損シタ
 ル者ハ即チ此項ヲ以テ罰セラルハナリ
 蓋シ本項云フ所ノ植木常燈廁場等ハ多ク共有ニ係
 ルモノナレバ徒ラニ損毀シタルヲ云フモノニシテ夫ノ
 故意ヲ以テスル即チ第四百十七條以下ニ定ムル所
 ノ家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪ノ如キ
 ニ非ラサルナリ

十六

道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及
 ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

〔解〕

本項モ亦衆人ノ便益ヲ妨害スルヲ防止スルモノ
 トス
 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止トハ例
 へハ道普請又ハ橋普請等ノ節人ノ通行ヲ止メ又ハ

諸車ノ通行ヲ止ムル爲メ警察署ヨリ設クル所ノ通行禁止ノ標札ノ類ヲ云ヒ又指道標ノ類トハ衆人ノ便利ノ爲メ設ケアル道案内ヲ報道スルモノ(即チ路傍橋梁等ニ右何處道左何處道トアルカ如シ)類及ヒ銃獵禁止ノ標札其他之ニ類スル一切ノ公益ニ供スル標札ヲ毀棄シ或ハ汚損シタルヲ云フ

第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

〔解〕

本條ハ前掲違警罪種別ニ所謂第四種ノ罪ニシテ稍更ニ其情輕キモノナリ且ツ其他詳細ハ前條々ニ解説スルヲ以テ再説セス

本條一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ストアレハ其加重減輕スヘキ場合ニ在テハ科料ハ加ヘテ一圓廿五錢迄ニ至ルヲ得又減シテ五錢迄ニ至ルヲ得而レハ拘留ハ加減スルモ其名ノミニ過キス其實能ハサルナリ

一 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者

〔解〕

本項ハ物品不適當ノ代價ヲ貪ルヲ警戒スルモノトス

官署ヨリ價ヲ定メタル物品トハ則チ現今ニテハ訴訟用郵紙證券印紙同界紙郵便切手同端書ノ類ヲ云フモノニシテ何レモ官ヨリ其價額ヲ定メアルヲ私ニ其定價以上ニ販賣シ利ヲ圖ルモノヲ云フ蓋シ是等ノ如キハ東京等ノ地ニハ實際稀レナルヘシ何シトナシハ其定價以上ニ販賣スルヲ買フ者ハ多クハ其價ヲ知ラサルカ又ハ僻地等ニテ賣捌所少ナク爲メニ他ノ賣捌所ニ至ル能ハサルカ如キ場合ニ限レハナリ

且ツ營業者ニ非ラサルモノ、相對ヲ以テスルハ此限ニ非ラサルナリ

渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ

取リ又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者

〔解〕

本項ハ人ニ損害ヲ加ヘ又ハ通行ヲ妨クルヲ制止スルモノトス

渡船賃橋錢等ハ其共有ニ係ルト私有ニ係ルトト問ハス必ス官許ヲ得ル際人一人ニ付何程車一輛ニ付何程馬一疋ニ付何程ト相當ノ價ヲ定メサルヘカヲサルモノナリ然ルチ此規則ヲ守ラズ定價以上ノ賃錢ヲ貪リ又ハ事故ナクシテ公衆ノ通行ヲ妨クル者ヲ罰スルナリ但シ定價以上ノ賃錢ヲ取ルモ雙方熟談上ナルキハ此限ニ非ラサルヘシ
蓋シ事故トハ多ク渡船場ニアルモノニシテ例ヘハ滿水烈風ノ際ノ如キ是レナリ斯ル場合ニ於テハ固ヨリ危險少ナカラサルモノナレハ便宜通行セシメサルニアルヘシ然レモ此項ノ罪タラサルナリ

三 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フヘキ場所ニ於テ其定價ヲ出サズシテ通行シタル者

〔解〕

本項ハ前項ニ相對スルノ罪ヲ掲ケタルモノトス前項ニ在テハ定價以上ノ通行錢ヲ貪リ又ハ通行ヲ妨クル者ヲ防キ本項ハ其定價ノ通行錢ヲ全ク出サズ又ハ定價ヨリ少ク出シテ通行シタル者ヲ罰スルモノニシテ別ニ深意ナキナリ
蓋シ縱令通行錢ヲ全ク出サズ又ハ定價ヨリ少ク出スモ雙方熟談上ニテ更ニ紛紜ナキニ於テハ又此項ノ罪タラサルヘシ

四 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者

〔解〕

本項ハ社會風俗ノ紊亂シ及ヒ惡業ニ陥ラントスルノ根據ヲ防止スルモノトス
賭博ニ類スル商業トハ飲食物其他ノ物品ヲ賭ケモノトシテ勝負ヲ偶然ニ爲シ一方ニ利益ヲ與ヘ一方ニ損失ヲ被ムラシメ其間己レノ利益ヲ占ムルモノニシテ俗ニ「ドツコイ」ト言フ如キ其類ナリ此ノ如キ商業ヲ公衆ノ通行スル道路ニ於テ爲スチ

罰セサルハ一般ノ風俗ヲ害シ遂ニ博奕ニ導クノ
 恐レアレハナリ且ツ本項路上ノ明文アルヲ以テ自
 己ノ居宅等ニ於テスルハ此項ノ罪ヲサルヘシ
 蓋シ本項ニ付テハ或ハ論ナキニ非ラス夫レ刑法賭
 博ノ罪即第二百六十一條但書ニ飲食物ヲ賭スル者
 ハ此限ニ非ラストアリテ違警罪ノ此項ニ其賭博ニ
 類スル所爲ニシテ其飲食物ヲ賭スル者ヲ罰スルハ
 少ク權衡相同シキヲ得サルカ如シト其レ如斯ンハ
 或ハ然ラン然リト雖モ本項云フ所ハ則飲食物ヲ賭
 スルノミニ非ラス故ニ其金錢ヲ出シテ之ヲ行フ者
 ナハ罰セス唯其賭スル所ノ物品ノ如何ニ拘ハラズ
 畢竟賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者ヲ罰スルナリ
 且ツ此用ニ供シタル器具財物ハ之ヲ沒收スヘキモ
 ノナト雖モ其現場ニ在ル物品悉皆沒收スルノ限
 ニ非ラス唯其現ニ賭シタルモノ、ミニ限ルヘキナ
 リ

五 官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規

則ニ違背シタル者

〔解〕 本項モ亦社會ノ風俗ヲ紊亂セシメテ豫防スルモ
 ノトス

劇場其他諸觀セ物興行ハ其事柄ニヨリ警察署ニ於
 テ之ヲ許可スル者ト許可セサル者トアルヲ以テ必
 大官ノ許可ヲ得ヘキモノナルコ其手續ヲナサスシ
 テ私ニ之ヲ開設シ又ハ官許ヲ得ルモ其取締ノ爲メ
 設アル規則ニ違背シタル者例ヘハ劇場等ニ於テ猥
 褻ノ演劇ヲナスカ如キヲ云フ

〔参照〕

明治十五年二月十五日警視廳甲第二號布達
 劇場取締規則左之通相定候條此旨布達候事

- 第一條 劇場ハ十座ヲ以テ定限トス(但壹人壹座ヲ
- 限リ免許スルモノトス)
- 第二條 劇場并劇場茶屋及ヒ俳優ノ營業ヲナサン
- トスル者ハ警視廳ニ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ

〔但住所姓名ヲ變換スル等ノヲアレハ鑑札ノ改刷
 ヲ請ヒ廢業ノ時ハ之ヲ返納ス可シ〕
 第三條 劇場ヲ新築シ又ハ改造セントスルキハ圖
 面并仕法書ヲ添へ警視廳ニ願出免許ヲ受クヘシ
 尤建築起功落成ニ同應ニ届出檢査ヲ受ケ認可ヲ
 得ルノ後ニアラサレハ興行スルヲ得ス
 第四條 第二條第三條ニ係ル願届ハ區ハ區長郡ハ
 戶長ノ與印ヲ受クルモノトス
 第五條 劇場營業ノ免許ヲ得テ滿三年間興行セサ
 ルキハ免許ノ効消滅スルモノトス
 第六條 演劇ヲ興行セントスルキハ少クモ一週日
 前ニ仕組帳ヲ副へ警視廳ニ届出認可ヲ受クヘシ
 且興行ノ始終トモ前以同應及ヒ所轄警察署へ届
 出ツヘシ
 第七條 凡劇場ニ關スル一切ノ事ハ座主其責ニ任
 スヘシ
 第八條 警視廳ハ委員ヲシテ時々演劇ヲ臨檢セシ

第九條 興行中取締ノ爲メ巡查二名以上ノ臨場ヲ
 請求スヘシ〔但一切ノ費用ハ座主之ヲ辨出スルモ
 ノトス〕
 第十條 仕組帳外ノ所作ヲ演スヘカラス
 第十一條 看客ヲ樂屋ニ入ラシムヘカラス
 第十二條 向棧敷ニ定員外ノ看客ヲ入ルヘカラス
 第十三條 興行ハ午後十二時ヲ過クヘカラス
 第十四條 烈風ハ勿論平常ト雖モ火災ノ虞ナキ様
 篤ク注意シ且適宜ノ防火具ヲ豫備スヘシ
 第十五條 便所ハ勿論總テ場中ヲ淨掃スヘシ
 第十六條 劇場茶屋ニ於テ看客ヲ宿泊セシム可カ
 ラス
 第十七條 演劇ノ所作仕組帳外ニ出ルカ若クハ猥
 褻ニ涉リ又ハ世安ニ妨害アリト認ムルキハ第八
 條ニ記シタル臨檢官吏ニ於テ一時興行ヲ停止ス
 ルヲアルヘシ

第十八條 此規則ニ背キタル者ハ違警罪ヲ以テ罰

セラル、ノ外警視廳ニ於テ其營業ヲ停止若クハ

〔参照〕

明治十年八月八日警視本署甲第二十二號布達

諸觀セ物興行願ノ儀自今場所建設ノ日數ト建設

ヲナサ大居宅ヲ用ユルカ又ハ從前補理興行場等ニ

テ直チニ開場ノ分ハ其事由ヲ記スヘシ興行日數ヲ

別紙願書ニ記載可致此旨布達候事但興行日限ヲ經

過シ開場不致分ハ許可ノ効ナキモノト可相心得事

〔参照〕

明治十年八月二十八日警視本署甲第二十三號布

達

小屋掛諸觀セ物興行之儀ハ日没ヲ限リ閉場可致此

旨布達候事

六 溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠

下水ヲ浚ハサル者

〔解〕

本項ハ惡水ノ流通ヲ妨ケ人ノ健康ニ害アラソク

本項罰スヘキ場合分テ二ト爲ス第一溝渠下水ヲ毀

損シタル者溝渠下水ハ固ヨリ惡水ヲ通スル爲メ設

クシルモノナリ之ヲ毀損スルキハ汚水ノ流通ヲ塞ク

ヲ以テ其所爲戲レニ出ツルト粗忽懈怠ニ係ルトチ

論セス直チニ之ヲ罰スルナリ

第二官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者

溝渠下水ノ梗塞スルヲ浚ハサレハ人ノ健康ニ害ア

リ彼虎列拉病流行ノ兆アルニ際シテハ最も清潔ニ

掃除スヘキモノナリ故ニ渾テ官署ヨリ掃除スヘキ

ノ督促ヲ受ケ仍ホ掃除セサルモノハ即此項ノ罪タ

ルナリ

且ツ其他下水ニ堰ヲ設ケ塵芥ヲ滯積シ流通ヲ妨ク

ルカ如キハ第四百廿六條第四項ニ所謂健康ヲ保護

スル爲メ設ケタル規則云々即全項註解(市街掃除規

則第十一條)ニ依テ罰セラルヘシ

又本項下水ヲ浚ハサルヲ以テ罰セラルヘキモノハ市街掃除規則第六條第四項第五項第六項ニアル責任者ナリトス

七 制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者

〔解〕 本項ハ往來通行人及ヒ車馬ノ妨害トナルヲ防止スルモノトス

道路ハ公衆ノ通行スル所ナレハ之ニ商品ヲ羅列スレハ往來ノ妨害ヲ爲スヲアラフ故ニ警察吏ヨリ行政警察權ヲ以テ往來ノ妨礙ト認ムル時ハ食物其他ノ物品陳列スル者ヲ差止ムルヲアリ若シ其差止ヲ肯ンセスシテ仍ホ路傍ニ物品ヲ羅列スル者ハ即此項ノ罰スル所タリ

八 官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放テ又ハ牧畜シタル者

〔解〕

本項ハ政府ヘ損害ヲ加フルヲ防止スルモノトス官有ニ屬スル牧場其他ノ官有地ニ於テ牛馬羊豚ノ類ヲ牧畜セント欲セハ必ス官ノ許可ヲ得サルヘカラス然ルチ其手續ヲナサス私ニ之ヲ牧畜スルハ即チ此項ノ罪タリ

九 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者

〔解〕

本項ハ天然ノ美ヲ變シ風俗ヲ惡シクスルヲ防止スルモノトス 身體ニ彩文ヲ爲スハ寔ニ天理ニ戾リ身體ヲ玩物ト爲シ恥ツヘキノ甚シキモノナリ然ルニ下賤ノ人ハ身體ニ刺繡〔入墨〕ヲ爲スヲ以テ却テ榮譽トナシ人ニ誇ルノ惡弊アリ故ニ身體ニ刺文ヲ爲ス者及ヒ人ノ爲メ刺文ヲ爲シテ之ヲ稼業トスル者ハ此項ヲ以テ罰スル所ナリ且ツ自己ノ身體ニ自ラ刺文ヲ爲シ若シハ刺文セシメタル者ハ一回之ヲ行ヘハ直チニ罰セラルト雖モ他人ノ爲メ刺文ヲ爲ス者ニ至

テハ之ヲ業トスル者ニ非ラサレハ罰スルヲ能ハス
故ニ他人ノ懇請ニ依リ之ヲ爲シタル者ノ如キハ此
項ノ罪タラサルナリ

十 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者

〔解〕

本項ハ人ノ權利ニ妨害スルト社會ノ人ヲ傷害ス
ルトナ豫防スルモノトス
牛馬其他ノ獸類〔犬猿ノ類〕ノ所有主其奔逸ヲ恐ル、
爲メ之ヲ繫キタルヲ徒ラニ之ヲ解放スルハ第一人
ノ權利ニ妨害ヲ加フルモノニシテ其獸類奔逸シ且
人ヲ咬蹴スルノ害ナキヲ保シ難シ故ニ之ヲ解放シ
タル者其所爲戲ニ出タリト雖モ其罪罰セサルヲ得
サルナリ
且ツ本項繫キタル云々トアルヲ以テ多クハ鎖繩等
ニテ繫キアルヲ云フモノナリト雖モ彼兔等ノ如キ
籠又ハ箱等ニ入レ置キアルヲ開放スル亦此項ニ依
ルヘキナリ尤モ是等ハ多クハ家宅内ニ在ルヲ以テ

實際稀ナリト雖モ若シ他所ニ於テ開放シタルハ
ハ亦同シ

十一 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者

〔解〕

本項ハ前項ト其意ヲ同シテ其事ヲ異ニスルノミ
則チ舟筏ノ流失ヲ來タシテ所有者ノ損害ヲ致シ
及ヒ他ノ船舶ニ衝突シ又ハ其通行ヲ妨害スルヲア
ルヲ防止スルモノトス
所有者ノ舟筏ヲ繫キ置クモノハ畢竟流失ヲ恐ル、
カ故ナリ然ルニ之ヲ徒ラニ解放スルキハ所有主ノ
迷惑ハ勿論他ノ船舶ニ衝突スルノ害ナキヲ保シ難
ク加之通船ノ妨害トナル少ナカラス故ニ之ヲ解放
シタル者ハ其所爲戲ニ出タルト雖モ此項ヲ以テ
罰スルモノトス

第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上
五十錢以下ノ科料ニ處ス

〔解〕

本條ハ違警罪種別ニ所謂第五種ノ罪ニシテ違警罪中最モ其情ノ輕キモノタリ其他詳細ハ前條々ニ解説スルヲ以テ再ヒ此ニ贅セズ
本條五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ストアレ其加重スヘキ場合ニ在テハ加ヘテ六十二錢五厘迄ニ至ルヲ得然レハ減輕ハ素ヨリ五錢以下ニ減スルヲ得サルハ編者ノ贅辯ヲ要セサル所ナリ

一 橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ルヘキ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

〔解〕

本項ハ他人ノ便益ヲ妨ケ公衆ノ安全ヲ妨害スルヲ防止スルモノトス
橋梁ハ公衆之ニ據テ以テ通行ヲ爲シ堤防ハ水利ヲ通シ水害ヲ防ク爲メ設クル所ノモノナリ然ルチ是等ノ場所ニ於テ舟若クハ椶筏ヲ繫ク時(例ハ橋杭ニ舟筏ヲ繫キ又ハ堤防ノ土砂留杭若シクハ堤防ノ草木ニ舟筏ヲ繫クカ如キ)ハ水路ヲ妨クルノミナラ

ス橋梁堤防ノ害トナルヘキヲ少ナカラス故ニ是等ノ所爲ヲナシタル者ハ此項ヲ以テ罰セラルヘシ

二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

〔解〕

本項ハ往來通行人及車馬ノ妨害トナルヲ防止スルモノトス
道路ハ公衆ヲシテ通行ヲ得セシムル爲メ設クルモノナルヲ以テ他人ノ通行ヲ妨害スルヲナケレハ如何ナル物件ヲ運搬スルモ妨ケナキモノトス然レハ牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ道路ニ堆積スルハ實ニ往來人ノ妨害トナル少ナカラス故ニ之カ妨害ヲ爲シタル者ハ即此項ヲ以テ罰スルモノトス
蓋シ本項云フ所ノ諸車トハ使用中一時道路ニ横タヘ置キタルヲ云フモノニシテ彼街路取締規則(乙篇)違警罪目第一項(第四條)ニアル使用セサル荷車其他

ノ諸車ト相同シカラス看者幸ヒニ混同スル勿レ
三 車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

〔解〕 本項モ亦往來通行ノ妨害トナルヲ防止スルモ
ノトス

道路ハ則前項ニ述フル如ク公衆ヲシテ通行ヲ得セ
シムルモノナレハ人力車馬車荷車及馬匹ヲ牽クモ
固ヨリ罪タルヘキナシ然レモ並ヘ牽クハ必ス行
人ノ妨害トナルヘシ故ニ若シ之カ妨害ヲナシタル
キハ其罪ナカルヘカラス是レ此項ヲ以テ罰スル所
以ナリ
蓋シ前項及ヒ本項ハ縱令此等ノ所爲アルモ行人ノ
妨害ヲナシタル者ニ非ラサレハ罰スルヲ能ハサル
ナリ

〔乙篇違警罪目第四項註解馬車取締規則第二十四條
同人力車取締規則第十八條參照スヘシ〕

四 水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者

〔解〕

前項ハ道路ニ於テ往來ノ妨害ヲ爲シタル者ノ罪
ヲ定メ本項ハ水路ニ於テ往來通船ノ妨害ヲナシ
タル罪ヲ定メタルモノトス
海河モ亦一種ノ公道ナリ故ニ其事同シカラスト雖
モ其所爲一ナリ則チ舟ヲ水路ニ並ヘ漕クカ如キハ
未タ罪ナシト雖モ他ノ通船ノ妨害ヲナシタルキハ
此項ヲ以テ罰スルモノトス

五 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者

〔解〕

本項ハ一ハ往來通行人ノ危険ヲ豫防シ一ハ健康
ヲ保護スルニ出ルモノトス
道路ハ凡テ行人ノ妨害ト成ルヘキモノヲハ速ニ之
ヲ取除キ清潔ニ掃除シ且安全ヲ保ツヘキモノナリ
故ニ之ニ氷雪ヲ棄ツレハ行人ノ危険トナリ之ニ塵
芥ヲ棄レハ道路ノ不潔トナルヲ以テ實地妨害シタ
ルト否トニ關セス唯之ヲ投棄シタルノミヲ以テ罪
ト爲ス故ニ其事極メテ小ニシテ幾ント害ナキカ如

キニ至リテ宜ク斟酌スヘキモノナラン且ツ本項路上トノミアルヲ以テ河濠下水等へ投棄スルハ妨ケナキヤノ疑ナキニ非ス然レモ是レハ之レ市街掃除規則第九條ニ明文アルヲ以テ第四百二十六條第四項ニ所謂健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則云々ニ因テ罰セラル、モノナラシ但氷雪ハ必ス川堀等へ棄ツヘキモノナレハ固ヨリ罪タラサルナリ

六 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サ、ル者

〔解〕

本項ハ健康ヲ保護スルニ出ルモノトス

官署ノ督促トハ市街掃除規則第六條各項ニ從ヒ其負擔者ハ不潔ナキ様掃除スヘキモノナルコ之ヲ怠ルヲ以テ警察署又ハ巡查ヨリ之カ督促ヲナスヲ云フ若シ其督促ヲ受ケテ掃除ヲ爲サ、ルハ一ハ官命ヲ拒ミ一ハ健康ヲ害スルヲ以テ罪ナルカハ一ハ官ス即此項ヲ以テ罰スル所以ナリ

七 制止ヲ肯ンセスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

〔解〕

本項ハ往來行人ノ妨害ヲ制止スルモノトス路上ニ於テ遊戯〔例へハ紙鳶ヲ颺ケ羽根ヲ打テ鞠毬ヲ擲テ若シクハ獨樂ヲ玩フノ類〕ヲナスハ強テ禁止シタル者ニ非ラサレハ妨害トナラサル場所ニ於テ爲スハ差支ヘナシト雖モ路上ニ於テ爲スハ多クハ行人ノ妨害トナルヲ以テ臨機警察官吏ヨリ之カ制止ヲ爲スヲアルモノトス然ルニ之ヲ肯ンセス是等遊戯ヲ爲シテ行人ノ妨害ヲナシタル者ヲ云フ蓋シ本項ハ街路取締規則第十六條ニ明文アルヲ以テ或抵觸等ノ疑ナキニ非ス然レモ彼條ニ在テハ之カ制止ヲ爲スニ止リ若シ肯セサルモ本項ニ依テ罰スルモノナリ

八 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クヲ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

〔解〕

本項ハ往來通行ノ妨害トナルノミナラス危険ノ虞アルヲ防止スルモノトス

牛馬ハ踏觸ノ恐ノアルモノナレハ之ヲ路上ニ牽クハ大凡其綱ヲ三尺以下ニ縮メ嚴重携持スヘク又之ヲ路傍ニ繫クキモ同様嚴重ニ繫留ムヘキモノトス然ルニ之ヲ牽クニ或ハ綱ヲ持タズ牛馬ヲ先キニシ己レ後ニ在リ又ハ己レ先キニ在リト雖モ其綱ヲ牛馬ノ首頸ニ掛ケ又ハ之カ繫留ヲ忽カセニシテ路傍ニ徘徊セシムルキハ一ハ往來人ニ恐怖ノ念ヲ生セシメ一ハ往來ノ妨害トナリ一ハ危険ノ虞アルモノナレハ罰セサルヘカラサルモノナリ且ツ之カ繫留ヲ爲スト雖モ其繫留疎漏ニシテ其綱解ケ路傍ニ徘徊シ及ヒ其繫留ノ綱長キガ爲メニ路傍ニ横リタルガ如キモ亦同シ人或ハ曰ク繫留ノ綱長クシテ路傍ニ横リタルガ如キハ此ノ項ニ依ラスシテ本條第二項ニ依テ以テ罰スヘキナリ即チ第二項ニ所謂牛馬等ヲ道路ニ横ヘ云々ノ現然タル明文アルヲ以テ

九 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者

〔解〕

本項ハ官署ノ禁止ニ背キ餘害ヲ引起サントシ豫防スルモノトス

本項ハ官署ヨリ榜示公告ヲ以テ出入ヲ禁止セラレタル家屋其他ノ場所ヘ濫リニ出入シタルヲ云フ者

何ソ本項ニ依ルヲ用ヒンヤト此ノ説タル誠ニ妥當ナラス本條第二項牛馬等ヲ道路ニ横ヘ云々タルヤ馬夫故ヲニ之ヲ横ヘタルノミナラズ非ラスシテ其原因スル處種々アリト雖モ彼ノ繫留スルニ綱長クシテ路傍ニ横リタルガ如キハ大ニ本條第二項ノ精神ト背戾スルモノナリ何トナレハ初ニ其繫留ニ深ク注意シ其路傍ニ横ルヲ能ハサル程ニ繫留スルキハ何ソ路傍ニ横ルノ虞アラソヤ然ルニ綱長クシテ路傍ニ横ルハ則チ其繫留ヲ忽ニシタルニ因スルモノナレハ其果ハ即チ此項ニ依リテ以テ罰セサル可カラズ

ニシテ人民自己ニ(或ハ濫リニ入ルヲ禁ス紙屑拾入
 ルヘカラス)等ノ如キモノニ非ラサルナリ
 論者或ハ言ハシ人民ノ榜示シタルモノト雖モ其レ
 ナ犯シテ濫リコ故ナク人ノ家屋其他ノ場所ヘ出入
 スルヲ好シトスルカ必スヤ其罪ナカルヘカラスト
 夫レ然リ然レモ人民家屋等ヘ故ナク入リタルモノ
 ハ榜示アルト否トニ關セス三種ニ分レ各罪アルモ
 ノナレハ此項ニ因テ罰スヘキモノニ非ス例ヘハ人
 民ノ住居スル邸宅トセンカ晝間故ナク入ルルハ第
 百七十二條ニ依テ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處
 セラルヘシ人民ノ住居セサル家屋(即チ明家ノ類)ト
 センカ晝間夜間ヲ問ハス第四百二十五條第十一項
 ニ依テ三日以上十日以下ノ拘留又ハ一圓以上一圓
 九十五錢以下ノ科料ニ處セラルヘキモノニシテ固
 ヨリ罪ナキニ非ラスト雖モ各依ル所アルヲ以テ本
 項ハ單ニ官署ヨリ出入ヲ禁止シタルモノト解スヘ
 キナリ

十 通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者

〔解〕

本項ハ主旨前項ニ同シ
 前項ハ官ヨリ榜示公告ヲ以テ出入ヲ禁止シタル
 場所ニ許可ヲ得ヌレテ出入シタルモノヲ云ヒ本項
 ハ道路橋梁修繕ノ爲メ人馬ノ通行ヲ禁止シタル榜
 示アルヲ犯シテ通行シタルモノヲ云フモノナリ
 且ツ此等榜示ヲ毀棄汚損シタルモノハ第四百二十
 七條第十六項ニ依テ罰セラルヘシ其各所ニ榜示シ
 タル禁條例ヘハ墨堤須崎堤等ニ於テ此枝折ルヘカ
 ラス又ハ此堤登ルヘカラストアルカ如キヲ犯シテ
 其枝ヲ折リ又ハ其堤ニ登リタルモ乙篇違警罪目第
 十六項ニ依リ罰セラルヘシ又其公園規則ニ關スル
 ハ本條第十七項ニ依テ罰セラルヘキモノナリ

道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル

〔解〕

本項ハ社會ノ風儀ヲ紊スニ至ルヲ豫防スルモノトス
放歌高聲ヲ發スルカ如キハ敢テ害ヲキモノ、如シト雖モ道路ニ於テ行々謠歌ヲ爲シ或ハ戯レニ高聲ヲ發スレハ他人ノ嚴肅ヲ害シ一般ノ風儀ニ關スルモノナリ故ニ直ニ之ヲ罰セサルモ警察官吏ヨリ一應之ヲ制止ヲ爲シテ肯ンセサレハ即チ此項ノ罪タリ

十二

酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者

〔解〕

本項モ亦社會ノ風儀ヲ紊スニ至ルヲ豫防スルモノトス
酒ヲ飲ミ醉ニ乘シテ路上ニ喧噪シ又ハ路上ニ醉臥シテ前後ヲ知ラサル者ノ如キハ特リ行人ノ妨害トナルノミナラス一般ノ風儀ニ關スルモノナレハ即チ此項ヲ以テ罰スル所ナリ

十三

路上ノ常燈ヲ消シタル者

〔解〕

本項ハ一般ノ便益ヲ害スルヲ防止スルモノトス
路上ノ常燈ハ人民一般ノ便益ヲ圖ル爲メ設クルモノナリ則チ風雨晦冥ノ夜ト雖モ之ニ因テ往來ヲ得ルモノニシテ其利益尠々ナラス然ルチ滅レニ路上ノ常燈ヲ消滅シ行人ヲ迷惑セシムルカ如キハ其罪ナカルヘカラス是レ此項ヲ以テ罰スル所以ナリ且ツ本項云フ所ハ消滅シタルモノヲ罰スルニ止マリ彼路上ノ常燈ヲ毀損シタルカ如キハ素ヨリ第四百二十七條第十五項ニ依テ罰セラルヘキモノトス蓋シ夜中常燈ヲ毀損スルハ多ク消滅スルモノナリ以テ二罪俱發ノ論ナキニ非ラス若シ果シテ二罪トセハ違警罪ハ各其刑ヲ科スルヲ元則トナスヲ以テ各刑ヲ科セサル可カラサルモノ、如シ然レモ實際ニ於テハ毀損シタルモノニ因テ罰スルモノナラシ

十四

人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者

〔解〕

本項ハ人ニ損害ヲ加フルヲ防止スルモノトス
人家ノ牆壁(門戸)モ包括等ニ徒ラニ貼紙ヲ爲シ若
クハ戯レニ樂書シタル者ハ現ニ人ニ損害ヲ加ヘタ
ル者ニ非サルカ如シト雖モ多少損害ナキニ非ラズ
故ニ其所爲タル戯レニ出ルト否トヲ問ハス罰スル
モノナリ

十五 邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他

報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者

〔解〕

本項ハ社會ノ便利ヲ害シ并ニ其所爲ヨリ人ニ損
失ヲ蒙ラシムルニ至ルヲ防止スルモノトス
公衆ノ見易ク且ツ知リ易キヲ欲スルカ爲メニ人々
其邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告
ノ榜示等ヲ設クルモノナリ然ルニ若シ是等ヲ毀損
スルカ如キハ其レカ爲メ他人訪問ノ際其人ヲ迷惑
セシムル僅少ナラサレハ固ヨリ罪ナカルヘカラス
是此項ヲ以テ罰スル所以ナリ就中賣家貸家等ニ至

リテ夫ヨリ生スル損害少シトセス例ヘハ甲者一ノ
家屋ヲ買ハントセシニ幸ビ乙者ノ家ニ賣家ノ貼紙
アルヲ以テ之ヲ買ハント後チ乙者ノ家ニ至リ見ル
ニハヤ貼紙ナキヲ以テ已ニ他ヘ譲リ渡シタルモノ
ト思考シ遂ニ賣買ノ約成テサルカ如ク貸家ニ於テ
モ亦同シケレハナリ

十六 他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉

ヲ採折シタル者

〔解〕

本項ハ盜罪ヲ犯スノ傾向アルヲ警ムルニ出ルモ
ノトス
田野ニ植付タル他人ノ菜菓又ハ園圃ニ培養シタル
他人ノ花卉等ヲ擅ニ之ヲ採食シ又ハ徒ラニ之ヲ採
折シタル者ハ其事柄稍盜ニ近シト雖モ其情ヲ察ス
ルニ負カニ輕シ仍テ之ヲ違警罪ニ問フモノトス
故ニ其菜實ヲ袖ニシテ去リタル片ノ如キハ即チ竊
盜ノ罪ヲ免レサルヘシ

十七

公園ノ規則ヲ犯シタル者

〔解〕

本項ハ社會一般遊樂スル所ノ風致ヲ紊スヲ防止スルモノトス

公園地ニハ必ス規則アリ之ヲ掲テ縦覽人ニ示セリ
例ヘハ樹木ニ登リ又ハ木石ヲ投クヘカラス〔上野公園
園揭示第十一〕一切ノ漁獵スヘカラス〔同第九〕ト掲ケ
アルニ濫リニ樹木ニ登リ又ハ木石ヲ投ケ又ハ漁獵
シタルキハ乃チ規則ヲ犯シタルモノナレハ此項ヲ
以テ罰スルモノトス

〔參照〕

明治九年十二月十八日甲第十三號布達
上野公園地内取締方ノ儀内務省ヨリ左ノ通揭示
相成候條爲心得此旨布達候事

第一 荷車等へ積載候モノ其餘總テ遊歩ヲ妨クヘ
キ物ヲ持テ園内ヲ通り抜ケスヘカラス
且葬式又ハ肥シ類等汚穢ノ物ヲ持テ公園内ヲ通
行スヘカラス但屏風坂通り山下通り及辨天前ヲ

- 通行スルハ苦シカラスト雖モ肥シ類ヲ持テ屏風坂通りヲ通行スルハ日没ヨリ日出マテ差許候事
- 第二 山林道路池溝等へ塵芥ノ類ヲ棄ツヘカラス
- 第三 猥ニ焚火花火等スヘカラス
- 第四 乞食ニ類似ノ者及諸藝ヲ以テ園内徘徊錢ヲ乞フ者立入ヘカラス
- 第五 木拾ヒノ者立入ヘカラス
- 第六 草木ヲ掘取リ又ハ木ノ實ヲ採リ枝ヲ折リ落タル枝葉ヲ拾ヒ或ハ土石ヲ掘取ヘカラス
- 第七 一切ノ漁獵スヘカラス
- 第八 車馬ハ車道ノ外人道及草原へ立入ヘカラス
- 第九 馬車人力車ハ兼テ差許シ有之場所ノ外へ屯集スヘカラス
- 第十 土手岸等へ登ルヘカラス
- 第十一 樹木ニ登リ又ハ木石ヲ投クヘカラス
- 第十二 草原腰掛等ニテ睡眠スヘカラス
- 第十三 園内遊歩ハ隨意タリト雖モ園内又

ハ制禁アル場所へ立入ヘカラス
右ノ條々堅ク可相守モノ也

十八 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入
レタル者

〔解〕

本項ハ他人ノ植付ケタル田圃ニ妨害アルヲ豫防
スルモノトス

通行スヘキ路ナキ他人ノ穀類菜菓ヲ植付タル田圃
ヲ故ナク通行シ若クハ牛馬ヲ牽入ル、此ハ其植物
ヲ踏荒スノ虞アレハ未タ妨害ヲ爲シタルト否トニ
關セズ罰スルモノトス

第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜
ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ
從テ處斷ス

〔解〕

本條ハ以上記載スル所ノ全國普通ノ違警罪ノ外
尙別ニ各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ア

ルヲ示スモノニシテ其立法權ノ一部ヲ地方官ニ
委任シタルモノナリ即チ東京ニ在テハ明治十四年
十二月二十八日警視廳甲第六十號布達ニシテ乙篇
ニ掲ケタルモノ是レナリ

行現違警罪注解乙編

龜山 貞 義 檢閱
富岡門前巡查屯所編輯

甲第六十號

違警罪目左ノ通改定來明治十五年一月一日ヨリ施行
候條此旨布達候事

明治十四年十二月二十八日 警視總監 樺山資紀

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留又
ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處セララルベシ

〔解〕

本條ハ甲編違警罪ノ種別ニ所謂第六種ノ罪ニシ
テ刑法第四百三十條ニ當テ嵌マルベキ即チ東京
地方ニ於テ便宜定ムル所ノ違警罪ナリ
本條一日以上十日以下ノ拘留又ハ五錢以上一圓九
十五錢以下ノ科料ニ處ストアレヒ其拘留ニ處シ又

一 街路取締規則ニ違背シタル者

ハ科料ニ處スルコト及ビ期ノ長短ヲ伸縮シ金ノ多寡ヲ増減スル等渾テ裁判官ノ權内ニアルモノトス且ツ其他加重減輕ノ如キハ甲篇各本條ニ於テ詳細解説スルヲ以テ茲ニ贅セズ

〔解〕

此規則ハ市街道路ノ取締ヲナス爲メ設クル所ノモノニシテ明治十一年一月十六日警視本署第五號布達即チ是ナリ今之ヲ參照ノ爲メ左ニ掲ケテ以テ看者ニ便ス

〔參照〕

明治十一年一月十六日警視本署第五號布達街路取締規則左ノ通相定候條此旨布達候事但從前ノ布達等本文ニ抵觸スル者ハ廢止ト可相心得事

街路取締規則

第一條 凡テ下水外ニ招牌標旗物干等建設スルヲ許サズ

〔解〕

本條下水外トアルハ地ノ繁閑ヲ問ハズ總テ公道ニ係ルヲ云フナリ但京橋以南ノ如キ人道車道區別アル場所ニ限り高サ一丈以上ハ軒先ヨリ二尺迄張出ストヲ得

本條中招牌トアルハ釣看板モ相同シ

第二條 街燈門又ハ檐先等ニ點燈ヲ設クルモ亦同

〔シ〕ヲ建設スルハ下水際ヨリ一尺迄ニ限ルベシ〔割註〕十六字ハ明治十一年十月廿四日本署甲第五十六號ヲ以テ追加但シ人道車道區別アル場所ハ此例ニアラズ

〔解〕

本條下水際トアルハ下水外際ヲ云フモノナリ且ツ街燈建設ニ付テハ明治十三年本署第三十一號達モアレハ本條ニ一尺迄ニ限ル可シト明文アルモ道幅廣クシテ妨害ナキ地ハ三尺迄妨ケナキモノトス

第三條 日除ケ張出シ及物品ヲ排列スルハ下水際〔人道車道區別アル場所ハ家屋土臺際〕ヨリ二尺迄

ニ限ルヘシ

〔解〕 本條下水際ヨリ二尺トアルハ前條註解ノ如ク下水外際ヨリ二尺ト知ルヘシ

下水幅ハ普通一尺ヨリ二尺迄ヲ云ヒタルモノ

ニ付キ其下水大幅ニテ止テ得ズ制限外ニ及フ

カ如キハ第六條第二項ノ手續ヲナスヘキナリ

本條若シ第六條第二項ノ場合ニ及フハ現地

調査ノ上酌量ヲ加ヘ許否スヘキモノトス

第四條 使用セサル荷車其他諸車ヲ置クハ檐下又

ハ垣根等ニ寄セ往來ノ妨害ヲナスヘカラス

〔解〕 本條ハ刑法第四百二十九條第二項ト少シク

相似タルカ如シ然レモ彼ノ刑法第四百二十九

條ノ如キハ使用中ノ牛馬諸車ヲ指スモノニシ

テ本條云フ所ハ使用セザル諸車ヲ指スモノナ

レバ看者幸ヒニ注意セヨ

第五條 街路ニ沿フタル地ニ薪炭其他物品ヲ積置

クハ高サ九尺以下ニ限ルヘシ但シ軒外ニ積出

スヲ許サス(但書ハ明治十一年三月廿三日本署

甲第二十三號ヲ以テ追加)

〔解〕 本條モ亦刑法第四百二十九條第二項ニ似タ

ルカ如シ然レモ彼條ニ在テハ木石薪炭等ヲ堆

積シテ往來人ノ妨害ヲナシタル場合ヲ云フモ

ノニシテ本條云フ所ハ街路ニ沿フタル地ノ檐

内等ニ積ニ置ク諸物件ノ高サヲシメタルモ

ノナレハ縦令未ダ往來人ノ妨害ヲナサハルモ

此制限ニ背キタルモ仍本條ノ罪アリトス

街路ニ沿フタル地トハ往來兩側ノ人家ニ連接

シタル空地又ハ其人家ノ中間ニアル地(即チ二

三戸乃至五六戸取崩シタル跡ノ地)ヲ云フ

第六條 左ノ諸件ニ於テハ其場ノ圖面ヲ添ヘ該所

轄ノ警視分署ヘ出願スベシ

一 第二條ノ建設ヲナサントスル者

一 第三條第五條ノ場合ニ於テ止ムテ得ズ制限

外ニ及フ者

- 一 街路ニ於テ荷拵又ハ木挽等ヲナサントスル者
- 一 工事ノ爲メ材木土石等ヲ街路ニ置キ或ハ板圍足場等ヲ設ケル者
- 一 家屋土藏等甲地ヨリ乙地ヘ引移ス爲メ街路ヲ通過スル者

〔解〕 本條第二項ノ場合トハ芝日蔭町通りノ如キ下水幅往來ノ過半ニ及ブ等ノ場所ヲ云フナリ且又凡テ各項ニ係ル願ハ所轄警察署ヘ差出スヘキモノトス

第七條 刪除本條ハ明治十三年三月廿四日甲第十

五號ヲ以テ削除
第八條 材木土石等運搬ノ節不得止一夜以上街路ニ停メ置クキハ其旨巡行ノ巡查ヘ申告スベシ但夜中ハ通行人ノ衝突セザル様目標ヲ建置クヘシ

〔解〕 本條ハ第六條第四項ノ類ナレモ彼四項ハ工事ノ爲メニ若干ノ日子ヲ累ルヲ以テ願出ルモノナリ本條ハ一時不得止ヨリ生スルモノニシテ數日ニ涉ラザル場合ナレバ巡行ノ巡查又ハ派出所ヘ申出ルノミトス

第九條 街路ニ沿フタル地ニ竹木ヲ貯フルハ必ズ鐵鎖又ハ繩索等ヲ以テ嚴ニ之ヲ纏繞シ頓仆セザル様注意スベシ

〔解〕 本條ハ第五條ト意相同シ彼條ハ薪炭等積置ク高サヲ制限シ以テ頓仆ノ危害ヲ豫防シ本條ハ竹木ノ如キ長大物ヲ貯ルニ鐵繩ヲ掛ルヲ命スルモノニシテ同ク頓仆ノ危害ヲ防キタルモノトス蓋シ之ヲ怠ルキハ實ニ人命ヲモ害スヘキニ至ルノ恐レアレハナリ

街路ニ沿フタル地ノ解ハ第五條ニ解クヲ以テ茲ニ再說セズ

第十條 家屋垣牆等朽腐壞敗シ又ハ瓦石ノ墜落セシトスル危險ノ虞アル者ハ速ニ修補又ハ改造スヘシ

〔解〕 本條ハ刑法第四百二十五條第六項ニアル處
ノモノナレハ本條ニ在テハ唯所有主ニ督促ヲ
加フルヲ以テ此項ノ主意トス

第十一條 屋上又ハ檐端等ニ物品ヲ積載スルキハ
墜落セサル様防禦ヲ嚴ニスベシ

〔解〕 本條ハ第五條第九條ト意相同シ單ニ危害ヲ
防クニアルナリ

第十二條 第三條第四條第八條第九條第十條第十
一條ノ場合ニ於テハ通行ノ妨碍トナルヘキ者又
ハ墜落ノ虞アル者ハ直ニ取除カシムルコアルヘ
シ

〔解〕 本條ハ右六ヶ條ノ場合ニ於テ猶豫スヘカラ
サル時ト見認ムルキハ行政警察權ヲ以テ目前
ニ取除シム蓋シ一人ノ不利益公衆ノ利益トナ
レハナリ
本條通行ノ妨碍トナルヘキ者トハ三四八ノ三
ヶ條ヲ云ヒ墜落ノ虞アル者トハ九十一ノ三

ヶ條ヲ云フナリ

第十三條 免許ヲ得ズ猥リニ床店簀張ヲ建設シ又
ハ人寄ヲナシ通行ヲ妨クヘカラズ

〔解〕 本條床店簀張ハ場所ニヨリ許ス可キ地ト許
スヘカラザル地トアリ故ニ是等床店ヲ開ント
欲セハ必ス先ツ所轄警察署ノ允許ヲ經サルヘ
カラス然ルチ其手續ヲナサスシテ自ラ擅ニ之
ヲ開キ又ハ人寄ヲナシタルモノヲ云フ但之ニ
違背シタルモノハ刑法第四百二十七條十四項
ニ依テ罰セラルヘシ

第十四條 諸荷物ヲ負擔シ休憩スルハ路傍ニ避ケ
通行ヲ妨クヘカラス

第十五條 街路中央ニ佇立シ或ハ小兒ヲ放歩セシ
ムヘカラス

〔解〕 兩條別ニ解チ要セス唯一言スヘキハ一應
説諭ヲ加ヘ承伏セザル者ヲ罰スルナリ
本條中小兒トアルハ七年未滿ヲ云フ

第十六條

紙鳶ヲ揚ケ羽子ヲツキ及ヒ獨樂〔手毬〕ヲ
蕪弄シテ通行ノ妨ヲナスヘカラズ

〔解〕

本條モ亦前兩條ニ同シ但シ承伏セサル者ハ
刑法第四百二十九條第七項ノ明文ニヨルヘキ
モノナルヲ以テ本條ハ唯說論ヲ加ルニ止マル
モノトス且ツ其紙鳶ヲ飛シ電信線其他電機ニ
屬スル物品ヘ紙鳶又ハ其附屬ノ糸等ヲ引掛ケ
タルモノハ固ヨリ此項ヲ以テ罰スルノ限ニ非
ラズ則明治七年太政官九十八號布告電信條例
ニ因テ罰セラルヘキナリ

〔參照〕

電信條例第八條何人ニテモ電信線ノ近傍ニ
テ紙鳶ヲ飛シ信線陶器腕木柵木支凸ヘ紙鳶又
ハ其附屬ノ糸ヲ引掛ルモノハ十圓ヨリ多カラ
サル罰金又ハ七日ヨリ長カラサル懲役又ハ禁
獄ニ處ス

第十七條

車馬道區畫中ハ假車馬道ヲ除クノ外往
來ヲ爲スヘカラズ

〔解〕

本條モ亦前條ニ同ク說論ヲ加ヘ承伏セサル
者ニ限リ罰スヘキナリ

第十八條

下水外ヘ家作孫庇等ヲ張出ス可ラス未
タ下水ヲ設ケサル場所ニ在テハ各私有地ノ經界
ヨリ道式二尺〔曲尺〕迄ヲ限リ假リニ下水地ト看倣
スヘシ但シ明治七年一月第四號東京府達以前ノ
建設ニ係ルモノハ此限リニアラズ

〔解〕

本條ハ前條等ノ如キ說論ヲ加フルヲ用ヒズ
直ニ刑法第四百二十七條第十三項ニ依テ罰ス
ヘキモノトス且ツ明治七年一月第四號東京府
達トハ同年一月十八日區戶長ヘノ達ニシテ即
チ左ノ如シ

〔參照〕

府下各區町々ニ寄庇地ト唱ル餘地有之場所
家作建改候カ或ハ燒失及ビ候節ハ前規ノ通下
水際ヨリ引下ケ家屋補理可致從前庇地無之町
々並舊土地ニテ開店ノ爲メ新規家作ハ在來下
水際ヨリ三尺引下ケ本家取建三尺通りハ庇補

二 火葬場取締規則ニ違背シタル者

理候様可致事舊土地ニテ從前長屋等貸店ニ取
繕ヒ候分ハ土臺内凡三尺庇地ト相心得沓脱土
間ヲ取退テ再建致シ候節ハ前同様心得可申事
右ノ趣區々無洩可觸知者也

〔解〕

本條ハ死屍ヲ火葬スル場所ノ取締ヲナスタメ設
ケル所ノ規則ニシテ明治十三年九月三日警視本
署甲第三十五號布達是ナリ今之ヲ左ニ掲ケテ以
テ參照ニ供ス

〔參照〕

明治十三年九月三日警視本署甲第三十五號布達
火葬場取締規則左ノ通り相定候條此旨布達候事

火葬場取締規則

第一條

火葬場ハ現在ノ五ヶ所ヲ以テ定限トス

〔解〕

本條ハ火葬場ノ員數ヲ示シタルモノナリ規
則ニ於テハ左ノ五ヶ所ヲ以テ定限トス

- 一 南豐島郡上落合村
- 二 同郡代々木村

- 三 北豐島郡千住南組
- 四 南葛飾郡砂村新

- 田 五 荏原郡桐ヶ谷村

若シ此定限外ノ場所ニ於テ火葬シタルキハ即
チ此ノ項ノ罪ナリ

第二條 火葬場主ハ郡區長ノ與印ヲ受ケ警視本署
ヘ願出免許鑑札ヲ受シヘシ

〔解〕

本條ハ場主ノ免許鑑札ヲ受シヘキヲ示シ
タルモノニシテ其手續ハ郡ニ在テハ郡長區ニ

在テハ區長ノ與印ヲ經警視廳ヘ願出ルナリ

第三條 火葬場ヲ讓渡サントスル者ハ讓受人連印
ノ上第二條ノ手續ヲ以テ願出ヘシ

〔解〕

本條ハ甲ヨリ乙ヘ讓渡サントスルキハ如何
ナル手續ヲナスヘキモノナルヤヲ定ルモノナ

リ則チ此規則ニ於テハ甲乙連印ノ上郡長若ク
ハ區長ノ與印ヲ經テ同ク警視廳ヘ願出ルモノ

トス

第四條 火葬ヲナサントズルキハ郡區役所戶長役

場ヨリ授與スル埋葬證書ヲ閱シ而シテ後執行スヘシ若シ該證書ヲ所持セサル者ハ火葬スルヲ許サズ但本條ノ場合ニ於テハ速ニ所轄警察署ヘ申告スヘシ

〔解〕本條若シ埋葬證書ヲ所持セサル者ヲ火葬スルヲ許スルハ或ハ變死等不正ノ死ヲモ官ノ檢視ヲ經ズ竊ニ之ヲナスノ弊ナキヲ保シ難シ故ニ不正ニ非ラサルヲ證明スルノ埋葬證書ヲ所持スルモノニ非ラサレハ之ヲ許サ、ルナリ本條ノ場合ニ於テハ云々本條ト指スルハ本文全體ニ係ルハ論ヲ待タサレ此但書ノ精神ハ若シ該證書所持セサル者ハ以下ノ文ヲ指シタルモノト解釋スヘキナリ若シ否ラサルハ假令證書ヲ所持スルモノヲモ申告セサルヲ得サレハナリ

第五條 火葬時間ハ午後第八時ヨリ午前第五時ヲ限リ執行スヘシ但傳染病流行ノ際ハ此限ニ在ラ

三 畜犬規則ニ違背シタル者

〔解〕本條ハ犬ヲ畜フニ付取締ノ爲メ設クル所ノ規則ニシテ明治十四年五月十八日警視廳甲第二十七號布達即チ是ナリ尤モ本條單ニ畜犬規則トアルニハ恐クハ明治六年四月二日東京府卅第四十九號達ト見解ヲ下タス者ナキニ非ラズ然レモ右達ノ如キハ警視廳ノ達出ツル上ハ自ラ消滅シタルモノナレ

〔解〕本條ハ晝間火葬ヲ許サ、ルノ正則ヲ示スモノナリ但惡疫流行等ノ際ハ此ヲ例外ニ置ク

第六條 火葬場構造ノ改良及位置ノ更換等時機ニヨリ命スルヲアルヘシ

〔解〕本條ハ解ヲ要セズ

第七條 烟筒及ヒ火葬場等ハ不潔ナキ様時々掃除ヲナスヘシ

〔解〕本條ハ專ラ健康ヲ保護スルニ出ルモノトス

〔参照〕

ハ本文畜犬規則トアソレ宜ク取締ノ二字ヲ挿入シ
畜犬取締規則ト解釋スヘキナリ

明治十四年五月十八日警視廳甲第二十七號布達
畜犬取締規則左ノ通改定來ル七月一日ヨリ施行
候條此旨布達候事

第一條 畜犬取締規則

又ハ牌子ヲ付ケ置クヘシ
第一條 畜犬ハ其主ノ住所姓名ヲ詳記シタル頸環

〔解〕

本條ハ他人ヲシテ其畜主アルヲ明瞭ナラシ
ムル爲メ其章ヲ付ケ置クモノナリ若シ否ラス
シテ路上ニ徘徊セシムルハ第五條ノ場合ニ
至ルヲ以テ其怠惰ヲ懲戒スルカタメ之ヲ罰ス
ルモノトス

第二條 畜犬傳染病ニ罹リタル兆候アルカ又ハ狂

猛ニシテ人畜ヲ傷害スルノ虞アル者ハ畜主ニ於
テ嚴ニ之ヲ繋留シ逃走ノ患ナカラシムヘシ但シ
傳染病ノ兆候アルハ速ニ所轄警察署ニ届出ツ

〔解〕

本條傳染病ノ兆候アルヲ捨テ置クハ其害
蔓延ノ虞アレバ速ニ届出ルモノナリ然ルヲ等
閑ニ附シ届出サルハ即チ此條ヲ以テ罰スル者
トス又狂犬ノ繋留ヲ怠ルハ人畜ヲ害スルノ
虞アレバ最モ注意セザルヘカラス故ニ若シ之
ヲ路上ニ放チタルハ刑法第四百二十六條第
八項ニ依ルヘキモノナリ

第三條 警視廳ハ其傳染病タルヲ確認スルハ畜

主ト警察官吏ト立會ノ上之ヲ撲殺セシムルヲ
ルヘシ但シ撲殺シタルモノハ之ヲ燒棄セシム

〔解〕

本條ハ前條但書ヨリ引續キタルモノニシテ
其傳染病タルヲ確認スルトハ届出テアリテ而
シテ後果シテ其病タルハ云フモノニシテ且
其畜主ニ於テ之ヲ惜ムノ情ナキニ非ラズ然レ
モ一人ノ不利益公衆ノ利益ナレハ之ヲ撲殺シ
尙餘害ノアラナイヲ恐ル、ユヘ之ヲ燒棄スル

モノトス但届出ナキト雖モ巡行巡查等ニ於テ其傳染病タルヲ確認スルモ亦同シ尤モ外國人ノ所有等ニ係ルルハ豫メ本廳ノ認可ヲ得ヘキナリ

第四條 畜犬ヲ失ヒ之ヲ求ント欲スル者ハ其大小

毛色種類等ヲ詳記シ所轄警察署ニ届出ツヘシ

〔解〕 本條若シ届出テサルキハ畜主ナキモノト見

做シ第六條ノ處分ヲナスモ後日請求ヲナスヲ

得ス蓋シ自ラ其畜主タルノ權ヲ抛棄シタルモ

ノナレハナリ

第五條 警視廳ハ無標ノ犬ノ徘徊スルヲ捕ヘ廳内

ノ獸欄ニ入レ置キ一週間畜養セシム

〔解〕 従前ニ在リテハ無標ノ犬ハ之ヲ撲殺スルヲ

ナ得タリシカ此規則ノ設ケアリシヨリ以後ハ

濫リニ撲殺スルヲ得サルナリ必ス之ヲ捕ヘ本

廳第二局ニ送付スルモノトス

警視廳ニハ獸欄ノ設ケアリ入欄ノ順次ヲ以テ

番號札ヲ付ス蓋シ無標ノ犬ヲ撲殺セサルハ第

六條ノ手續ヲ爲スヲ得ルヲ以テナリ

第六條 前條ノ迷犬其主之ヲ請フ者アレハ一日ニ

付金二十五錢ノ養料ヲ拂ハシメ後之ヲ還付ス若

シ其一週間内ニ請フ者ナキハ警視廳ニ於テ之

ヲ賣却シ以テ養料及ヒ獸欄修繕等ノ費ニ充ツ

〔解〕 本條別ニ解ヲ要セズ

四 馭者馬丁又ハ人力車輓等取締規則ニ違背シタル者

〔解〕

本條ハ馭者或ハ馬丁若シハ人力車輓等ニ於テ其取締ノ爲メ設ケアル規則即チ明治十四年十二月

七日警視廳甲第五十二號布達及ビ明治十四年十二

月十九日甲第五十五號布達ニ背キタルモノヲ罰ス

ルノ條件ナリ假令ハ馭者馬丁ニ在リテハ定限外ニ

容テ乗セ(第七條)或ハ約束外ノ賃錢ヲ請求シ(第十九

條)或ハ夜中燈火ナクシテ疾驅スル(第廿六條)等是ナ

〔參照〕

リ人力挽ニ於テモ亦同シ假令ハ制止ヲ肯セズ人ノ
群集スル場所ニ挽キ入レ(第十五條)或ハ街燈ナキ地
ニ於テ夜中燈火ナクシテ車ヲ疾驅スル(第二十一條)
等是ナリ今之ヲ左ニ掲ケテ以テ參照ニ供ス

明治十四年十二月十九日警視廳甲第五十五號布
達

馬車取締規則左之通改正來ル明治十五年一月一日
ヨリ施行候條此旨布達候事
但從前營業者ハ右規則ニ照準シ鑑札受取方願出
ベシ

馬車取締規則

第一條 乘合馬車貸馬車荷馬車ノ營業ヲ爲サント
スル者及ビ乘合馬車ノ馭者馬丁タルベキ者ハ第
二號書式ニ準シ區ハ區長郡ハ戶長ノ與印ヲ受ケ
警視廳ニ願出鑑札ヲ受クベシ但廢業ノ節ハ鑑札
ヲ所轄警察署ニ返納スベシ
〔解〕 本條ハ營業者ノ鑑札出願方及ビ廢業鑑札返

納方ヲ定ムルモノナリ(其書式ハ末ニ示ス)本條
鑑札下附シタル人名ハ其都度第一局ヨリ所轄
警察署ニ報告アルモノニ付警察署ニテハ之ヲ
保存シ廢業届出タルモ之ヲ記入ス可キモノ
トス(報告ノ人名表ハ末ニアリ)且ツ返納シタル
鑑札ハ第八條ノ檢査證ト共ニ一ヶ月分取リ纏
メ翌月三日迄ニ第一局ニ送ルモノナリ

〔解〕

巧拙ヲ檢査シ許否スルモノトス

第二條 馭者ハ滿二十歳以上タルヘシ但シ技術
巧拙ヲ檢査シ許否スルモノトス

〔解〕

巧拙ニ在リテハ此條ヲ適用スルノ限リニアラズ

第三條 轉居改姓名及ビ鑑札ヲ遺失若クハ毀損シ
タルモノハ第三號書式ニ準シ第一條ノ手續ヲ以
テ更ニ鑑札ヲ受クベシ尤モ轉居改姓名ヲ除クノ
外區戶長ノ與印ヲ要セズ
〔解〕 本條ハ營業中ノ者ニシテ事故ノ爲メ更ニ鑑

札書換へ又ハ下渡ヲ出願スルノ條件ナリ茲コ
其手續ニ様アリ一ナ書換願(轉居改名)一ナ下
渡願(遺失毀損)トス而シテ其書換願ニ在リテハ
區戸長ノ與印ヲ要シ下渡願ニ在リテハ與印ヲ
要セザルナリ

第四條

馭者馬丁ハ鑑札ヲ顯帶シ何人ニ限ラズ要
用ノ場合ニ於テ見ノヲ求ルルキハ之ヲ示スベシ

[解]

第五條

鑑札ヲ貸借シ及ビ檢印ヲ轉用スベカラズ
本條ハ別ニ解ヲ要セズ

[解]

第六條

札ヲ借リテ營業ヲナスモノ及ビ之ヲ知リ鑑札
ヲ貸シ營業ヲナスモノ及ビ檢印ヲ轉シ
用ルモノヲ禁スルノ條件ナリ

第六條

乗合馬車ハ其所有主ノ住所姓名及ビ乗客
ノ定員ヲ記シタル木札(長七寸)ヲ車體後面見易キ
所ニ釘付スヘシ

[解]

第七條

定員ヲシテ警察官吏及ビ乗客等ニ見易キ爲メ
木札ヲ付着スルモノニシテ第十二條ノ賃錢表
ヲ付着スルモ亦定限外ノ賃錢ヲ貪ラザル爲メ
ナリ

第七條

乗合馬車ノ構造及ビ乗客定員ハ左ノ各項
ニ從フベシ

一 四輪ニシテ運轉自在且堅牢ナルモノ但シ屋
上ニ客坐ヲ具ルヲ得ズ

二 腰掛臺巾壹尺壹寸以上ヲ以テ一人ノ度トス

三 乗合馬車ハ馬壹匹ニ付乗客六人ヲ以テ限リ
トス

四 乗客十歳未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做
シ保護人アル三歳未滿ノ者ハ定員外トス

[解] 本條第一項ニハ馬車構造方ヲ定メ第二項ニ
ハ腰掛臺ノ程度ヲ定メ第三項ニハ乗客ノ定限
ヲ定メ第四項ニハ一人ト稱スルハ何年以上ナ
ルヤヲ定ムルモノトス此規則ニ於テ一人ト稱

スルハ滿十年以上ノ者ヲ云フ而シテ滿三年以
上十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做スナ
リ假令バ大人四人十年未滿ノ者四人三年未滿
ノ者二人乗ルル都合十人ナルモ之ヲ定員タル
六人ト看做スチ得ルノ類

第八條 乗合馬車ノ車體并ニ馬匹ハ毎月一回(日割

ハ第四號表ニ依ル)警視廳ニ於テ檢査ノ上其證ヲ
付ス廢業ノ節ハ之ヲ所轄警察署へ返納スヘシ又
主務官吏ヲ派シテ臨時檢査セシムルコトアルヘシ
但檢査定日事故アリ不參ノモノハ其旨届出指揮
ヲ受ク可シ尤モ當日大祭祝日ニ當ルルハ其次日
〔日曜日ナレハ順延〕ヲ以テス

〔解〕 本條ハ車體馬匹ノ第九條ニ觸ル、ヤ否ヤチ
檢査シ以テ公衆乗客ノ安全ヲ保護スルノ精神
ニ出ルモノトス而シテ其檢査ヲ受ケタル馬匹ノ
檢査證ハ其馬ニ附着シ車體ノ檢査證ハ馭者携
帶シ居ルモノナリ

又廢業ノ節返納シタル檢査證ハ第一條ノ鑑札
ト共ニ一月分取纏メ翌月三日迄ニ第一局へ送
ルモノナリ

但書中尤當日大祭祝日ニ當ルルハ其次日ヲ以
テストアリテ若シ其次日日曜日ナルキハ順延
アル故又其次日即チ月曜日ヲ以テスヘキナリ
〔例〕ハ本年二月ノ如キハ京橋麻布本郷深川

四區檢査日タル即チ第二土曜日ハ十一日ナリ
然ルニ十一日ハ紀元節ニ當ルヲ以テ其次日十
二日トナス十二日ハ日曜日ナリ又其次日十
三日トナス十三日月曜日ニ至リ麴町日本橋ノ兩區
ト同日ニ行フノ類

第九條 檢査上左ノ二項ニ觸ル、モノハ其使用ヲ
許サス

- 一 車體脆弱ニシテ危險ノ虞アルモノ
- 二 馬匹疾病毀傷其他衰弱シテ馳驅ニ耐ヘスト
思量スルモノ

〔解〕 本條ハ第八條ニ説クヲ以テ茲ニ贅セズ
第十條 定期検査ヲ受ケサル車馬ハ使用スルヲ許
サズ但検査證ハ馭者常ニ携帯スヘシ

〔解〕 本條別ニ解ヲ要セズ唯一言ス可キハ但書中

唯検査證トアルヲ以テ恐クハ車體及ヒ馬匹ト

モ包含スルモノト見解ヲ下タスモノナキニ非

ズ然レモ馭者ノ携帯シ居ルヘキハ車體ノ検査

證ノミニシテ馬匹ノ検査證ハ必ズ馬ニ附着ス

ヘキナリ〔處分手續第四條〕

第十一條 乗合馬車ノ立場ハ其地ノ圖面ヲ以テ警

視廳ヘ出願允許ヲ受クヘシ但立場ノ掃除ハ該營

業人ノ負擔トス

〔解〕 本條立場トアルハ乗客待合所ヲ云フモノナ

第十二條 賃錢ハ警視廳ノ認可ヲ受ケ車中見易キ

所ニ之ヲ表記スヘシ

〔解〕 本條ハ第六條ニ説クヲ以テ茲ニ贅セズ

第十三條 車内ニ遺留品アルハ其主分明ナルハ

ハ之ヲ還付シ然ラザレバ直ニ警察署ニ届出ツヘ

シ

〔解〕 本條ハ之ニ違背スルモ違警罪ヲ以テ罰スヘ

キノ限リニ非ス即チ刑法第三百八十五條ニ依

リ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處スルカ又

ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處セラレベシ

第十四條 傳染病或ハ瘋癲又ハ亂醉者ト看認ムル

ハ乗車セシムヘカラズ若シ乗客中傳染病者ア

ルハ速ニ最寄警察署若シハ巡查屯所同派出所

又ハ巡行巡查ヘ届出ツヘシ

〔解〕 本條ハ專ラ他人ニ危難アラントシテ豫防スル

主旨ニ出ルモノトス

第十五條 往來雜沓ノ場所若シハ街角橋梁ヲ通過

スルハ徐行シ且ツ懸ケ聲ヲナスヘシ

〔解〕 本條ハ單ニ危難ヲ避ケルニ在リトス

第十六條 軍隊及ビ車馬ニ行逢フハ左方ニ避ケ

坂路ハ上リ車之ヲ避クヘシ尤モ郵便馬車ニ行逢
フキハ殊ニ避讓ニ注意スヘシ
〔解〕本條ハ一ハ危難ヲ避クルニ出デ一ハ行軍及
ビ郵便馬車ニ妨害ヲ與ヘサルヲ防止スルモノ
トス

第十七條 前車徐行シ後車疾行スルキハ後車懸ケ
聲ヲ爲スヘシ前車ハ便宜之ヲ避ケ後車ヲ通過セ
シムヘシ

〔解〕本條ハ第十五條ノ註解ニ同シ
第十八條 行人ニ對シ強テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢無
禮ノ言行ヲ爲スヘカラズ

〔解〕言行トハ言語動作ヲ云フ
第十九條 約束外ノ金錢ヲ請求スヘカラズ
〔解〕本條ハ約束ノ金額ヲ證明スルキニ非レハ容
易ニ判定スル能ハス故ニ證左ナクシテ相爭フ

〔解〕本條ハ單ニ疾驅スルモ未タ行人ノ妨害ヲナ
サハル前之ガ制止ヲナスニ止マリ若シ行人ノ
妨害ヲナシタルキハ刑法第四百二十七條第一
項ニ依テ罰セラルヘシ

且ツ本條ハ濫リニノ字眼目チリ故ニ街角橋梁
等ヲ徐行スルニ當リ偶然人アリ衝突シタル等
違警罪ヲ以テ論セサルナリ

第廿一條 濫リニ狹隘ノ小路ヲ疾驅スヘカラス
〔解〕本條狹隘ノ小路トハ馬車馳驅ス際行人左右
ニ避クルノ餘地ナキ場所ヲ云フ

第廿二條 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所
ニ入ル可ラス
〔解〕本條ハ制止ヲナスニ止マリ若シ肯ンセサル
キハ刑法第四百二十七條第二項ニ依リ罰セラ
ルヘシ

第廿三條 出火場三町以内ニ入ル可ラス
〔解〕本條ハ別ニ解ヲ要セス